

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第153集

野沢館跡Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ

長野県佐久市野沢字下木戸・居屋敷野沢館跡Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ発掘調査報告書
(中世・近世)

2008.3

長野県佐久建設事務所
佐久市教育委員会

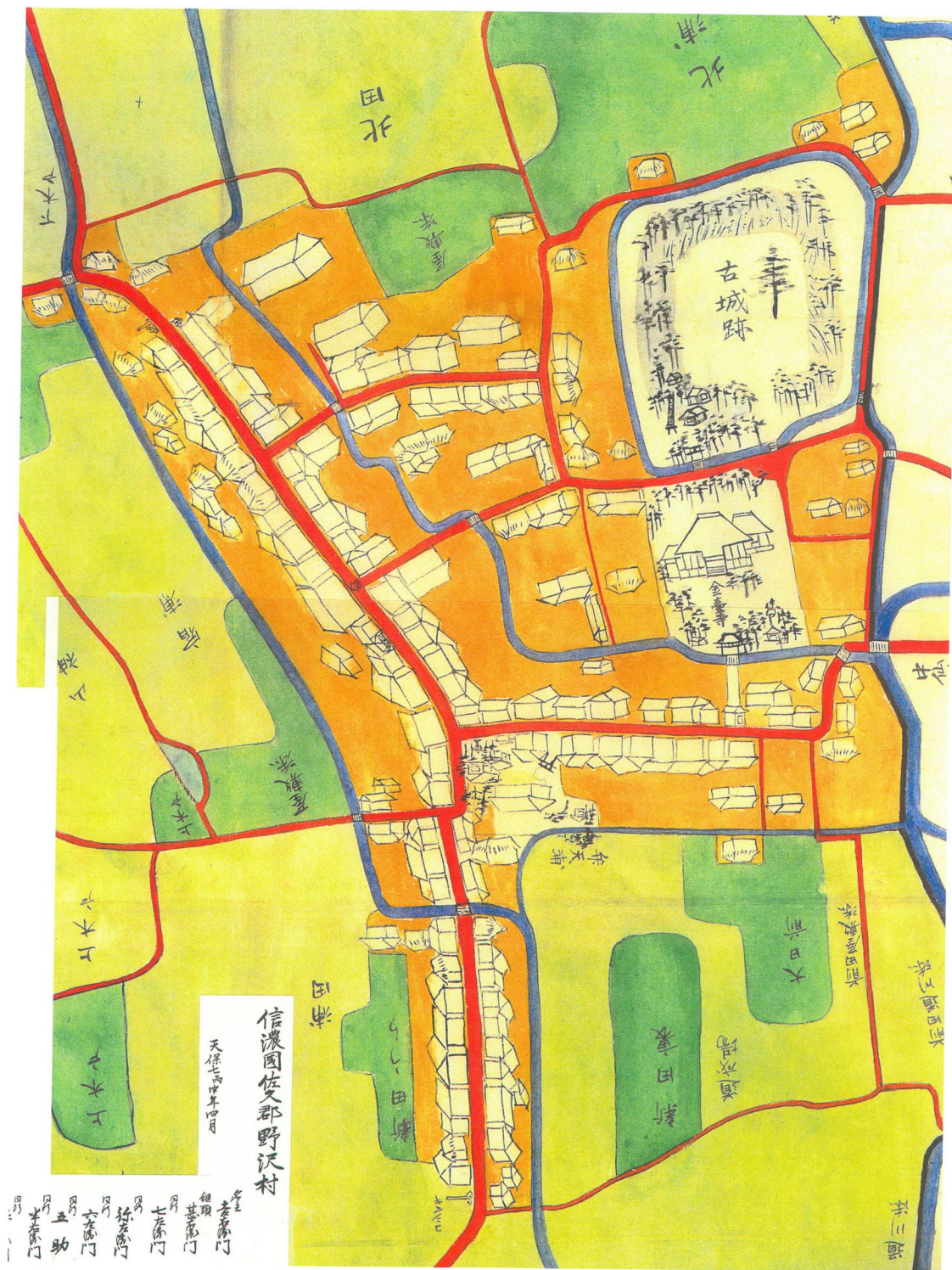
佐久市埋蔵文化財調査報告書 第153集

野沢館跡Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ

長野県佐久市野沢字下木戸・居屋敷野沢館跡Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ発掘調査報告書
(中世・近世)

2008.3

長野県佐久建設事務所
佐久市教育委員会



天保7年（1836）「野沢村絵図」 木村珠樹氏蔵（模写）



野沢館跡航空写真

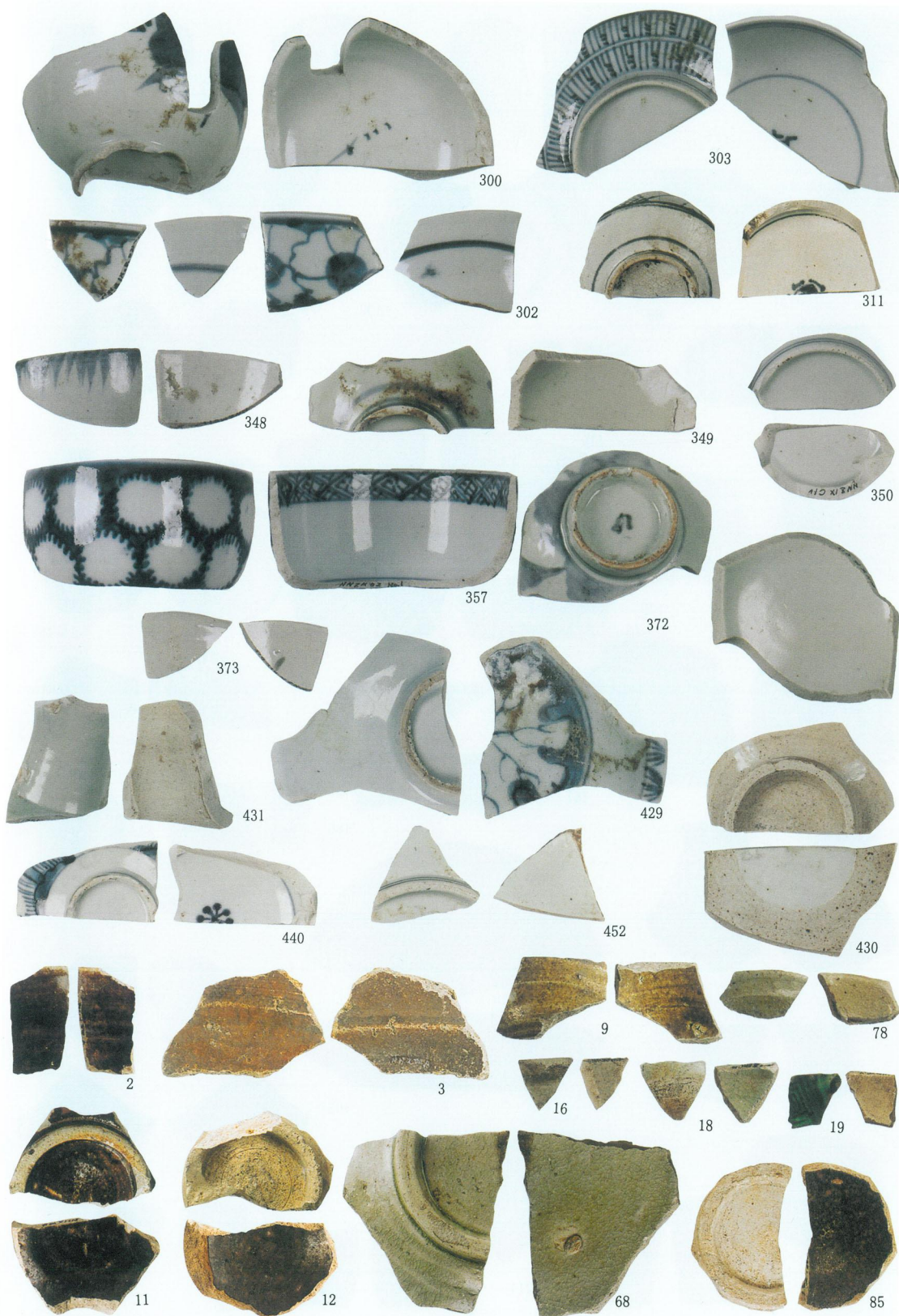
(H14年度「野沢館跡Ⅳ」調査時の写真。手前の道路が今回の調査の「野沢館跡Ⅶ・Ⅸ・Ⅹ」調査地点である。)



中世陶磁器・内耳・からわけ



近世磁器 染付伊万里 (1)



近世磁器 染付伊万里 (2) 近世陶器 瀬戸・美濃・唐津 (1)



近世陶器 瀬戸・美濃・唐津 (2)

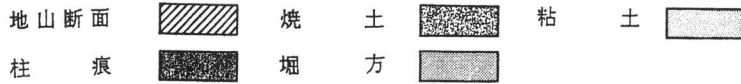
例 言

1. 本書は平成17～19年度の県単緊急地方道路整備事業－取出中央線－工事に伴う拡幅部分の発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、佐久市教育委員会文化財課が実施した。
3. 本書に掲載した地図は、国土地理院発行の地形図(1:50,000)・佐久市発行の基本図(1:2,500)を使用した。
4. 発掘調査は林幸彦・森泉かよ子が担当し、本書の執筆・編集は森泉かよ子が行った。
5. 本報告書の陶磁器の分類・年代については、(財)長野県埋蔵文化財センター 市川隆之氏にご指導して戴きました。
6. 本遺跡の遺物等の資料は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

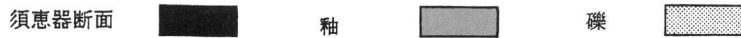
凡 例

1. 遺構の略号は次の通りである。
Ta－竪穴状遺構、D－土坑、P－単独ピット、M－溝址・暗渠
2. 挿図中の遺構の縮尺は原則として1/80である。異なる場合は図中に明記してある。
3. 挿図中の遺物の縮尺は土器・陶磁器1/4、石製品1/6である。異なる場合は図中に明記してある。
4. 挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

遺構



遺物



5. 遺物一覧表の()は推定、〈 〉は残存値、－は計測不能を表している。
6. 遺構一覧表の()は推定、〈 〉は残存値、－は計測不能を表している。
7. 陶磁器の「椀」・「碗」は陶器を「椀」・磁器を「碗」に統一した。
8. 図版中の遺物写真は約1/4である。図版十七からの石製品の縮尺は約1/8である。異なる場合は版中に明記してある。

目 次

卷頭図版
例 言
凡 例
目 次

第I章 発掘調査の概要	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査組織	2
第3節 調査日誌	2
第4節 検出遺構・遺物の概要	4
第II章 遺跡の立地と環境	6
第1節 自然環境	6
第2節 歴史環境	7
第3節 野沢館跡の歴史背景	7
第III章 基本層序	11
第IV章 遺構と遺物	12
第1節 野沢館跡Ⅶ	13
第2節 野沢館跡Ⅸ	26
第3節 野沢館跡Ⅹ	50
第V章 総 括	56
引用参考文献	60
付表	61
写真図版	

挿図目次

第1図	野沢館跡Ⅶ～Ⅹ位置図(1:50,000)・・・	1	第31図	第15トレンチ(2)・・・	36
第2図	野沢館跡Ⅶ～Ⅹ発掘区設定図・・・	5	第32図	第15トレンチ(3)・・・	37
第3図	野沢館跡既調査区位置図(1:50,000)・・・	5	第33図	第16・17トレンチ(1)・・・	38
第4図	千曲川概念図・・・	6	第34図	第16・17トレンチ(2)・・・	39
第5図	周辺遺跡分布図・・・	8	第35図	第18トレンチ(1)・・・	40
第6図	野沢原両村絵図・・・	10	第36図	第18トレンチ(2)・・・	41
第7図	基本層序模式図・・・	11	第37図	第18トレンチ(3)・・・	42
第8図	野沢館跡Ⅶ全体図(1:500)・・・	12	第38図	第19・20トレンチ(1)・・・	43
第9図	第1トレンチ・・・	13	第39図	第19・20トレンチ(2)・・・	44
第10図	第2トレンチ(1)・・・	14	第40図	第19・20トレンチ(3)・・・	45
第11図	第2トレンチ(2)・・・	15	第41図	第21トレンチ(1)・・・	46
第12図	第3(1)・4トレンチ・・・	16	第42図	第21トレンチ(2)・・・	47
第13図	第3トレンチ(2)・・・	17	第43図	野沢館跡Ⅹ全体図・・・	49
第14図	第5・6トレンチ・・・	18	第44図	第22トレンチ・・・	50
第15図	第7トレンチ(1)・・・	19	第45図	第23・24トレンチ(1)・・・	51
第16図	第7トレンチ(2)・・・	21	第46図	第23・24トレンチ(2)・・・	52
第17図	第7トレンチ(3)・・・	22	第47図	第25トレンチ(1)・・・	52
第18図	第8・9トレンチ(1)・・・	23	第48図	第25トレンチ(2)・・・	53
第19図	第8・9トレンチ(2)・・・	24	第49図	第26トレンチ・・・	54
第20図	野沢館跡Ⅸ全体図(1:500)・・・	25	第50図	第27トレンチ・・・	55
第21図	第10トレンチ・・・	27	第51図	野沢館跡周辺の堀と水路・・・	57
第22図	第11トレンチ(1)・・・	27	第52図	居屋敷全図・・・	58
第23図	第11トレンチ(2)・・・	28	第53図	居屋敷全図と佐久市都市計画図・・・	59
第24図	第12トレンチ(1)・・・	29			
第25図	第12トレンチ(2)・・・	30			
第26図	第13トレンチ(1)・・・	31			
第27図	第13トレンチ(2)・・・	32			
第28図	第14トレンチ(1)・・・	33			
第29図	第14トレンチ(2)・・・	34			
第30図	第15トレンチ(1)・・・	35			

付表目次

第1表	野沢館跡既調査区一覧表・・・	5
第2表	野沢館跡周辺遺跡一覧表・・・	8
第3表	野沢館跡Ⅶ遺物一覧表・・・	61
第4表	野沢館跡Ⅸ遺物一覧表・・・	66
第5表	野沢館跡Ⅹ遺物一覧表・・・	74
第6表	野沢館跡Ⅶ遺構一覧表・・・	76
第7表	野沢館跡Ⅸ遺構一覧表・・・	78
第8表	野沢館跡Ⅹ遺構一覧表・・・	81

図版目次

- 巻頭図版一 天保7年(1836)「野沢村絵図」
巻頭図版二 野沢館跡航空写真
巻頭図版三 中世陶磁器・内耳・かわらけ
巻頭図版四 近世磁器 染付伊万里(1)
巻頭図版五 近世磁器 染付伊万里(2)、近世陶器 瀬戸・美濃・唐津(1)
巻頭図版六 近世陶器 瀬戸・美濃・唐津(2)

- 図版一 かわらけ・内耳(1)
図版二 かわらけ・内耳・播鉢(2)
図版三 かわらけ・内耳(3)
図版四 かわらけ・内耳(4)
図版五 近世陶器 瀬戸・美濃・唐津(3)
図版六 近世陶器 瀬戸・美濃・唐津(4)、近世土器 火鉢・甕・焙烙(1)
図版七 近世土器 火鉢・甕・焙烙・播鉢・かわらけ(2)
図版八 近世土器 火鉢・甕・鉢・かわらけ(3)
図版九 近世土器 火鉢・甕・焙烙(4)、近世陶器 前山(1)
図版十 近世陶器 前山(2)
図版十一 近世陶器 前山(3)
図版十二 近世陶器 前山(4)
図版十三 近世陶器 前山(5)・近代陶磁器(1)
図版十四 近代陶磁器(2)
図版十五 古銭
図版十六 鉄製品・青銅製品
図版十七 石製品(1)
図版十八 石製品(2)
図版十九 石製品(3)
図版二十 石製品(4)

第 I 章 調査の概要

第 1 節 調査の経緯

野沢館跡は佐久市の南部、佐久平の南にあたる佐久市野沢地区に所在する。佐久市中央を北流する千曲川左岸にあり、千曲川により形成された沖積地に立地し、標高675mを測る。野沢館跡は平安時代末から中世の野沢氏・伴野氏の居館跡である。昭和40年に「伴野城址」として県史跡に指定される。

今回、緊急地方道路整備事業－取出中央線－（佐久市野沢本町）が計画され、遺構・遺物の破壊が余儀なくされたため、拡幅部分を記録保存のため発掘調査をすることとなった。

発掘調査は、佐久建設事務所の委託を受け、平成17年度に野沢館跡Ⅷ、平成18年度に野沢館跡Ⅸ、平成19年度に野沢館跡Ⅹとして佐久市教育委員会文化財課が発掘調査を実施した。

平成17年度（2005）

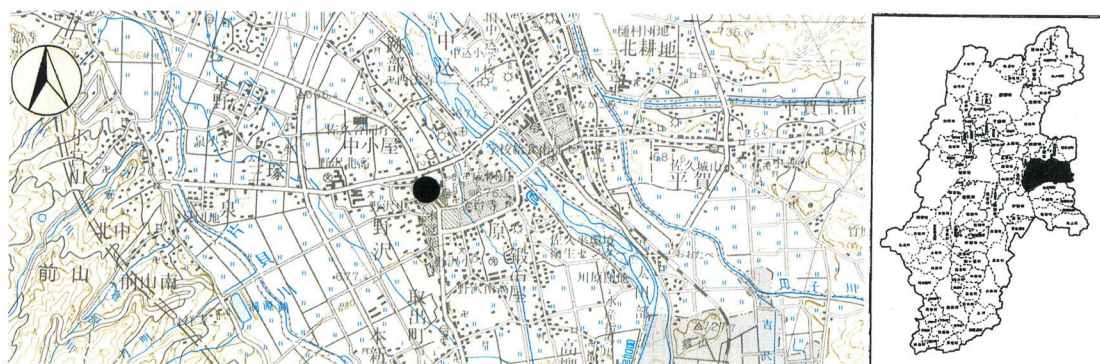
遺跡名	野沢館跡（のざわかんせき）Ⅷ（略号 NNZⅧ）
所在地	佐久市下木戸258-1・居屋敷
調査原因者	長野県佐久建設事務所
開発事業	緊急地方道路整備事業－取出中央線－（佐久市野沢本町）
発掘調査期間	平成17年7月25日～平成17年8月26日
整理調査期間	平成17年7月21日～平成18年3月31日
調査対象面積	131㎡（全開発対象面積1600㎡）

平成18年度（2006）

遺跡名	野沢館跡（のざわかんせき）Ⅸ（略号 NNZⅨ）
所在地	佐久市居屋敷654他
調査原因者	長野県佐久建設事務所
開発事業	緊急地方道路整備事業－取出中央線－（佐久市野沢本町）
発掘調査期間	平成18年7月10日～平成18年9月12日
整理調査期間	平成18年8月23日～平成19年3月31日
調査対象面積	240㎡（全開発対象面積1600㎡）

平成19年度（2007）

遺跡名	野沢館跡（のざわかんせき）Ⅹ（略号 NNZⅩ）
所在地	佐久市下居屋敷41-1他
調査原因者	長野県佐久建設事務所
開発事業	緊急地方道路整備事業－取出中央線－（佐久市野沢本町）
発掘調査期間	平成19年8月30日～平成17年8月21日
整理調査期間	平成19年7月23日～平成20年3月20日
調査対象面積	120㎡（全開発対象面積1600㎡）



第 1 図 野沢館跡Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ位置図（1：50,000）

第2節 調査組織

調査主体者 佐久市教育委員会 教育長 三石 昌彦(平成17・18年度) 木内 清 (平成19年度)
 事務局 教育次長 柳澤 健一 (平成17年度)
 社会教育部長 柳沢 義春 (平成18・19年度)
 社会教育部次長 山崎 明敏 (平成19年度)
 文化財課長 中山 悟 (平成19年6月まで)
 森角 吉晴 (平成19年7月より)
 文化財調査係長 高柳 正人 (平成17・18年度) 三石 宗一 (平成19年度)
 文化財調査係 並木 節子 (平成19年10月より) 林 幸彦 須藤 隆司 小林 眞寿
 羽毛田卓也 富沢 一明 神津 格 上原 学 出澤 力

調査体制

調査担当者 林 幸彦 森泉 かよ子
 調査副主任 堺 益子
 調査員

浅沼 勝男	浅沼ノブ江	阿部 和人	岩崎 重子	市川 昭	市川 明子
碓氷 知子	白田 真杉	奥原 彩	柏木 義雄	菊池 喜重	小林喜久子
小林 幸子	小林百合子	斉藤 恵李	佐藤 瑞希	里見 理生	清水 美恵
田中 久子	中島フクジ	羽田 貴恵	萩原 宮子	花岡美津子	林 美智子
広瀬利恵子	細萱ミスズ	細谷 秀子	堀籠 滋子	宮川百合子	

第3節 調査日誌

平成17年度 (2005) 野沢館跡Ⅷ

- 7月21日 現場プレハブ設置箇所草刈り・調査準備。
- 7月25日 東調査区道路側にH鋼ガードレール設置。
機材搬入。
- 7月27日 調査員が入り、北の1トレから調査開始。
ガス・水道敷設箇所につき人力で表土剥ぎ。
- 8月2日 基準杭設定。
- 8月3日 人力での表土剥ぎ困難のため、重機を入れる。
- 8月12日 6トレまで調査を終了し、重機で埋め戻し。
- 8月18日 西調査区の道路側にH鋼ガードレール設置。
重機で7トレより表土剥ぎを行い、調査開始。
- 8月24日 基準杭設定。
- 8月25日 8トレまでの調査終了。
- 8月26日 機材の撤収。
- 8月29日 埋め戻し。排土撤去。
- 10月12日 9トレ表土剥ぎ。
- 10月13日 9トレ調査開始。
- 10月14日 調査を終了し、重機で埋め戻しを行う。
発掘調査と併行または終了後、室内にて土器洗浄・注記・
接合作業・図面修正を行う。

平成18年度 (2006) 野沢館跡Ⅸ

- 7月10日 14トレに重機を入れ、表土剥ぎ。
遺構の検出を行い調査に入る。



NNZⅧ 1トレ



NNZⅧ 7トレ



NNZⅨ 20トレ

- 7月11日 基準杭設定。19トレに重機を入れ表土剥ぎ。
- 7月15日 14・19トレ終了、埋め戻し。
- 7月24日 西調査区道路側にH鋼ガードレール設置。
機材搬入。駐車場の草刈り。
重機・ダンプで、21トレより表土を剥ぎ。
- 7月26日 基準杭設定。21～11トレの調査。
各トレンチ終了後順次埋め戻し、表土剥ぎ。
- 8月29日 11トレ終了。埋め戻す。道路西側終了。
道路東の10トレより重機にて掘り下げ。
- 8月31日 15トレの掘り下げ。ガードレール移動。
- 9月6日 15トレ埋め戻し。室内にて整理作業開始。
- 9月11日 17トレの調査を終了。
- 9月12日 重機にて埋め戻し終了。
- 9月13日 ガードレールの撤去。
- 9月14日 機材の撤去。
- 3月31日 随時室内にて土器洗浄・土器注記・土器
接合・図面修正・写真整理・石膏復元・
土器実測・石器実測・遺構図トレース・
遺物図のトレースなどの整理作業。

平成19年度(2007) 野沢館跡 X

- 7月23日 室内にて遺物の実測・遺構図及び遺物
図のトレースを開始。
- 7月30日 基準杭設定開始。ガードレール設置。
重機にて27トレより表土剥ぎ、
26・25・24・22トレと調査。
- 8月7日 昨夕の大雨のため22・25トレ水没、
泥・水の除去。
- 8月8日 26・25・24・22トレ埋め戻す。
- 8月17日 23・24トレ南を重機で掘り下げ調査
- 8月21日 現場の調査を終了。室内にて整理作業。
- 8月28日 重機にて埋め戻し。ガードレール撤去。
- 9月21日 報告書の編集作業を開始する。図版作成・遺物の
写真撮影開始。

平成20年3月 報告書刊行。



NNZIX 15トレ



NNZIX 21トレ



NNZX 23トレ



NNZX 25トレ

第4節 検出遺構・遺物の概要

遺構	遺物
野沢館跡Ⅶ	奈良・平安 須恵器杯・甕
縦穴状遺構 中世 2棟	中世 青磁蓮弁文碗(13C後~14C)
近世 1棟	古瀬戸鉄釉椀・灰釉卸皿(13C)・平椀(15C)
土坑 中世 5基	大窯天目茶椀・錆釉稜皿(16C中)・播鉢(16C)
近世 2基	常滑甕
不明 5基	在地土師質かわらけ・内耳鍋・播鉢
単独ピット 14個	近在瓦質香炉
溝 中世堀 1本	渡来銭・刀子
近世・近代 1本	板碑・茶臼・臼・石播鉢・凹石
野沢館跡Ⅷ	近世 唐津椀・鉢(17C)
縦穴状遺構 中世 1棟	伊万里花瓶(近世)
近代 2棟	伊万里染付碗・皿(17C後)・染付皿・輪禿皿(17C中)
不明 1棟	伊万里染付碗(18C)
土坑 中世 16基	伊万里染付碗(18C末~19C前)
近世 19基	瀬戸・美濃鉄釉椀・丸碗・天目茶椀(近世)
近代 5基	瀬戸・美濃志野丸皿・黄瀬戸鉢(17C前)
不明 8基	鉄釉丸椀・椀(18C)
単独ピット 98個	錆釉播鉢・灰釉鉢・仏飯(18C末~19C前)
溝 12本	前山灰釉碗・片口鉢(18C)
野沢館跡Ⅸ	灰釉壺・丸椀・椀・小椀・皿・徳利・猪口、錆釉播鉢
土坑 中世 2基	・灯明皿、鉄釉壺・甕・丸椀・椀・皿・捏鉢(前山18C末~19C前)
近世 3基	在地・近在土師質植木鉢、瓦質火鉢、土師質火鉢、焙烙、
不明 6基	寛永通寶、角釘、銅板
単独ピット 65個	手水鉢・石臼
溝 4本	近代 瀬戸・美濃椀・皿・香炉・徳利

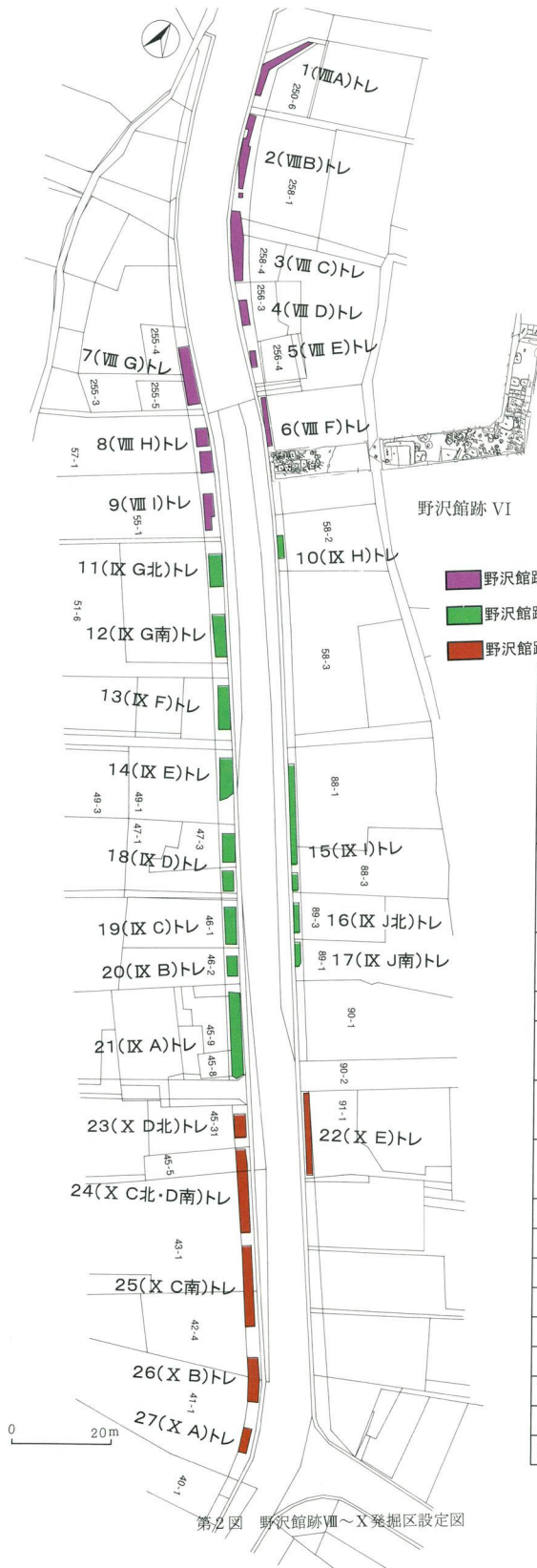
本調査は広くて幅2m前後、延長についても排水や道路で分断され、連続10m掘れた所は数カ所である。従って小規模な土坑やピットを除いて規模・形態の明らかなものはない。遺構の帰属年代については、遺物や覆土などから推定したが、上部からの攪乱も激しいため確実とは言い難い。

[中世]

1. 中世の堀の発見。三の郭北西において東西方向の15・16Cの中世の堀を確認。
2. 中世の三の郭北西に生活の痕跡。三の郭北西あたりに縦穴状遺構・土坑・ピット、内耳・かわらけが出土する。近世の遺構の多い地点でも15・16Cの遺物が出土している。
3. 卸皿・水注把手・青磁蓮弁文碗など13・14Cの時代の陶磁器はあるが、捏鉢などはなくこの頃は生活のにおいはしない。
4. 15C後半に遺物の量が増え、平椀・内耳鍋が16Cまで続いている。

[近世]

1. 近世初頭17Cに陶磁器の量が増え中頃までである。鉄絵の志野丸皿などランクが上のものがあり、初期伊万里(1630~1650)の城下町などではあるが一般に流通していないのがみられる。
2. 近世中頃の遺物は少なく、18Cに増えてくる。前山焼初期の水簸した良好な製品がみられ前山焼の関係者がいた可能性がある。
3. 18C末~19C前の在地前山の製品が圧倒的に多い。瀬戸・美濃・伊万里の製品も多い。



第3図 野沢館跡既調査区図 (1:5,000)

第1表 野沢館跡既調査区一覧表

No.	遺跡名	発掘年度	備考
1	野沢館跡Ⅶ	平成17年	本調査
2	野沢館跡Ⅸ	平成18年	本調査
3	野沢館跡Ⅹ	平成19年	本調査
4	野沢館跡Ⅰ	平成3年	試掘 中世土坑・柱穴・石組
5	野沢館跡Ⅱ	平成3年	試掘
6	野沢館跡Ⅲ	平成13年	中世～近世 土坑31 中世～近代 陶磁器、土師 中世～近世 柱穴152 鉄製品、古銭、耳環 近代の特殊遺構1
7	野沢館跡Ⅳ	平成14年	土師器、土鍋、近現代陶磁器、石製品、古銭 館跡主郭調査
8	野沢館跡Ⅴ	平成15年	土坑4、柱穴29 土器片、石製品、古銭
9	野沢館跡Ⅵ	平成15年	竪穴状遺構2 土坑41 柱穴108 堀2 集石3 地下室1 陶磁器、内耳土器、かわらけ、鉄製品、石製品、古銭
10	野沢館跡Ⅶ	平成16年	中世～近代 陶磁器、かわらけ、石製品 館跡主郭外周調査
11	薬師寺遺跡	平成11年	近世礎石143、近世の基壇1、木札、仏壇 古銭、野沢館跡3(平成11年2月試掘) 金属、石製品
12	野沢館跡2		
13	野沢館跡4	平成10年	遺物、遺構なし
14	野沢館跡5	平成11年	"
15	野沢館跡6	平成14年	" 野沢館跡Ⅴで調査
16	野沢館跡7	平成14年	旧水路石組 野沢館跡Ⅹで調査
17	野沢館跡8	平成15年	
18	野沢館跡10	平成16年	遺物、遺構なし
19	野沢館跡11	平成16年	"
20	野沢館跡12	平成17年	柱穴25、土坑3、堀1 近世～近代の陶磁器、内耳土器

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

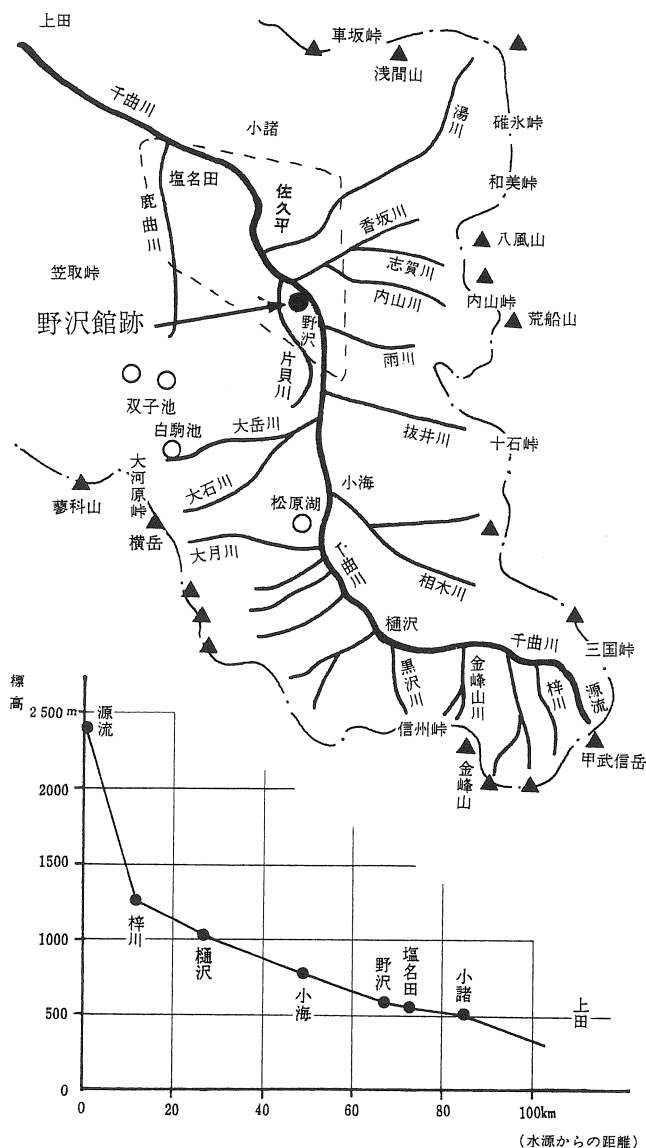
第1節 自然環境

佐久市野沢のこの付近が佐久平のほぼ中心である。この佐久平の中央を南から北へ多くの支流を集めて千曲川が貫流している。

地形構造の上から佐久平は①浅間火山の噴出物の堆積する北東部、小諸・岩村田地域、②佐久山地古期岩層周辺の頭部地域南佐久東半部、③千曲川より西の八ヶ岳蓼科山麓部分の南佐久郡西部と北佐久郡川西地方の浅科村・望月町・立科町地域に大別区分される。その境界は南北で、ほぼ千曲川の流路であり、①と②境界は内山川と志賀川が合流して千曲川に注ぐ滑津川の示している東西線で旧南佐久と北佐久郡の境界の断崖線でもある。(図)

③は北佐久郡御牧村、小諸市の一部、望月町、立科町、浅科村、佐久市西部、南佐久郡白田町、佐久市の西半部地域の八ヶ岳蓼科火山山麓平地で、火山基盤の集塊岩は佐久平周辺まで到達し、洪積層と合わさって台地状地形を作っている部分もあるが火山溶岩の露出はなく、山麓傾斜面は厚いローム層に覆われている部分が多い。縄文遺跡が発見されているのもこの段丘台地面で佐久平周辺部は耕作適地土壌に恵まれている。

遺跡はこの千曲川以西、佐久市南部の佐久平中心部に位置し、千曲川本流より、約1km西の沖積地の帯状微高地、自然堤防上にある。標高674.00~673.00を測り、この付近は佐久平中心部の沖積氾濫源の堆積地帯で、自然状態の遺構確認面以下の地層は上部から黄褐色の砂質細粒粘土層が40cm内外の厚さで堆積している。この堆積層理状態から氾濫静水の沈殿層と観察された。その下部は大小の円礫を多数に含む砂礫層が観察され、50cm以下は確認することができなかったが数メートルの厚層であることは付近の古井戸から推定される。これらをあわせて堆積状況と大小の円礫の交混から、長期の洪水氾濫堆積によるものと考えられる。大小の円礫を岩質別に多いものから列記すると、安山岩・集塊岩(八ヶ岳火山系)・チャート・硬砂岩・砂岩・粘板岩・輝緑凝灰岩・石英閃緑岩・流紋岩・その他(佐久山地古期岩層地帯産)であって、量の多い八ヶ岳火山系のもの数が多く大型で、佐久山地のものは小型で数も少ない傾向は佐久市内を流れている千曲川原の現河床礫とほとんど同率で大差は認められない。(1988白倉『薊沢』より一部抜粋)



第4図 千曲川概念図

第2節 歴史環境

今回調査された野沢館跡Ⅷ～Ⅹは野沢の市街地の西側にあり、中世からの歴史を持つ県史跡の伴野城址（野沢館跡）から約100mほど西に当たる。この地点は千曲川の左岸あたり、西の山地にいたる間は2kmほどにわたって千曲川氾濫によって形成された沖積地である。近世から近代まで沖積地の微高地は畑地、低地は水田として耕作されていたが、昭和30年代の圃場整備事業により水田とされ、旧の微地形は失われ推測しがたい状況となっている。

本遺跡は南北280mを測る調査であるが、北の50mあたりの下木戸地籍は水田地域、南に居屋敷となる地点から集落となっている。（巻頭1図参照）本遺跡の西には微高地となる自然堤防上に一連の遺跡が連なっている。周辺遺跡一覧表の1.東五里田遺跡から14.上桜井北遺跡まで14遺跡が連なっている。部分的ではあるが発掘調査がなされており、その遺跡の概要を類推できるものである。自然堤防上地域の住居址の時代的初見は5.宮添遺跡に1棟ある古墳前期後半からである。そして少しあいて古墳中期後半・古墳後期、奈良・平安時代、そして中世と続いている。この沖積地中程から千曲川本流までの間は縄文・弥生・古墳前期前半の住居址は発見されていない。

野沢館跡西の東五里田遺跡からは弥生前期の遺物が土坑上面より出土している。稀少な資料である。この地点より西の山地に近い9中道遺跡では弥生後期の住居址が調査され、片貝川沿いは弥生後期集落がみられる。また弥生中期前半の土器が出土している。中道遺跡では古墳中期後葉から奈良の住居址もみられ、ここでは昭和46年の調査時に奈良三彩の蓋が出土している。21.榛名平遺跡からも奈良三彩蓋が出土しており、この三彩の出土地点は、官衙跡・寺院跡・墳墓・祭祀跡・集落跡などに多く、それらの遺跡はその地域の中心的地位を持ち得るものや交通の要所にあたる所であることが多いという。野沢中学校のある東五里田遺跡の調査では、奈良時代の住居址が23棟と掘立柱建物址があり、古代刑部（おさかべ）郷の一集落を確認している。

また東五里田遺跡では中世・近世の南北に貫く溝と掘立柱建物址・ピット群がある。溝は流路として中世～近世にかけてのもので、中世の出土遺物にはかわらけ・中国産磁器（白磁、青白磁、青磁）・国産の古瀬戸・在地の播り鉢・渡来銭・板碑があり、多くの遺物が出土している。時代は14C～15C頃に集中している。中世に帰属するであろう掘立柱建物址は6棟あり、まとまった配置から屋敷地であったであろうか。

また、同じ溝からは近世の陶磁器が多量に出土し、近世の遺構は溝とピット群かと推測されるが、近世においてもここに居住していたようである。

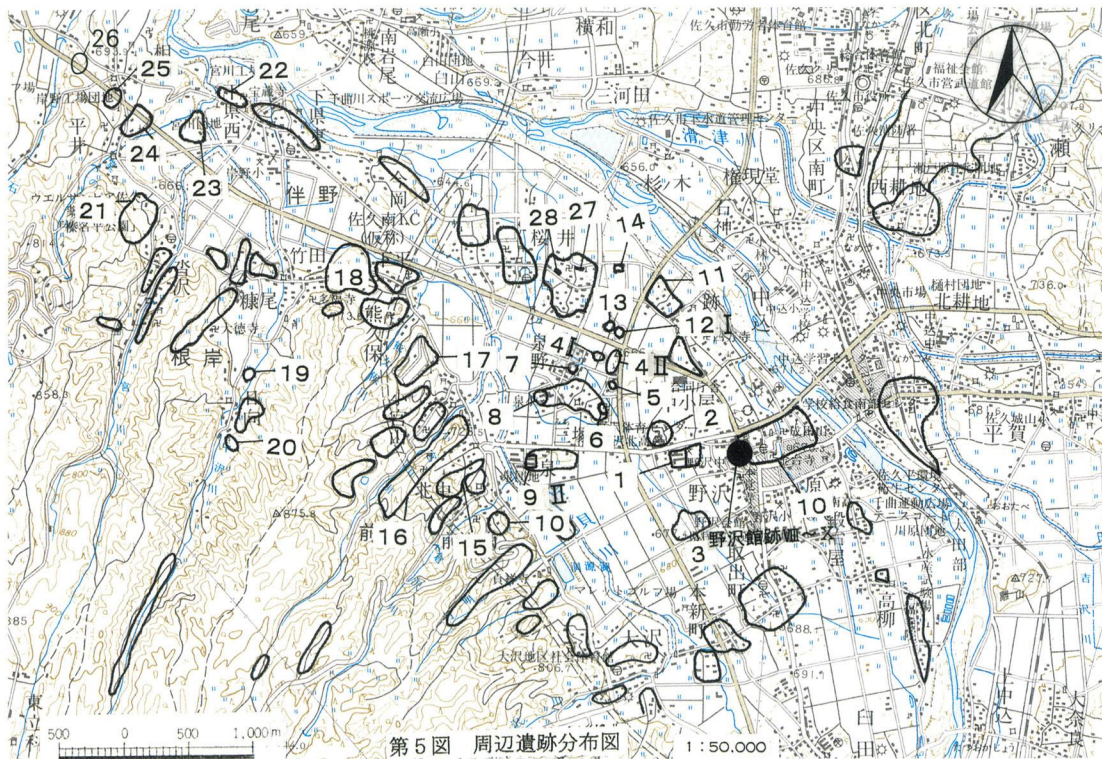
北の薮沢遺跡には奈良時代の住居址2棟あり、東五里田遺跡の集落が続いていたようである。さらに北に市道・宮添・寺添遺跡、南では儘田遺跡と奈良時代の住居址が分布している。

千曲川から西に2km地点は低地に望む山地であり、蓼科山北山麓が河川に浸食され、数多くの谷と尾根が形成され、その尾根や南斜面には遺跡が残されている。低地に望む台地上部には縄文と弥生の遺跡が多くみられ、ことに弥生後期の集落である17.後沢遺跡、18.西裏・竹田峯遺跡があげられる。後沢遺跡は宅地造成にともない昭和51・52年度に調査され、縄文前期・弥生後期・古墳後期・平安の住居址が調査され、弥生後期の住居址は35棟を数える。その北にある西裏・竹田峯遺跡では弥生中期から後期の住居址が21棟と弥生時代の集落が台地上にみられる。

縄文時代は後沢遺跡で縄文前期の住居址6棟が検出され、南に続く山地では縄文土器を表採できる遺跡が多い。

第3節 野沢館跡の歴史背景

野沢館跡は、鎌倉時代以来伴野氏の居館跡として知られており、昭和40年に『伴野城跡』として長野県史跡に指定されている。平成11年度に薬師寺本堂の改築（野沢館跡Ⅱ）、平成13年度にマンション建設（野沢館跡Ⅲ）、平成14年度はまちづくり総合支援事業城山公園整備事業（野沢館跡Ⅳ）にともなう遺構確認調査が行われた。



第2表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	発掘調査年度	検出遺構・出土遺物等
	野沢館跡Ⅶ・Ⅷ・Ⅹ	野沢字下木戸・居屋敷	平成17～19年度	本報告書。
1	東五里田遺跡Ⅰ・Ⅱ	野沢字東五里田	平成14・18年度	住居址23(奈良23)、掘立柱建物址、土坑、溝址、弥生前期土器群
2	薮沢遺跡Ⅰ・Ⅱ	野沢字薮沢	昭和62年度	住居址6(奈良2・平安4)、土坑4
3	儘田遺跡	野沢字儘田	昭和45年度	住居址4(奈良・平安)、土坑9
4Ⅰ	市道遺跡	三塚字市道	昭和49年度	住居址10(古墳中期Ⅰ・古墳後期7・平安1・不明1)、特殊遺構5
4Ⅱ	市道遺跡Ⅱ	三塚字市道	平成10年度	住居址5(古墳後期2・奈良3)、掘立柱建物址4、土坑10、溝址3
4Ⅲ	市道遺跡Ⅲ他	三塚字市道	平成16～18年度	
5	三千東遺跡群宮添遺跡	三塚字宮添	平成11年度	住居址4(古墳前期Ⅰ・古墳後期Ⅰ・奈良2)、竪穴状遺構2(中世)、掘立柱建物址1(中世)、土坑3(古墳前1、平安1)ピット39
6	三千東遺跡群寺添遺跡	三塚字寺添	平成6年度	住居址29(古墳中期3・古墳後期12・奈良3・不明11)、掘立柱建物址6、井戸址4(中世2)、土坑3、周溝址1
7	三塚鶴田遺跡	三塚字鶴田	昭和50年度	住居址4(平安)、土坑3
8	和泉小学校敷地遺跡	三塚字一町田	昭和40年度	
9	中道遺跡	前山字中道	昭和46年度	住居址7(奈良・平安)、奈良三彩(蓋)
9	中道遺跡Ⅱ	前山字中道	平成9・11・13年度	住居址17(弥生後期Ⅰ、古墳中期3、古墳後期2)
10	野沢館跡Ⅳ	野沢字居屋敷	平成14年度	堀・土塁、ピット
11	跡部儘田遺跡	跡部字儘田	平成11年度	12Ⅱ跡部儘田遺跡Ⅱと合わせて住居址86(古墳～平安)
12Ⅰ	跡部町田遺跡	跡部字町田	昭和50年度	住居址5(古墳)、土坑2、溝1
12Ⅱ	跡部町田遺跡Ⅱ	跡部字孫次郎・反田	平成11年度	
13	三塚町田遺跡	三塚字町田	昭和49年度	住居址6(古墳)、竪穴状遺構1、土坑、溝
14	上桜井北遺跡	桜井字橋詰	昭和52年度	住居址18(古墳～平安)、特殊遺構10
15	瀬の下遺跡	前山字瀬の下	平成2年度	住居址3(縄文後期)、弥生前期土器群
16	前山城跡	小宮山字城山		中世
17	後沢遺跡	小宮山字後沢	昭和51・52年度	住居址50(縄文前期6、弥生後期35、古墳8、平安1) 住居址26(弥生中期～後期21、古墳3、奈良・平安1)、ピット 特殊遺構4、周溝3、土坑26、溝7、
18	西裏・竹田家遺跡	伴野字西裏、根岸字竹田峯	昭和60年度	
19	中村遺跡	根岸字日向	昭和57年度	住居址16(縄文中期)、土坑5(縄文前・中期)、溝1
20	筒村B・山法師B遺跡	根岸字筒村・山法師	平成3・4年度	住居址5(縄文中期3後期Ⅰ・平安5)、掘立柱建物址2、土坑10、溝址3
21	榛名平・坪の内遺跡群 榛名平遺跡	根岸字榛名平・坪の内 掘立30(弥生1、古墳3、 奈良・平安12、中世・近世14)、土坑(縄文75・弥生15・奈良平安60・中世土壘65)古墳2基、	平成5・6年度	住居址122(縄文前期12・縄文中期8・弥生後期29・古墳中期10・奈良・平安63)
22	休石遺跡	伴野字休石	昭和53年度	火葬墓
23	舞台場遺跡	根岸字反り田	昭和56年度	住居址60(弥生後期13、古墳～平安47)、掘立柱建物址4、土坑15
24	小金平遺跡	根岸字小金平	昭和56年度	住居址3(縄文1・奈良1・平安1)、土坑
25	立石遺跡	根岸字立石	昭和56年度	土坑
26	石附窯址Ⅰ～Ⅲ	根岸字石附	昭和55平成1・2年度	須惠器窯址3(古墳後期)、炭窯址4、方形周溝1(古墳前期)、竪穴状遺構2、土坑
27	平馬塚遺跡群平馬塚遺跡Ⅰ	桜井字平馬塚	平成16年度	竪穴状遺構3、溝2、土坑37、ピット、古瀬戸天目茶碗、常滑甕、在地播鉢・風呂釜
28	平馬塚遺跡群石堂遺跡	桜井字石堂	昭和60年度	竪穴状遺構1、かわらけ、内耳、瀬戸灰釉鉢、常滑甕(15C)

野沢館跡Ⅳは野沢館跡の主郭部分であり、調査は北東土塁の一部切断と主郭内に延長トレンチ、堀の一部を部分的に掘り下げ、規模形態の確認をした。現状土塁の表層は昭和52～53年にかけての改修層であり、改修層下の土塁の高さは郭内から320cmを測る。昭和の改修層下の土塁は2期にわたる構築層があり、上層は中世後半の15C代の遺物である常滑甕・石臼・内耳鍋片を出土する層、下層は土盛りの側壁両側に石積をなす土塁があり、それを覆う層が残っていた。石積の土塁を覆う層からは古瀬戸皿（14C）が出土している。石積の土塁は確認調査であるため、切断せず詳細は不明である。

館跡の主郭を囲む堀は、南の館跡入り口には土橋が構築され、堀幅は18mほどの広さで現伴野神社の拝殿前と一致することが判明し、公園整備の際に南の東側堀は旧状に復元されている。主郭の規模は土塁外方の基部幅で南北約100m東西80m測り、北西がやや張り出す長方形プランであることが確認された。郭内からは15C後半～16C代のかわらけ・内耳が出土した。部分的な調査であることと、後代の攪乱により主郭内からの建物址の確認はできなかった。（2004『野沢館跡Ⅳ』）

野沢館跡Ⅵ（平成15年度）の調査は野沢館跡北西の外郭にあたる調査で、二の郭の土塁と堀を確認した。南北方向と東西方向の堀から北西の囲い込みが判明した。堀と土塁に囲まれた二の郭内に竪穴状遺構と土坑が検出され、中世の遺物は、時期の古い12C～13Cの白磁・青磁片、大半は大窯の灰釉皿・天目茶椀（15C後半～16C）、内耳・かわらけ（15・16C）を出土し、野沢館跡主郭の出土遺物と一致した時代であった。また二の郭の堀の外、三の郭にあたる地点から中世の遺物を出土する土坑が多数あり、三の郭に中世の遺構を検出している。

本遺跡は「伴野氏館跡」「伴野城跡」「野沢城跡」「野沢館跡」の呼称があるなかで、伴野氏は小笠原長清が文治元年（1185）に伴野・大井荘の地頭に任命され、六郎時長に伴野荘を知行させたことに始まる。これ以前には野沢氏がすでにこの地に居住し、野沢館が成立されていたと推定されている。

13C前半伴野氏は鎌倉の有力御家人として幕府の要職につき活躍していた。弘安8年（1285）の霜月騒動により、領地は一部を除き没収される。建武～正平年間（1335～1353）伴野長房により再興され、大徳寺領伴野荘を支配する。前山城は文明年間（1471～）頃に築城され、大沢の荒山城跡が支城として整備された。天文9年（1540）には武田氏の侵入により、伴野氏は武田氏に帰属する。天正10年（1582）依田信蕃により、攻略され、伴野氏は滅亡する。

野沢館跡が高い土塁と深い堀で囲む形態の城になった15・16C頃の佐久伴野氏については二系統あったとされている。野沢を本拠地とした伴野氏は、寛正6年（1465）信州伴野弥四郎源貞棟が上総介受領を願い、幕府はこれを推挙。文明3年（1471）信州国人伴野上総介貞棟が將軍足利義政に贈りものをしている。また、松原諏訪神社に応仁元年（1467）寄進した記録が残っている。幕府中央で高い地位が認められ活躍している。

一方の伴野氏は前山城主の系譜で『貞祥寺開山歴代伝文』によれば、前山城主光利は延享元年（1489）85才で没。永正12年（1515）光利の子光信76才で没。光信の子伴野左衛門介貞祥は大永元年（1521）祖父と父の追善のために叔父の貞祥寺開山節香徳忠禅師を呼び貞祥寺を開山。貞祥は天文年中武田晴信に降り、天正10年（1582）武田・織田氏滅亡後北条氏に属し、徳川家臣の依田信蕃に破れるのである。（『佐久市志』歴史編（二）中世P420～による。）

江戸時代は小諸に在住し佐久を領した仙石氏が野沢館跡に米蔵を建て、年貢米の貯蔵にあてた。江戸の中期幕領となったときは代官の陣屋・米蔵が置かれ、年貢米の貯蔵が行われた。享保3年（1718）役所廃止の際に村の郷倉に下付した。明治22年城山館（公民館）が建てられ、明治44年に諏訪社を一角に移し、八幡社と合祀して旧荘名に因んで大伴神社と称した。（平林富三 1972『伴野館跡（野沢城）』）

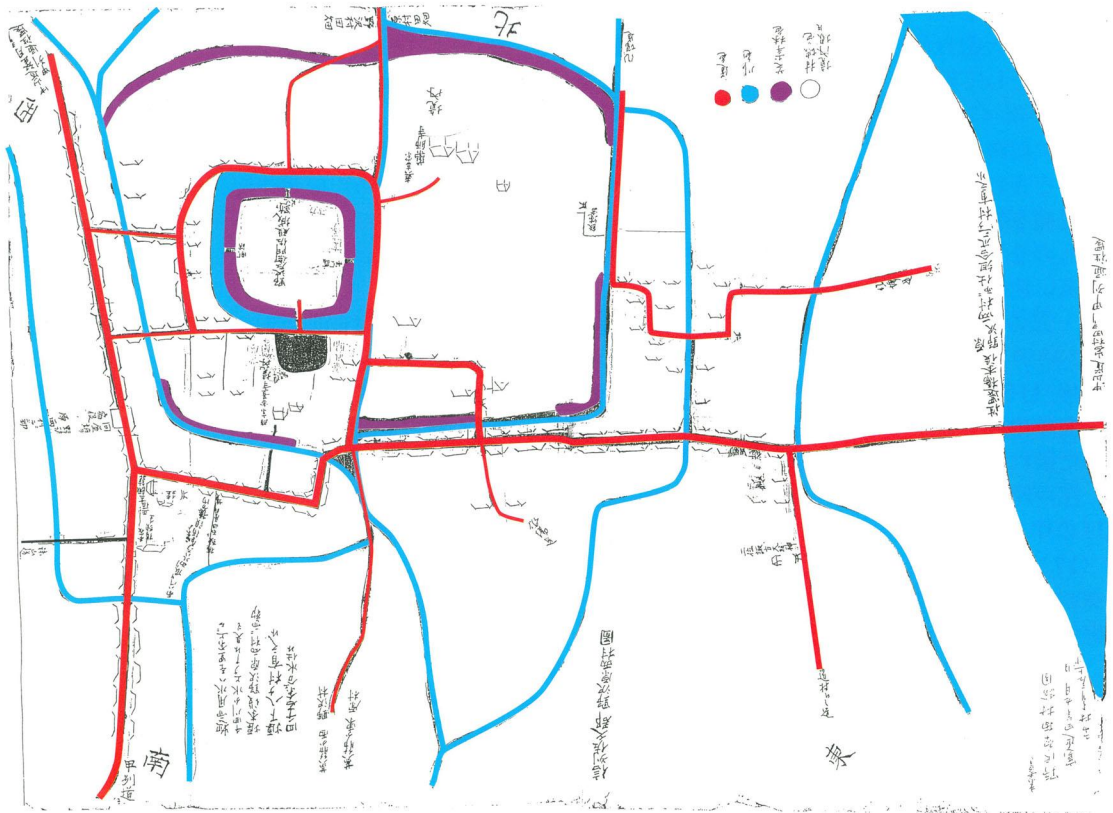
野沢村は慶安4年（1651）徳川綱重（甲府）の領地となり、元禄14年（1701）村明細帳によれば、家数87軒・人数338人とあり、その中に酒株所持者が3人いる村で、正徳元年（1711）「信州佐久郡野沢村差出帳」に鍛冶1・桶屋1・大工5・仏師1・指物師1・紺屋1が書き上げられているが、商人層の存在はない。

享保6年（1721）六斎の米市が開催され、米穀市は佐久の三市（小諸・岩村田・野沢）となるほ

ど発展した。また、佐久甲州街道の馬継場として、人馬屋敷49軒から常時馬三匹・人足6人を出勤させている。天保14年（1843）には商家・諸職多様となっている。本町と十二町の三差路付近が宿の中心で、問屋は本町側の西がわにあり、馬継場荷置場はさらに北よりの城跡の入り口にあったと伝えられている。三差路を中心に商家があり、天保13年には旅籠屋茶屋・太物屋・古着屋・穀屋荒物屋・小間物屋などが軒を連ねていた。（巻頭図版一 参照）今回調査地点の野沢本町は問屋があり、宝永5年（1708）年から文化年間まで主に並木氏がつとめていた。高野町に旗本知行所の陣屋があり、これに関する人馬の出入り、また遊行上人の巡錫（じゅんじゃく）があり、藤沢の遊行寺は一遍上人以来諸国巡錫が行事で、金台寺にも来ている。巡錫に際して、宝暦8年(1758)には110人55匹の人馬が出勤している。（『佐久市誌』歴史編（三）近世 p441・p515）昭和36年に野沢会館が建設され、昭和40年「伴野城跡」として、長野県の史跡に指定。昭和51年からは城山公園（都市公園）とされ、平成13年野沢会館移転し、主郭の遺構確認調査が平成14年度に行われている。佐久市では昭和51年度詳細分布調査により、主郭・外郭を「野沢館跡」として周知している。

今回の調査地点は野沢館跡の西にあって三差路で甲州街道が岩村田宿へ至る道とで分岐するが、そのまま直進して望月宿に通ずる望月往還である。平成19年現在の野沢本町の通りの商店は、薬局屋と金融機関と一商店があるのみであるが、江戸時代末あたりから昭和31年頃の道路拡幅時までは商店が立ち並び、幅90cmほどの水路が流れていたという。

野沢館跡Ⅶ～Ⅹの調査は中世野沢館跡三の郭にあたり、野沢館跡Ⅶで見つかった東西方向の堀は、第6図 野沢原両村絵図（寛延四年）（1751）の北西の甲州街道をわたる水路、二の郭の堀が分岐して甲州街道を横切っているものと一致すると推測される。本調査においては、近代・近世の遺構と中世の遺構が検出され、三の郭まで、中世の竪穴状遺構・土坑があること、その後甲州街道沿いに民家が建ち並び生活した痕跡を調査できた。



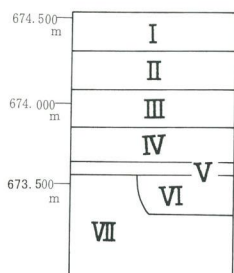
第6図 野沢原両村絵図（寛延4年）

第三章 基本層序

野沢館跡は千曲川の左岸、片貝川と千曲川に挟まれた沖積地の千曲側寄りに位置している。調査区の標高は674.500m～677.00mと南に向かって標高を上げている。

遺構検出面は褐色シルト層ないし、砂層・礫層の堆積がみられた。しかし千曲川氾濫原であるため、褐色シルトなどの堆積がないまま砂・円礫層となる9トレ地点もある。北の1・2トレ地点の下木戸地籍には水田層があり、近世から近代まで水田耕作がなされていた。中世においては、土坑が検出されていることから水田ではなかったと推測される。

調査地点は道路の拡幅に伴って両側に屋敷が後退しており、前回道路工事で現状まで、今回の取出線の工事でさらに後退することとなった。調査地点は、表土30～40cm下に中・近世の遺構面が残る所と、後退の際に重機で深く攪乱された所とがあり、均一な検出はできなかった。



第7図 基本層序模式図

- 第I層 暗褐色土層 (10YR3/4)
埋土。
- 第II層 褐灰褐色土層 (10YR5/1)
水田層。
- 第III層 極暗赤褐色土層 (5 YR3/3)
水田層。上層に鉄分沈殿。2～5 cm大の礫含む。
- 第IV層 黒褐色土層 (10YR2/3)
シルト質土。堅くしまり、炭化物少量含む。
- 第V層 暗褐色土層 (10YR3/4)
鉄分含む。
- 第VI層 黒褐色土層 (10YR2/3)
中世遺構覆土。
- 第VII層 暗褐色土層 (10YR3/3) ないし暗褐色土層 (10YR3/4)
褐色シルト、褐色シルトと小円礫、黄色・褐色砂粒、褐色砂と円礫層 (基盤層)。



1トレ 基本層序模式図地点



2トレ 水田層



3トレ 水田層と集落地域境



9トレ地点



18トレ D22号土坑 近世遺構

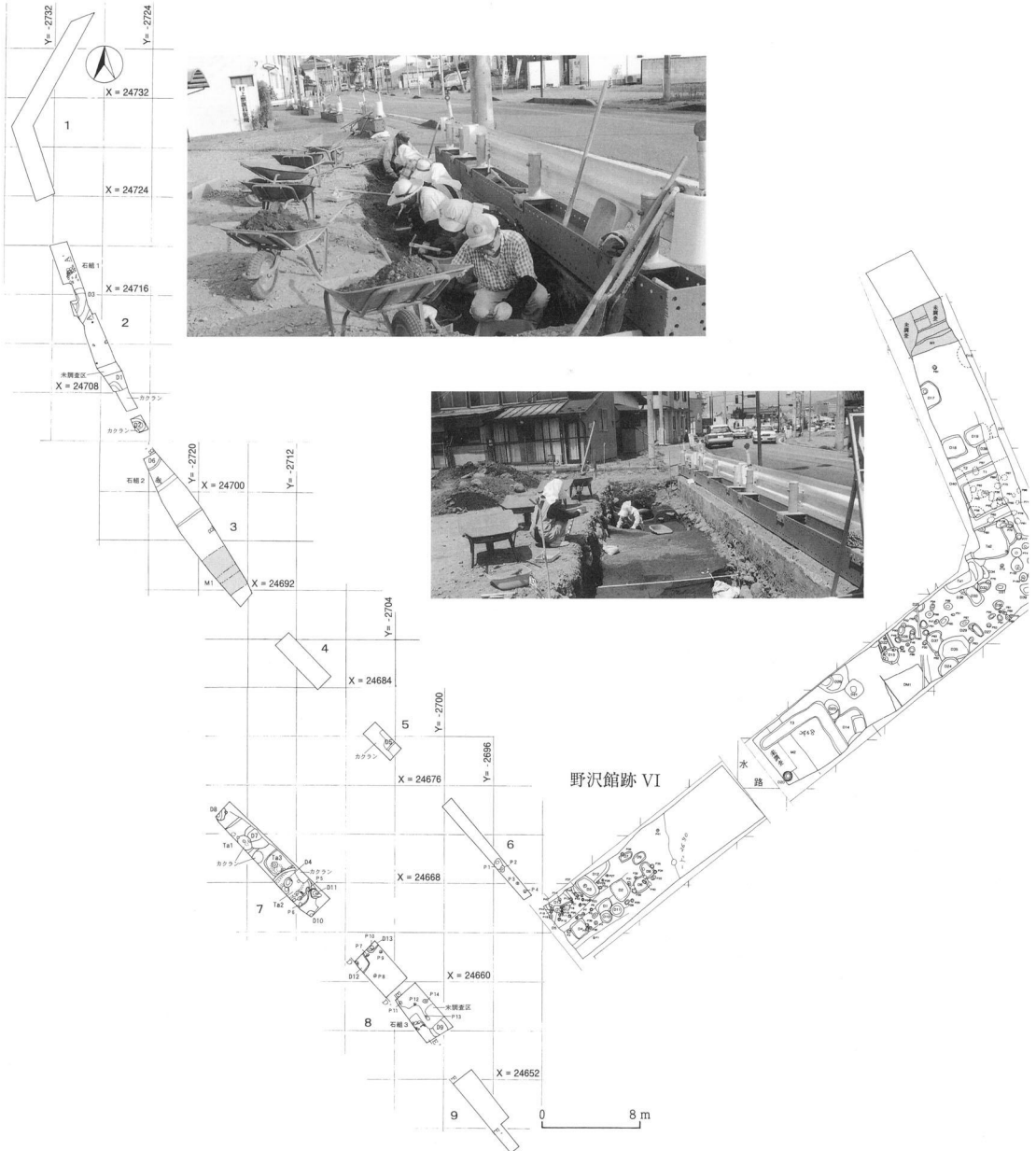


12トレ D35号土坑 中世遺構

第IV章 遺構と遺物

野沢館跡Ⅷ

(第1～第9トレンチ)



第8図 野沢館跡Ⅷ全体図 (1 : 500)

第1節. 野沢館跡Ⅷ

第1トレンチ (道路東側)

[主な遺構と遺物]

水田層のみで遺構なし。

埋土中 古瀬戸鉄釉陶器碗 (15C後)、常滑甕 (中世)、かわらけ・内耳 (中世)、瀬戸・美濃
播鉢・碗 (18C)、近代陶磁器多量に出土。

[特徴]

近世・近代水田層があり、天保7年 (1836) の絵図にある [北田] 地点。

遺構はないが中世遺物を埋土中より出土。

第2トレンチ (道路東側)

[主な遺構と遺物]

近世・近代水田層、天保7年 (1836) の絵図にある [北田] 地点。

全体層序Ⅳ層中に中世遺物含む。内耳・かわらけ (中世)

D1・D2号土坑 遺物はないが中世土坑か。

D3号土坑 (中世層を切る) 河床礫多量。近世・近代の土坑。

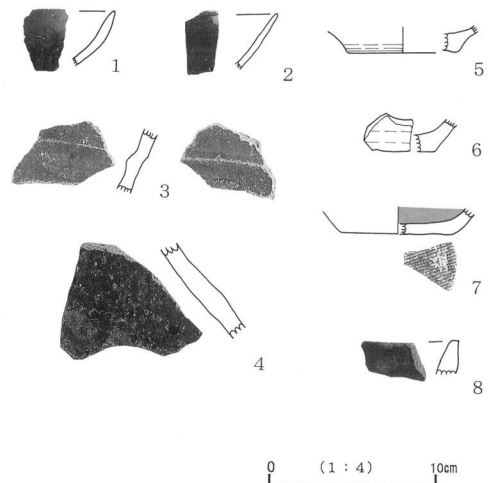
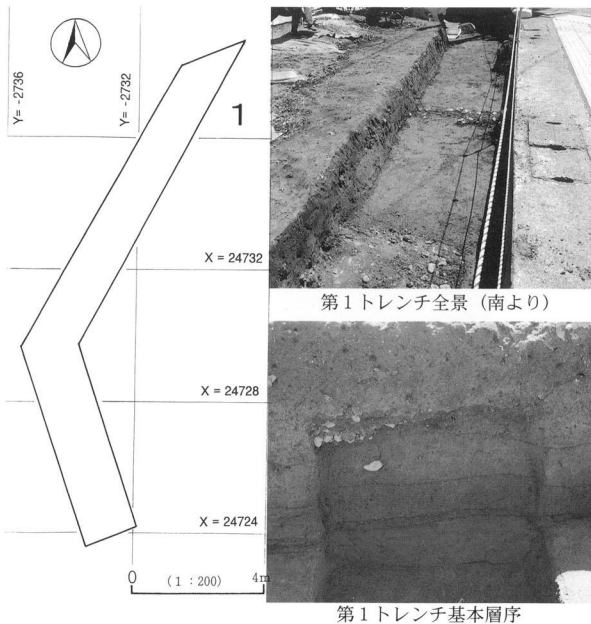
石組み1 河床礫長方形に敷かれる。

埋土遺物 灰釉徳利・鉄釉碗 (前山、瀬戸・美濃18C末~19C前)、近代陶磁器多量に出土。

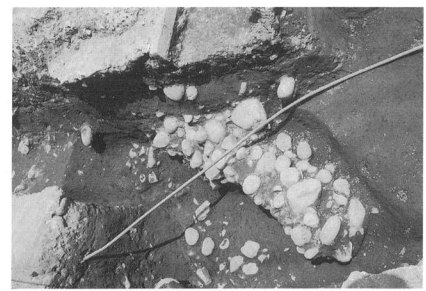
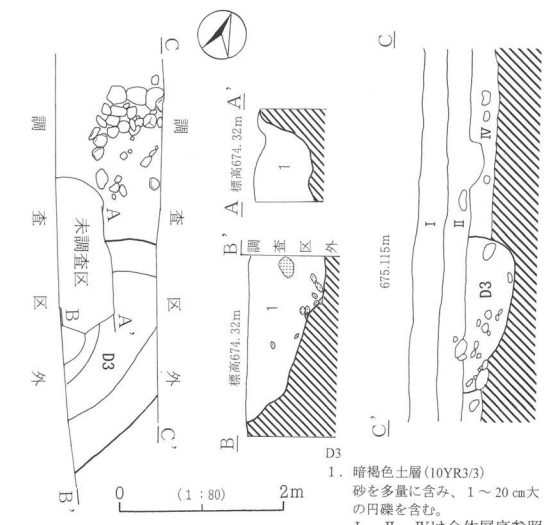
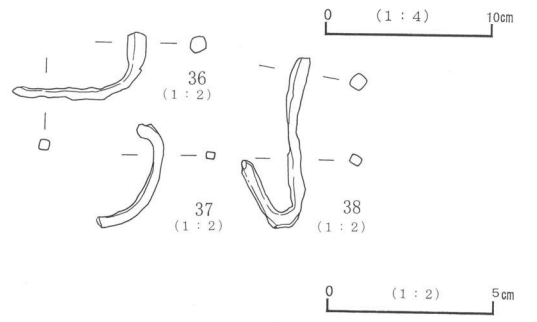
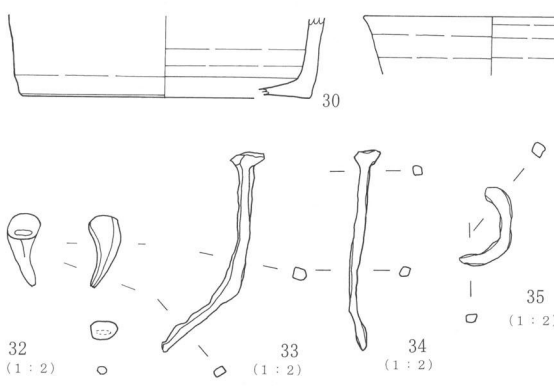
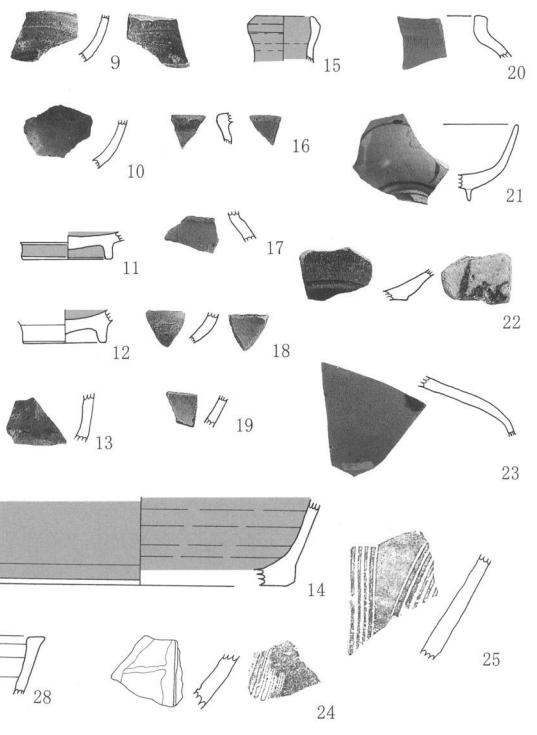
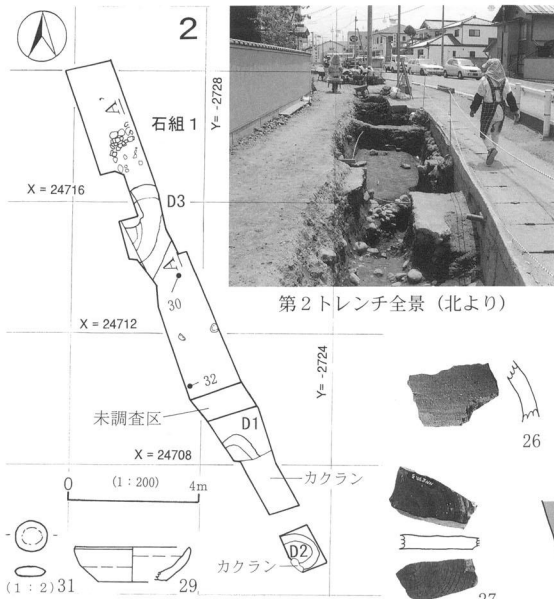
[特徴]

近世後半の陶磁器が出土。

南に中世の土坑検出。



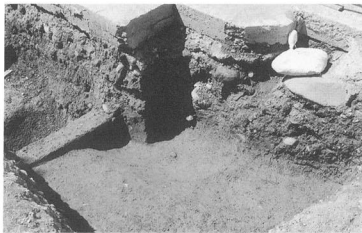
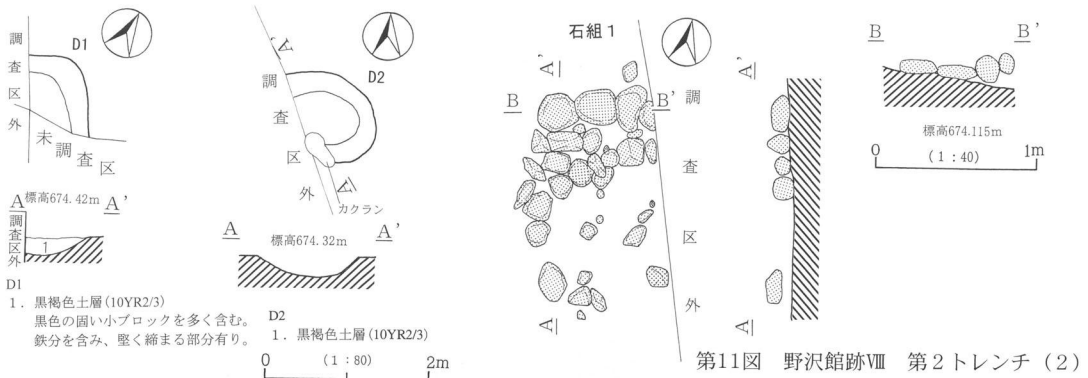
第9図 野沢館跡Ⅷ 第1トレンチ



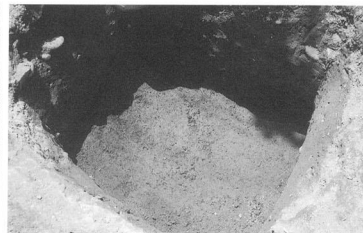
第2トレンチ D3号土坑

1. 暗褐色土層(10YR3/3)
砂を多量に含み、1~20cm大の円礫を含む。
I・II・IVは全体層序参照

第10図 野沢館跡Ⅷ 第2トレンチ (1)



第2トレンチD1号土坑(北より)



第2トレンチD2号土坑(北より)



第2トレンチ石組1(北より)

第3トレンチ(道路東側)

[主な遺構と遺物]

M2号溝址 幅3.80mの東西方向の溝。水田南端の水路か。水路を境に地山の標高が変わる。

D6号土坑 円形基調の浅い土坑。中世の土坑。内耳(16C)出土。

M1号溝址(堀) 最大堀幅3.73m、底部幅68cm、深さ160cm、上面に大小礫群が覆う。堀は中位にテラスを持ち二段階に落ちる。中世の堀。かわらけ(16C)・内耳(15C)多量、常滑(中世)出土。

埋土 前山鉄釉灯明皿、灰釉捏鉢、播鉢(18C末~19C前)、伊万里染付碗(18C後~19C前)出土。

[特徴]

M2号溝は野沢村の近世の水田域と集落域境界の水路。水田と集落境を確認。

M1は中世の東西方向のに延びる15C頃の外堀である。

第4トレンチ

[主な遺構と遺物]

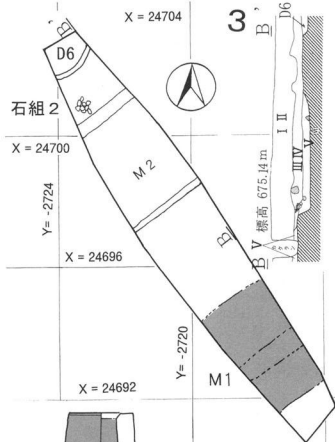
ガス管敷設で攪乱されていた。

第5トレンチ

[主な遺構と遺物]

D5号土坑 規模・形態不明。遺物はないが覆土は中世か。

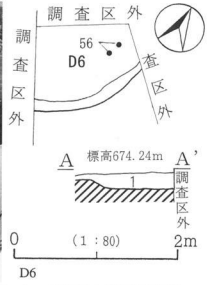
大半攪乱される。



第3トレンチ全景 (南より)



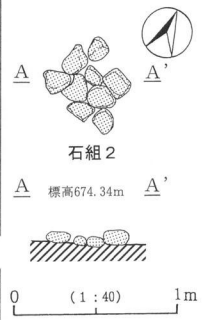
第3トレンチM2号溝址 (北西より)



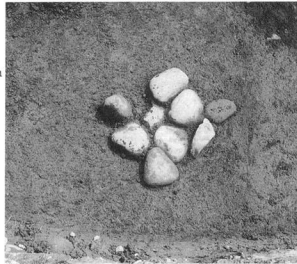
1. 黒褐色土層(10YR2/3)
 黒色の固い小ブロックを
 多く含む。鉄分を含み、
 堅く締まる部分有り。



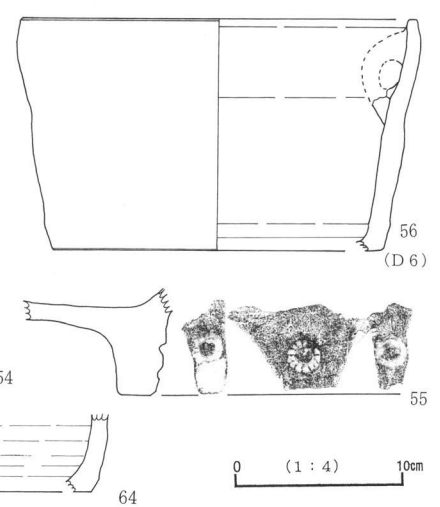
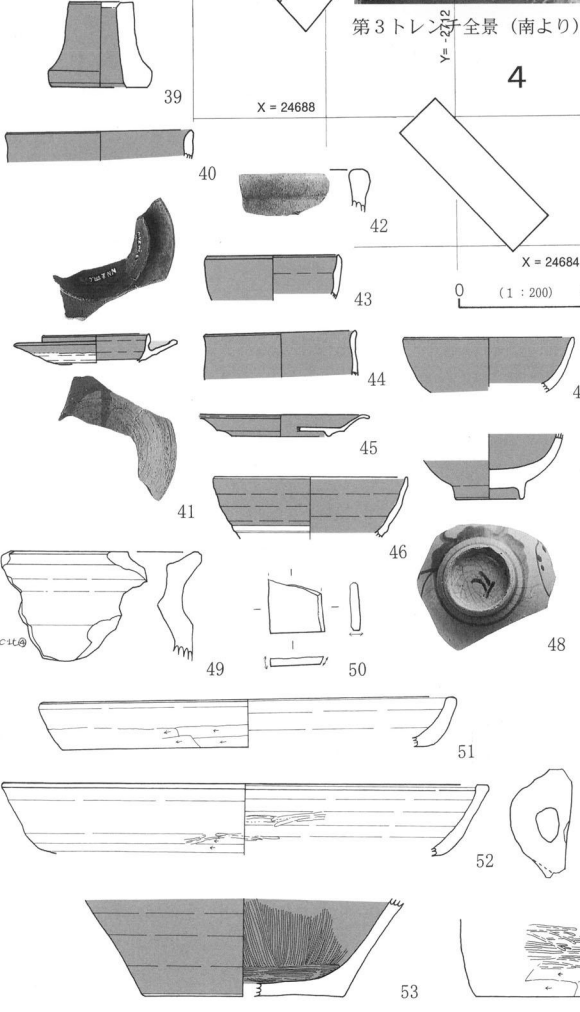
第3トレンチD6号土坑 (西より)



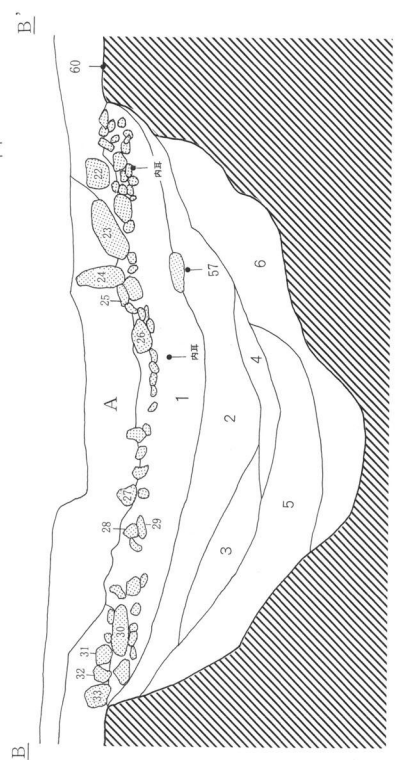
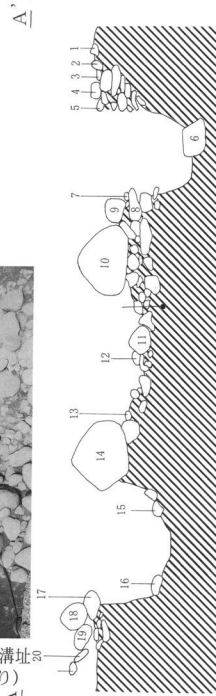
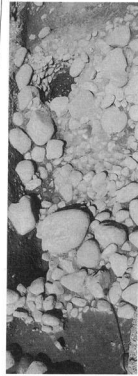
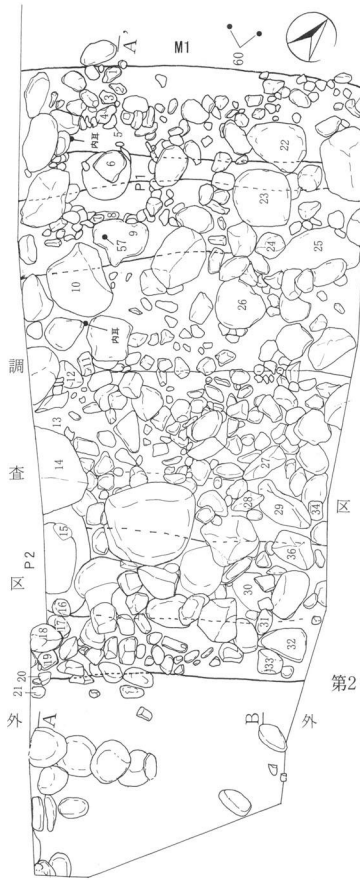
石組2
 標高674.34m



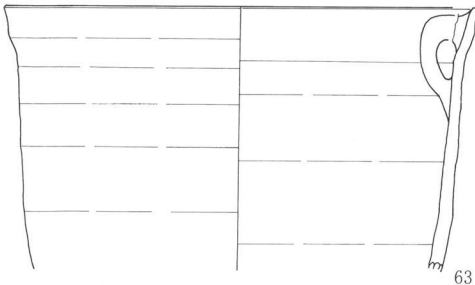
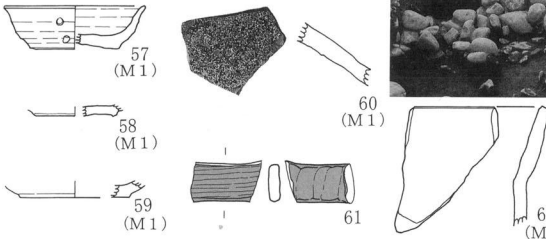
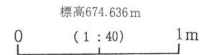
第3トレンチ石組2 (東より)



第12図 野沢館跡Ⅷ 第3 (1)・4トレンチ



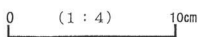
第2トレンチ
M1号溝址 (南より)



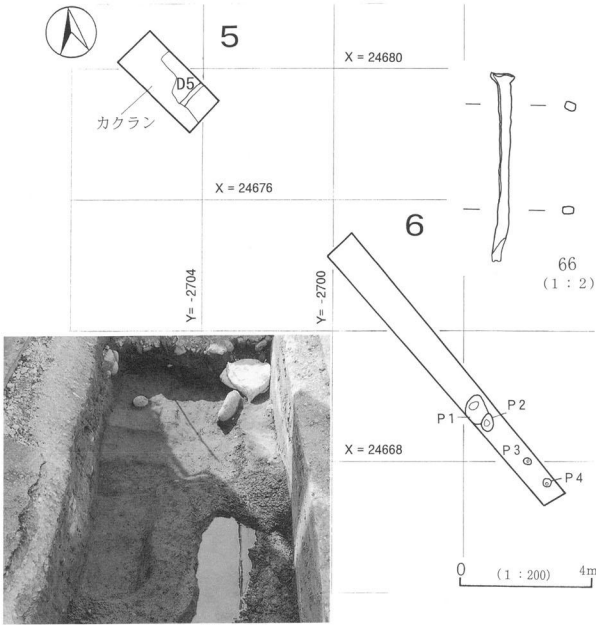
- A. 暗褐色土層 (10YR3/4)
砂〜3cm大の小礫を含む。
- B. 暗褐色土層 (10YR3/3)
20cm大の円礫を含み、
まれに土器を含む。

- M1
- 1. 黒褐色土層 (10YR3/2)
多量の円礫を含む。
- 2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
シルト質土。
炭化物粒子を含む。
- 3. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
シルト、砂、円礫を多量に含む。
- 4. 灰黄褐色土層 (10YR4/2)
砂層。
- 5. 灰黄褐色土層 (10YR4/2)
シルト質土、砂を含む。
- 6. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
〜20cm大の円礫、砂、炭化物粒子を含む。
深い堀底からは炭化材が出土。

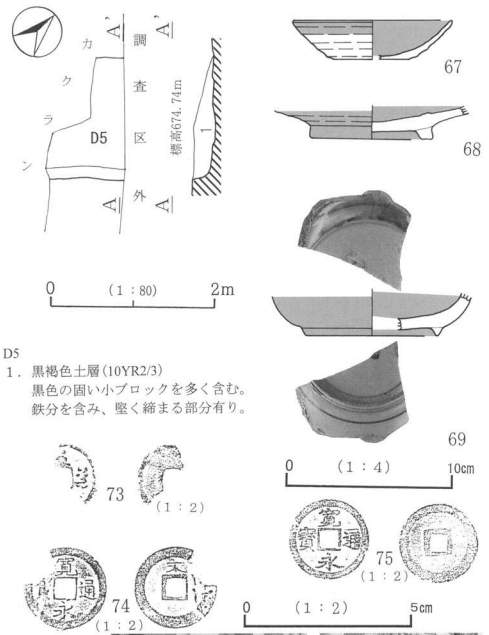
第2トレンチM1号溝址完掘 (南より)



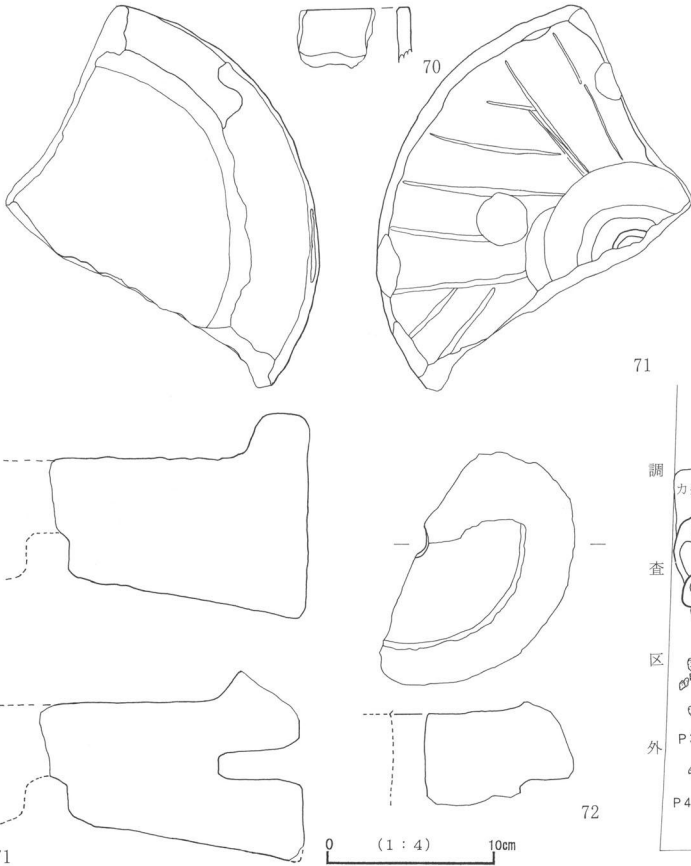
第13図 野沢館跡Ⅶ 第3トレンチ (2)



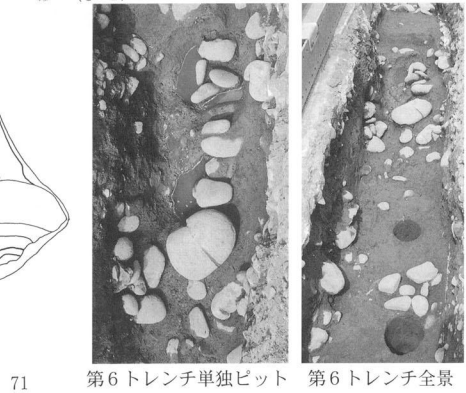
第5トレンチ全景 (北より)



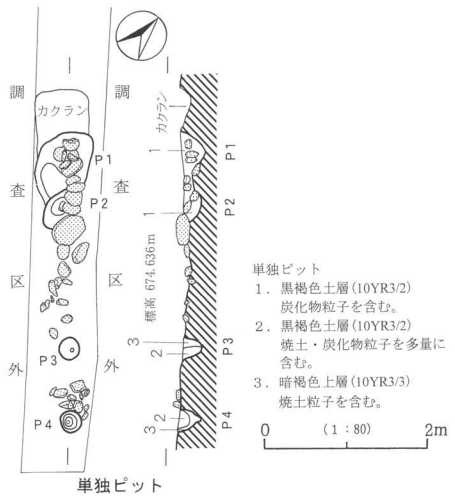
D5
1. 黒褐色土層(10YR2/3)
黒色の固い小ブロックを多く含む。
鉄分を含み、堅く縮まる部分有り。



第14図 野沢館跡Ⅷ 第5・6トレンチ



71 第6トレンチ単独ピット 第6トレンチ全景



単独ピット

1. 黒褐色土層(10YR3/2)
炭化物粒子を含む。
2. 黒褐色土層(10YR3/2)
焼土・炭化物粒子を多量に含む。
3. 暗褐色土層(10YR3/3)
焼土粒子を含む。

第6トレンチ

[主な遺構と遺物]

ガス管敷設で攪乱。

南側にピット群。

渡来銭、寛永通寶、石臼、前山灰釉灯明皿（18C末～19C前）、瀬戸・美濃灰釉鉢（18C末～19C前）、伊万里染付碗（18C末～19C前）出土。

[特徴]

中世の遺物・近世末の遺物あり。東側は第3図No.20地点にあたりアパート建設試掘の際、単独ピットと土坑を検出し、中世・近世の遺物を出土する。試掘では東端に二の郭の堀の範囲が確認されている。

第7トレンチ

[主な遺構と遺物]

Ta1号竪穴状遺構 一辺2.6mの方形。底面貼床され、平坦。貼床面と堀方からピット検出。播鉢（在地15・16C）、内耳（中世）、瀬戸・美濃稜皿（16C中）、大窯灰釉陶器皿（16C）、刀子、古銭、茶臼、砥石出土。検出面からは志野丸皿、黄瀬戸鉢（17C前）、瀬戸・美濃鉄釉丸椀（近世）など近世初期の陶器を出土。

Ta2号竪穴状遺構 Ta3を切る。長径2.95mの円形プラン、南に出入口、炉址あり。貼床あり。寛永通寶、煙管、角釘、瀬戸・美濃黄瀬戸鉢（17C前）、かわらけ（中世）内耳（15C後）。近世初頭の竪穴か。

Ta3号竪穴状遺構 隅丸方形一辺2m。炉址あり、床下に炭化物・焼土を含むピット。内耳（中世）、播石出土。

D7号土坑 円礫充填。Ta1を切る。上面より牛馬の歯、かわらけ（17・18C）、瀬戸・美濃鉄釉椀（近世）、青磁蓮弁文碗（13C後～14C前）、内耳（中世）出土。近世初頭の土坑。Ta2検出面の遺物も本址に該当か。

[特徴]

中世末から近世初頭の遺物を出土する竪穴状遺構と土坑。遺構密集する。

第8トレンチ

[主な遺構と遺物]

2層中よりかわらけ・内耳（中世）出土。

D9号土坑 伊万里染付皿（17C後）前山灰釉鉢・仏飯（18C末～19C前）、瓦（幕末以降）。

近世後半の土坑

D12・13号土坑 遺物なし。覆土より中世又は近世初頭の土坑であろうか。

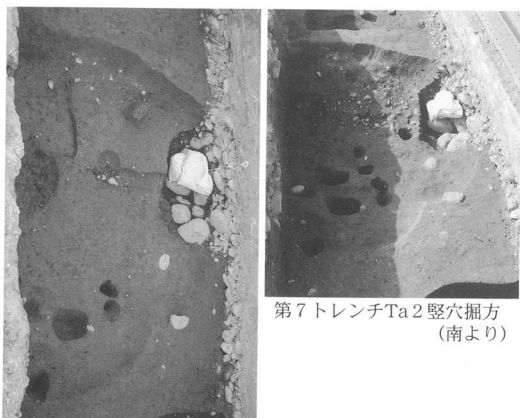
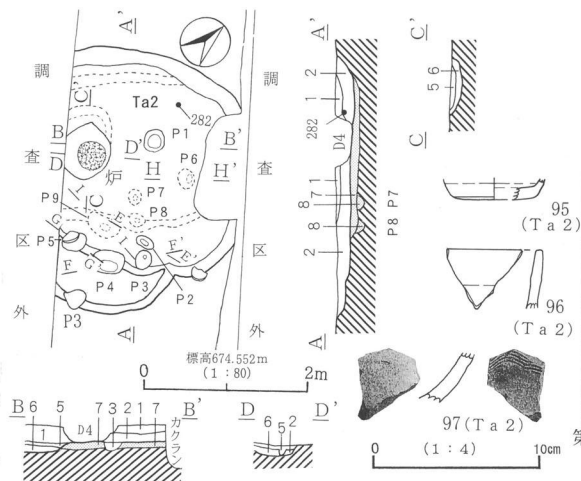
[特徴]

水道や排水のため発掘範囲が狭くプランが確定できない。内耳・かわらけの出土地点は、中世の竪穴状遺構があると推測される。

第9トレンチ

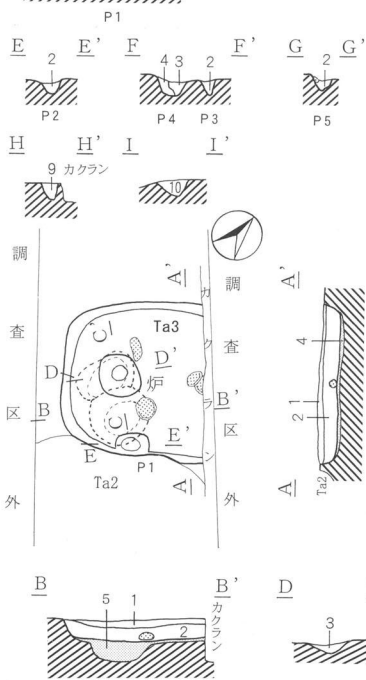
[主な遺構と遺物]

遺構なし。地山が砂層ないし砂礫層。暗渠を二本確認。



第7トレンチTa2 竪穴掘方
(南より)

第7トレンチTa2 竪穴 (西より)



Ta2

1. 黒褐色土層 (10YR3/2)
シルト質土。炭化物粒子をわずかに含む。
下に堅緻な面有り。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2)
シルト質土。炭化物粒子をわずかに含む。
上面に炭化物・灰層有り。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2)
4. 黒褐色土層 (10YR3/2)
5. 黒褐色土層 (10YR2/3)
焼土・炭化物粒子を含む。
灰・炭化物をまれに含む。

6. 黒色土層 (10YR2/1)
炭化物・灰層。
7. 黒褐色土層 (10YR3/2)
上に非常に堅緻な面有り。
8. 黒褐色土層 (10YR3/2)
灰・焼土粒子を含む。
9. 灰黄褐色土層 (10YR4/2)
小石を多量に含む。
10. 黒褐色土層 (10YR2/3)
灰・焼土粒子を含む。

Ta3

1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2)
下面に灰・炭化物層が薄く有り。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2)
焼土、炭化物粒子、シルトブロックを含む。
3. 黒色土層 (10YR2/1)
炭化物、灰層。焼土を含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/3)
上面非常によく締まる。(貼床)
5. 炭化物、焼土、小石を含む。



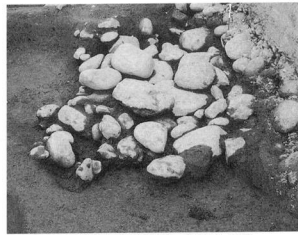
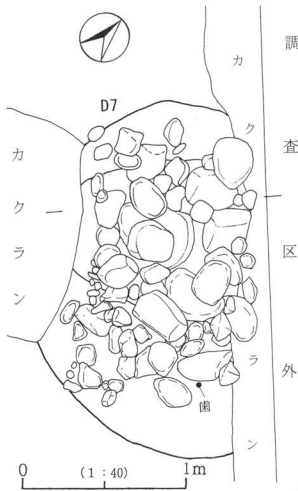
第7トレンチTa3 竪穴完掘 (南より)



第7トレンチTa3 竪穴掘方 (南より)



第16図 野沢館跡Ⅷ 第7トレンチ (2)

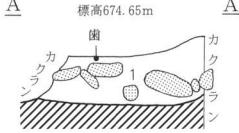


D 7号土坑礫群 (東より)



D 7号土坑 (南より)

1. 黒褐色土層 (10YR3/2)
上面にうすい炭化物灰層有り。
標高674.65m

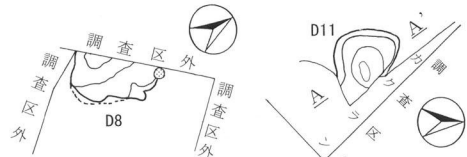
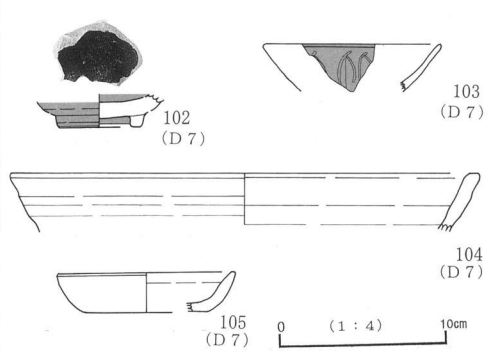
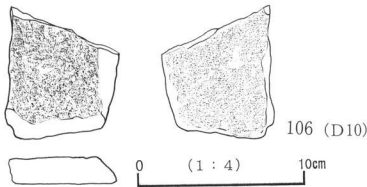


D4
1. 黒褐色土層 (10YR3/2)
シルト質土、炭化物粒子をわずかに含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
灰・炭化物層。

D10
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
炭化物粒子を多く含む。



標高674.65m



D8
1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
炭・灰・焼土粒子を含む。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
細かい砂の層。

D11
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
焼土・炭化物を少量含む。

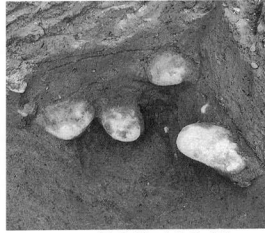
0 (1:80) 2m



D 4号土坑 (西より)



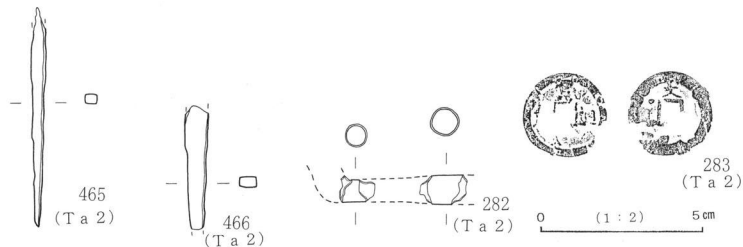
D 8号土坑 (東より)



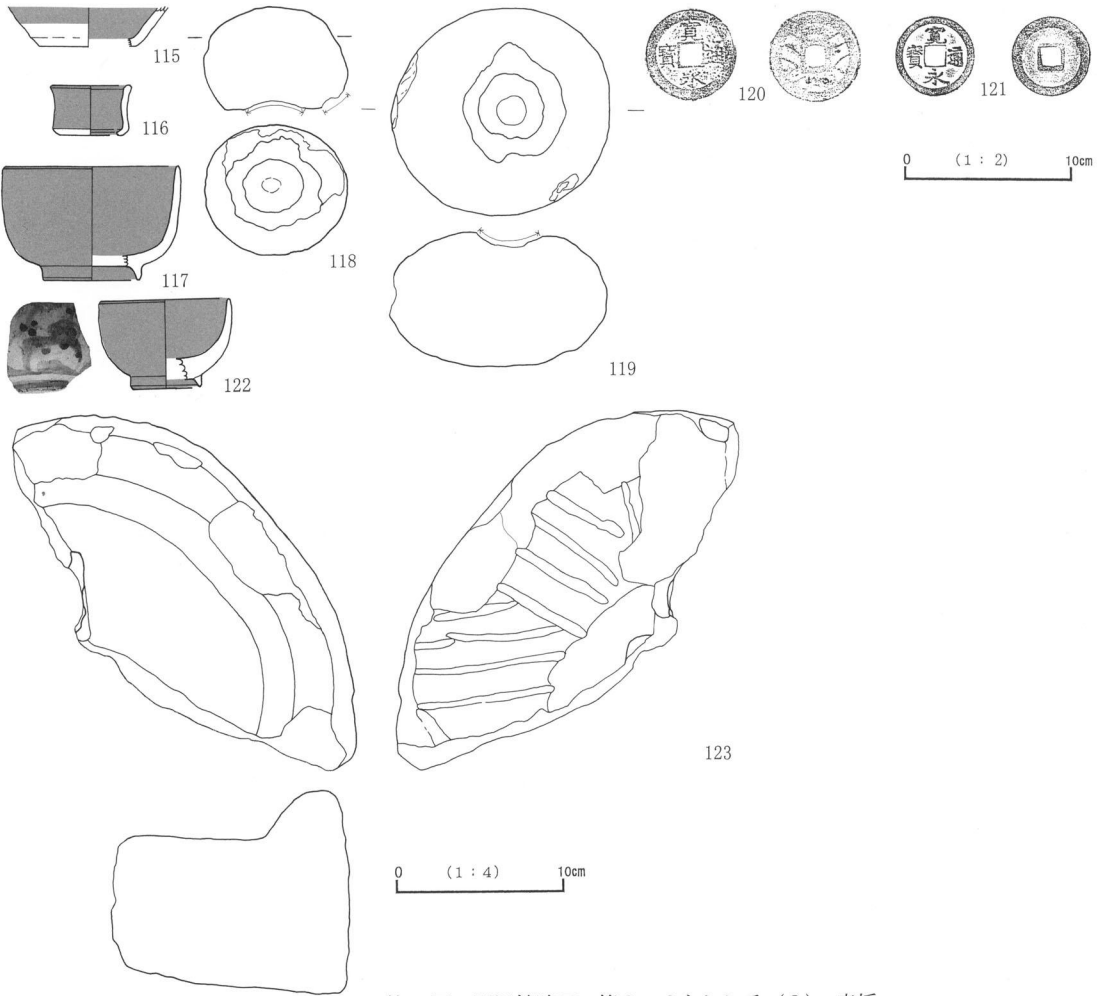
D 10号土坑 (北より)



D 11号土坑セクション (西より)



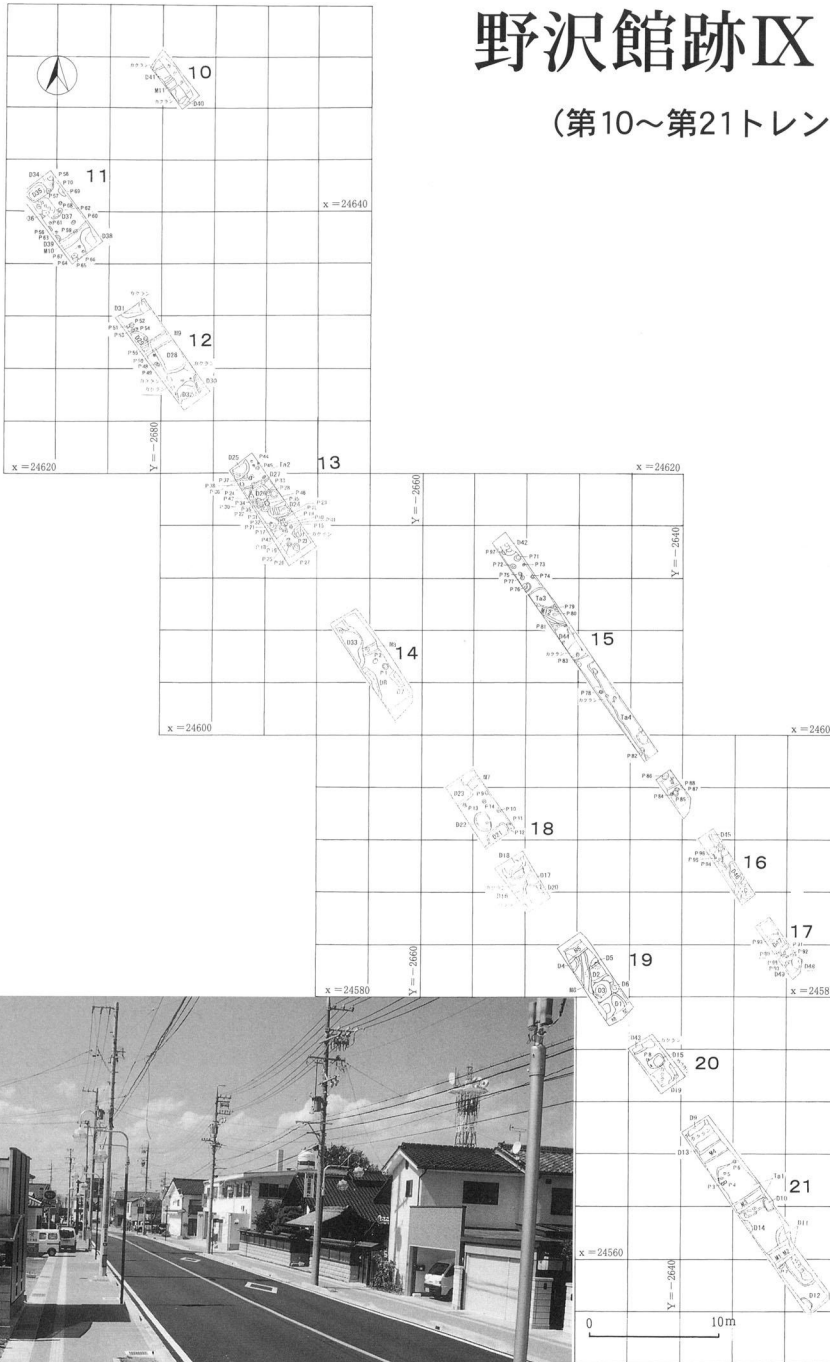
第17図 野沢館跡Ⅶ 第7トレンチ (3)



第19図 野沢館跡Ⅷ 第8・9トレンチ(2)・表採

野沢館跡IX

(第10～第21トレンチ)



道路工事終了後風景21トレから北を望む

第20図 野沢館跡IX 全体図
(1 : 500)

第2節 野沢館跡IX

第10トレンチ（道路東側）

[主な遺構と遺物]

東側水道管により破壊。

D40号土坑 プラン不明。40cmと深い。前山灰釉椀（18C末～19C前）出土。

D41号土坑 方形土坑？土坑の壁下に石列あり。伊万里染付椀（18C末～19C前）出土。

M11号溝址 石組み暗渠

[特徴]

近世の遺構。中世の遺物混入。

第11トレンチ

[主な遺構と遺物]

D34号土坑 規模・形態不明。底面は平坦で浅い。D35号土坑に切られる。内耳（中世）出土。

D35号土坑 長軸154cm短軸112cm深さ50cmを測る隅丸長方形の土坑。礫多く含む。かわらけ（中世）、内耳(15C後)出土。

D36号土坑 規模・形態不明・D35に切られる。

D38号土坑 規模・形態不明。円形土坑か。深さ56cm。多量の河床礫を含む。礫層の中より、石臼（上臼）・石搗鉢、前山鉄釉搗鉢（18C末～19C前）・唐津灰釉椀（17C）出土。

M10溝址（暗渠） 石組暗渠

[特徴]

中世の土坑、近世土坑、単独ピットなど遺構が密集。

第12トレンチ

[主な遺構と遺物]

D28号土坑 M9溝（暗渠）に切られる。柱穴がないため土坑とした。一辺3.12mを測る方形か。底面は平坦である。河床礫が入り込む。（写真参照）大窯灰釉稜皿（16C後）、大窯灰釉香炉（16C）、内耳（中世）、石搗鉢、凹石を出土。

D29号土坑 M9溝に切られる。円形か。浅い。暗渠に壊され規模不明。在地の土師質搗鉢（16C中）、内耳出土。

D30・D31号土坑 規模・形態不明。底面平坦。中世の竪穴状遺構か土坑と思われる。遺物なし。

D32号土坑 円形基調。深さ61cm。上層に河床礫と粘質土。下層砂礫層。伊万里白磁皿（近世）、灰釉陶器丸椀（18C）、火鉢（近世）出土。

M9号溝（暗渠） 石組暗渠。

[特徴]

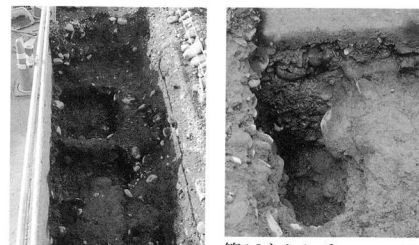
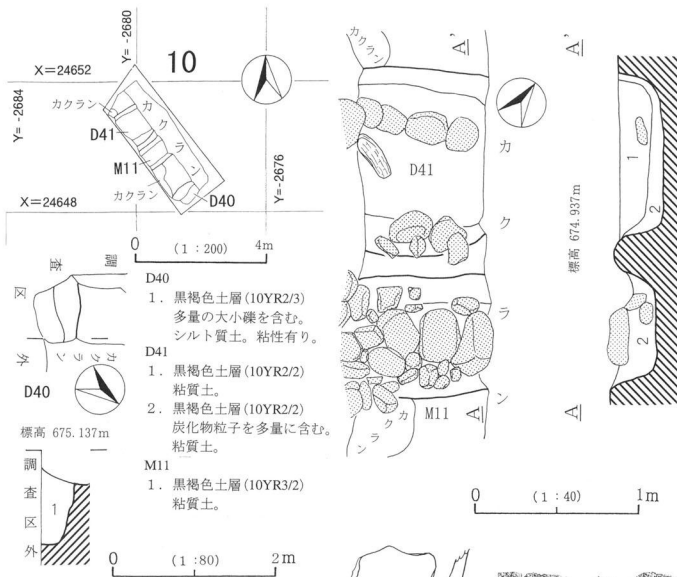
D28は竪穴状遺構か。中世の遺物出土。三の郭の中世遺構。近世の土坑。

第13トレンチ

[主な遺構と遺物]

Ta2竪穴状遺構 北で検出されたが重複が激しく規模・形態不明。164・165・170かわらけ（中世）もプラン上面で出土。

D25号土坑 径144cmの円形、深さ63cmと深い。多量の河床礫を含む。Ta2を切る。かわらけ（中世）・土師質香炉（中世）出土。

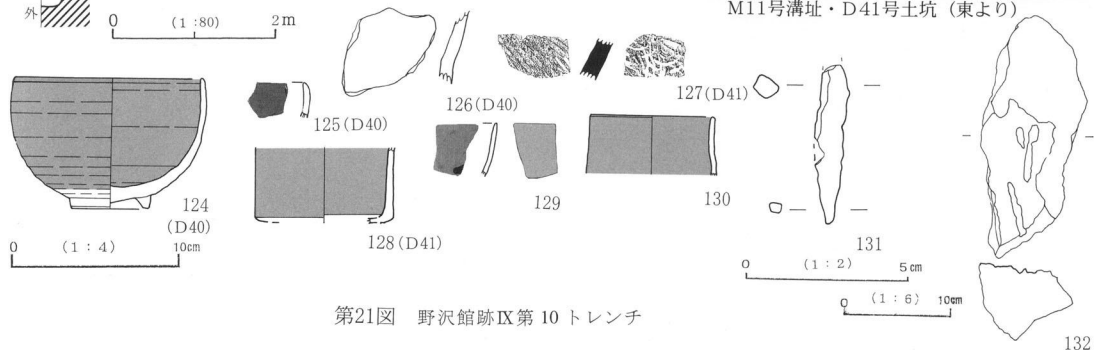


第10トレンチ
D40号土坑(東より)

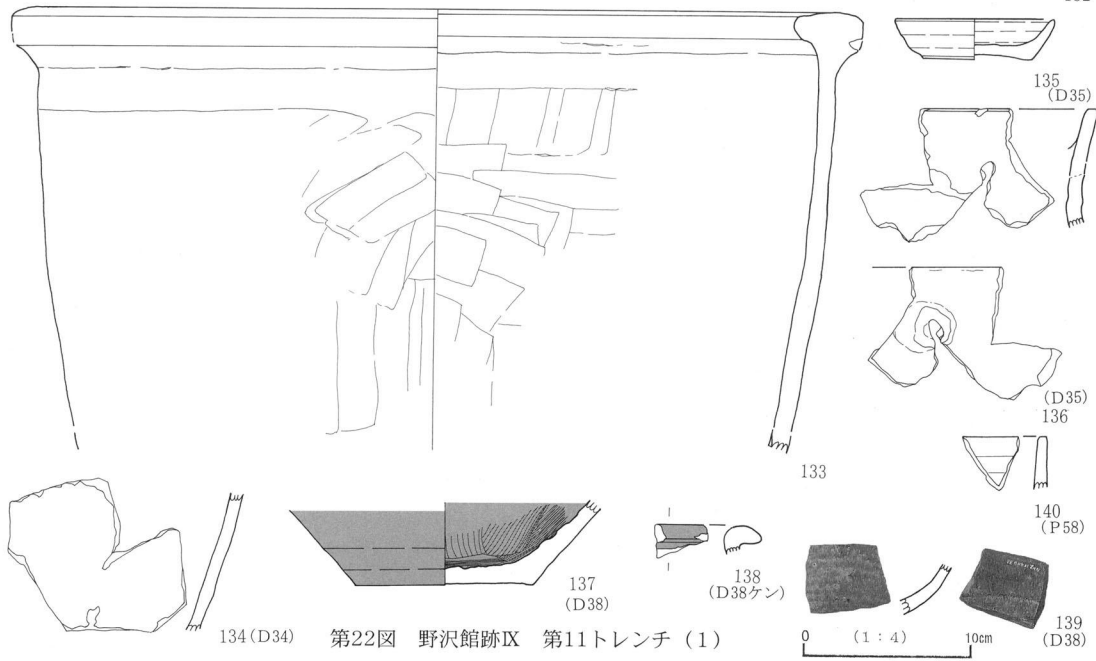
第10トレンチ 全景(南より)



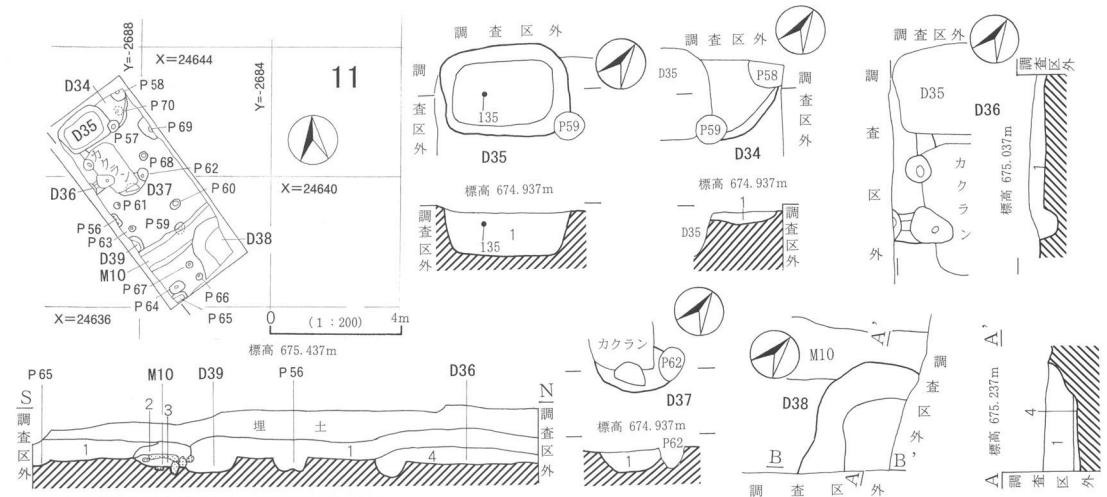
M11号溝址・D41号土坑(東より)



第21図 野沢館跡IX第10トレンチ



第22図 野沢館跡IX 第11トレンチ (1)



第11トレンチ全景 (南より)



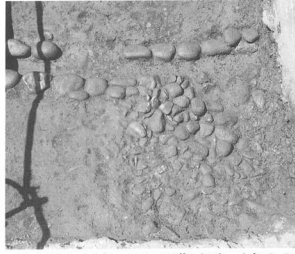
D35号土坑・カワラケ (西より)



D36号土坑 (東より)



D34号・D35号土坑(西より)



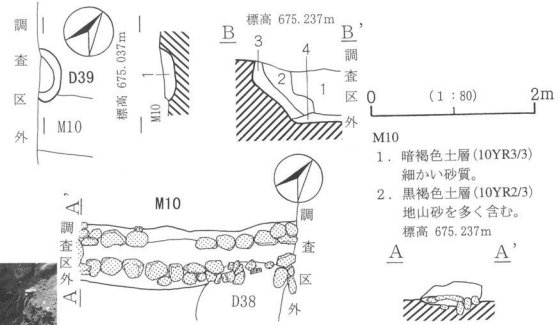
D38号土坑・M10溝址 (南より)



D38号土坑・M10溝址 (西より)



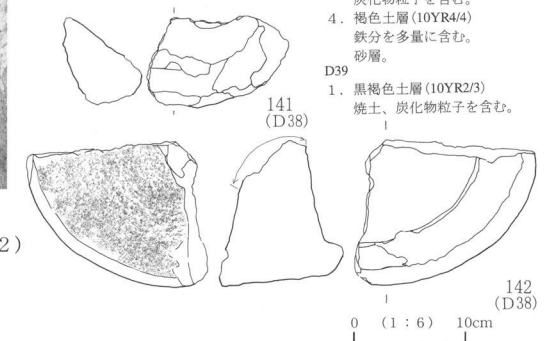
D38号土坑完掘 (西より)



Gトレ北

- 1. 黒褐色土層(10YR2/3) 焼土、炭化物粒子を含む。
- 2. 暗褐色土層(10YR3/3) 細かい砂質。
- 3. 黒褐色土層(10YR2/3) 地山砂を多く含む。
- 4. 黒褐色土層(10YR2/3) 焼土、炭化物粒子を含む、礫を多く含む。

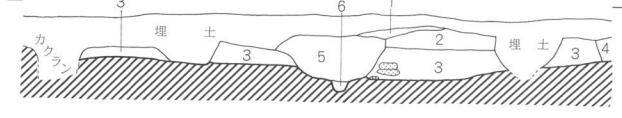
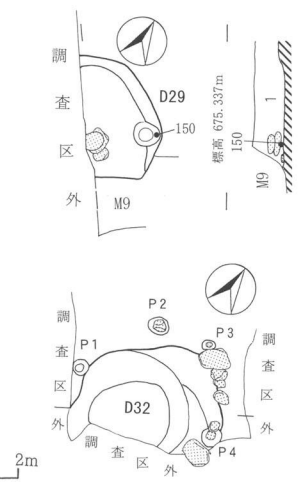
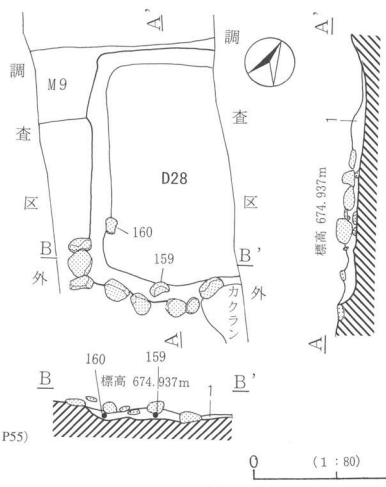
- D34 1. 黒褐色土層(10YR3/2) 焼土、炭化物粒子を含む。
- D35 1. 黒褐色土層(10YR2/3) 焼土、炭化物粒子を含み、5~10cm大の円礫を多く含む。
- D36 1. 黒褐色土層(10YR2/3) 焼土、炭化物粒子を含み、礫を多く含む。シルト質土。
- D37 1. 黒褐色土層(10YR3/2) 砂礫を多量に含み、炭化物、焼土粒子を含む。
- D38 1. 灰黄褐色土層(10YR4/2) 多量の大小礫の間に粘性強のシルト質土を含む。
- 2. 黒褐色土層(10YR3/2) 炭化物粒子を含む。
- 3. 灰黄褐色土層(10YR4/2) 炭化物粒子を含む。
- 4. 褐色土層(10YR4/4) 鉄分を多量に含む。砂層。
- D39 1. 黒褐色土層(10YR2/3) 焼土、炭化物粒子を含む。



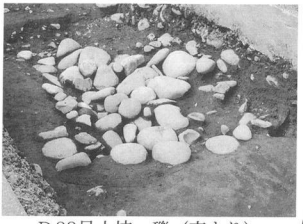
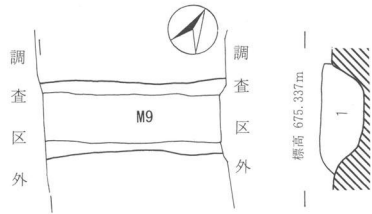
第23図 野沢館跡IX 第11トレンチ (2)



- Gトレ南
1. 黒褐色土層 (10YR3/2)
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 3. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 4. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 5. 黒褐色土層 (10YR3/2)
 6. 黒褐色土層 (10YR2/3) (単 P55)
- 埋土
- 標高 675.537m



第12トレンチ D30・D32号坑(南より)



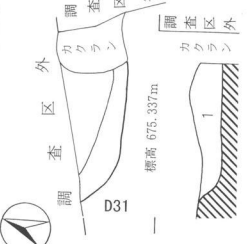
D28号土坑 礫 (南より)



D31号土坑 (西より)



D28号土坑完掘 (南より)



D32号土坑礫 (東より)



D32号土坑 (西より)



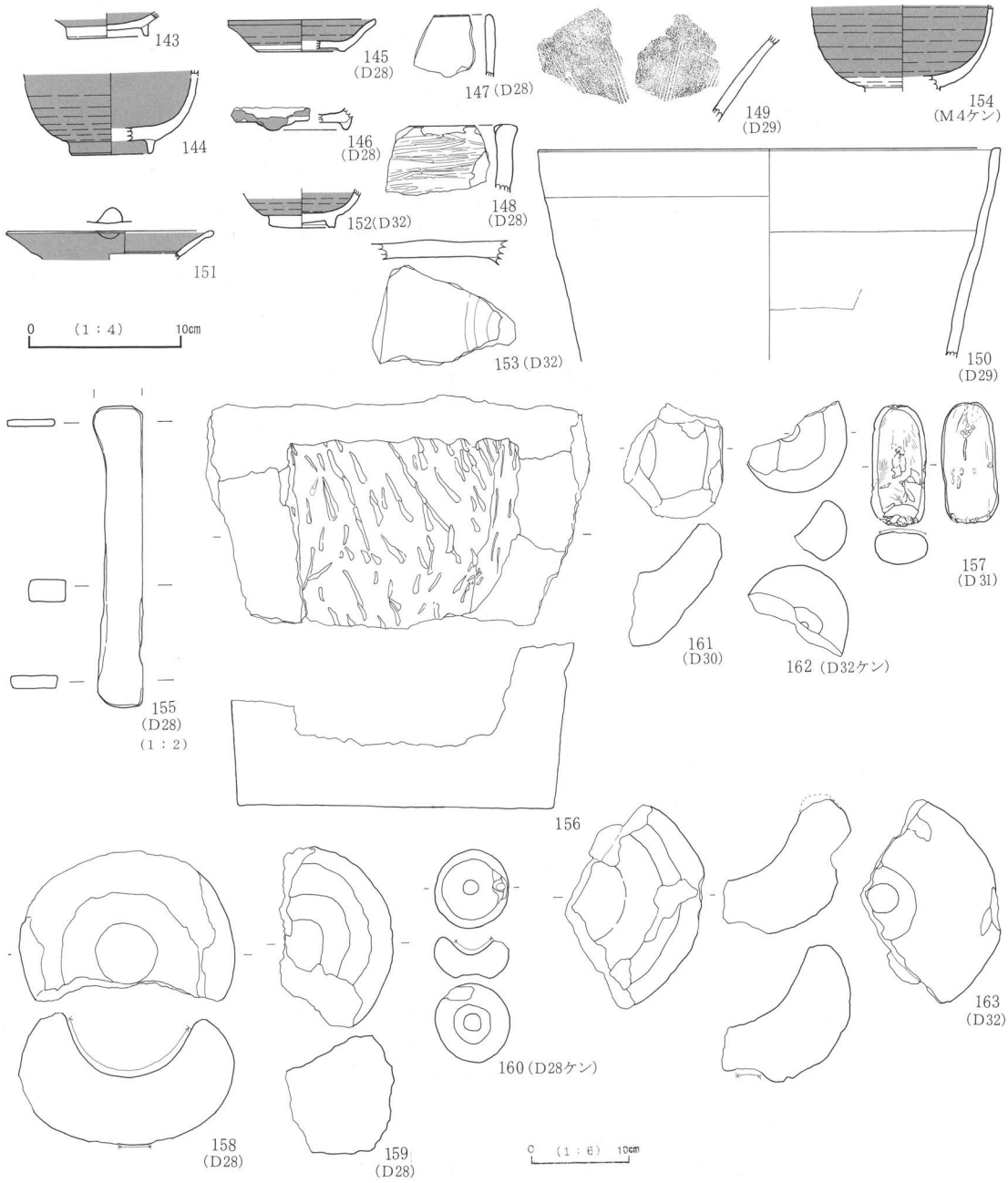
D29号土坑 (東より)



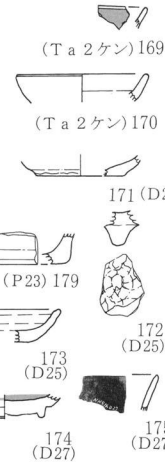
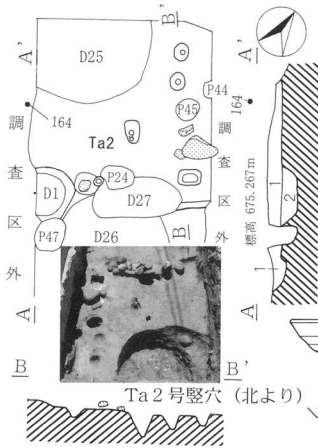
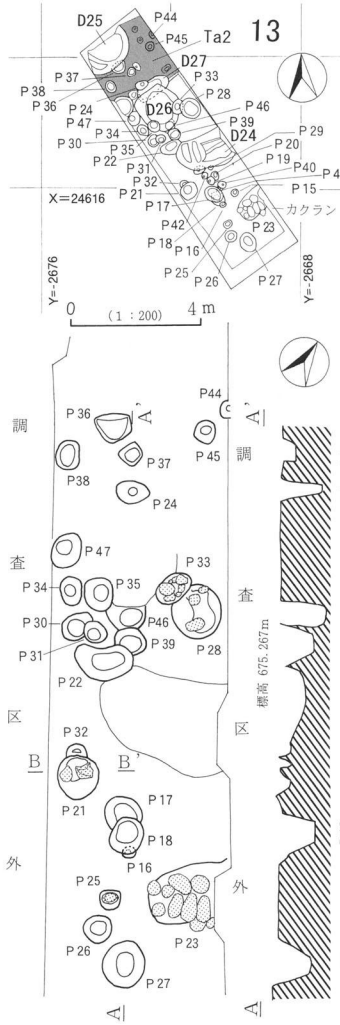
D30号土坑 (西より)

- D28
1. 黒褐色土層 (10YR3/1)
- 鉄分を含む粘質土。粘性有り。
焼土、炭化物粒子を含む。
- D29
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
- 焼土、炭化物粒子を含み、粘性が強い。
- D30
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2)
- 10 ~ 20 cmの礫を多く含み、
ややシルト質。
- D31
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
- 焼土、炭化物粒子、礫をわずかに含む。
- D32
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2)
 2. 黒褐色土層 (10YR3/2)
- 粘質土。大礫多量に含む。
焼土、炭化物粒子を含む。
砂質土に多量の河床礫を含む。

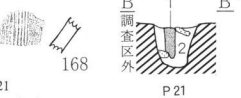
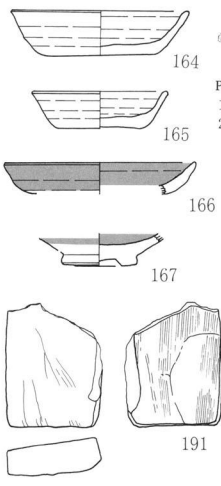
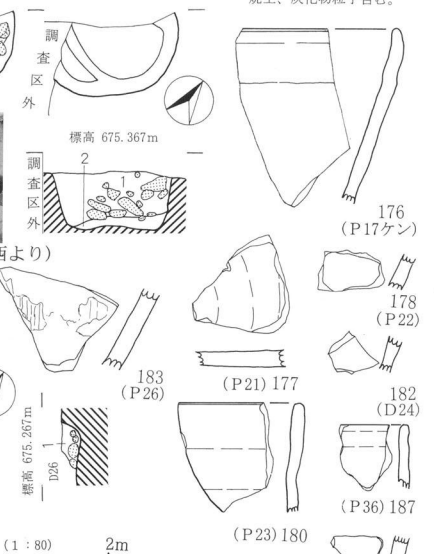
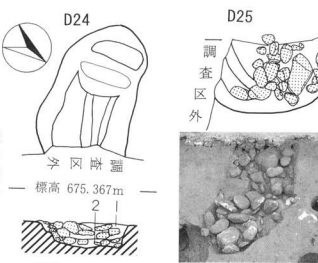
第24図 野沢館跡IX 第12トレンチ (1)



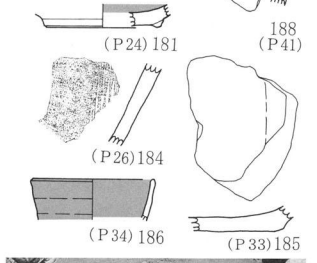
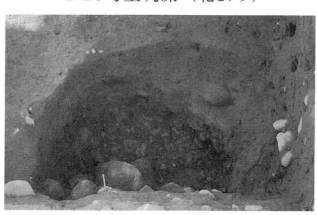
第25図 野沢館跡IX 第12トレンチ (2)



- Ta2
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 2. 暗褐色土層 (10YR3/3)
- D24
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
焼土、炭化物粒子を含む。
やや粘質。
 2. 暗褐色土層 (10YR3/3)
地山砂を含み、ブロックで
暗褐色土を含む。炭化物粒子
を含む。
- D25
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
シルト質土。
焼土、炭化物粒子を含む。
 2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
地山砂、砂礫層。
- D26
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
焼土、炭化物粒子を含む。
- D27
1. 黒褐色土層 (10YR3/2)
焼土、炭化物粒子含む。



- P21
1. 柱痕
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3)

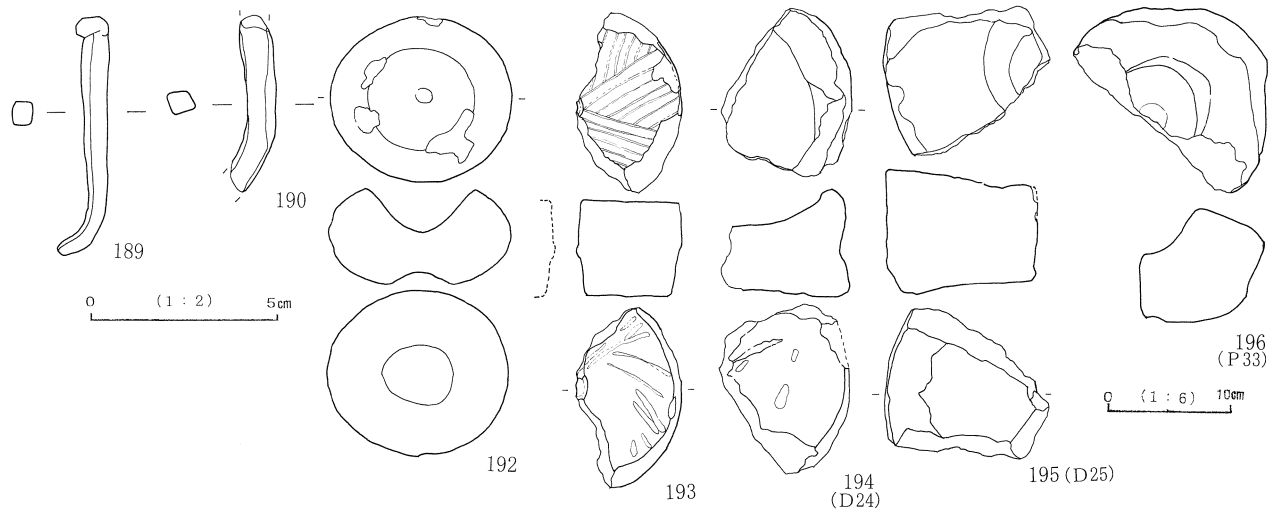


第13トレンチ全景 (南より)

D25号土坑完掘 (北より)

D26号土坑 (南より)

第26図 野沢館跡Ⅹ 第13トレンチ (1)



第27図 野沢館跡IX 第13トレンチ (2)

D27号土坑 長径108cmの長楕円の土坑。礫含む。前山鉄釉碗 (18C末～19C後)。
 単独ピット 32個検出。新旧あり、中世の遺物を出土ピットP21～24・26・33・36・41。内
 耳出土。P26・P34は近世遺物瀬戸・美濃播鉢 (17～18C)、鉄釉小碗 (近世) を出土する。

[特徴]

第12トレンチと同様中世の遺構が密集。遺物も多い。近世の遺構・遺物が少ない。

第14トレンチ

[主な遺構と遺物]

D7号土坑 一辺136cmの方形土坑。遺物はない。

D8号土坑 一辺268cm、底面平坦。内耳 (中世)・唐津碗 (17C)

D33号土坑とM8号溝 (暗渠) 土坑上面に河床礫含む。M8石組暗渠と接続。寛永通寶、唐津
 碗 (17C)

[特徴]

隣接する49-1番地の住宅新築の基礎工事の際、多数の石臼・凹石・石播鉢が出土。

第15トレンチ

[主な遺構と遺物]

Ta3 竪穴状遺構 M12号溝址 (暗渠) に切られる。円礫を詰め、上面は平坦に並べている。
 青磁香炉 (近代) 出土。

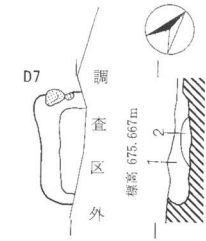
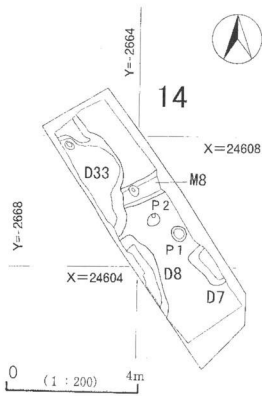
Ta4 竪穴状遺構 一辺11.20mを測る。南側少し浅い。全体に礫を敷き詰める。上面に小円礫
 を置く。一辺104cm深さ24cmの土坑あり。検出面より、青磁香炉 (近代)、内耳 (中世)、底面より
 永楽通寶・政和通寶、礫の中に凹石・石播鉢出土。

D42号土坑 円形基調、深さ65cm、塵穴か。黄瀬戸鉢 (17C)・唐津播鉢 (17C)・常滑 (中
 世) 出土。

D44号土坑 口径70cm残高58.8cmの素焼きの大甕を埋め込む。底は欠いて使用か。埋甕式便槽
 遺構。周囲に河床礫を敷き込む。甕の内部に前山灯明皿 (18C末～19C前)、染付碗 (19C)・火鉢
 類 (近世) が出土。

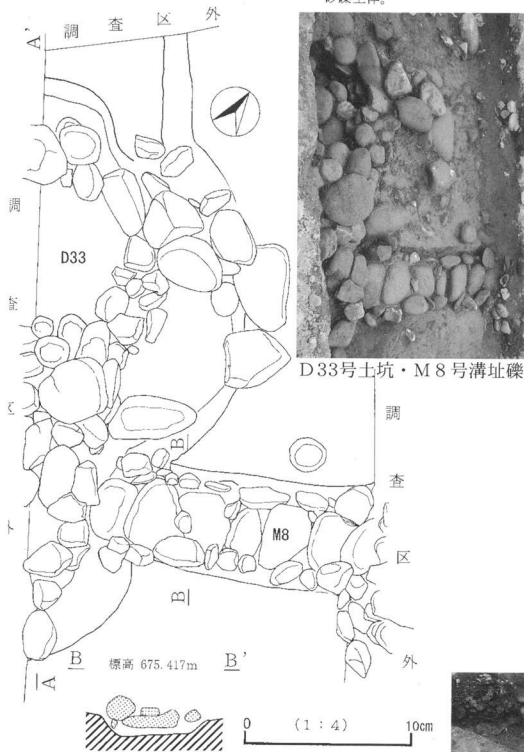
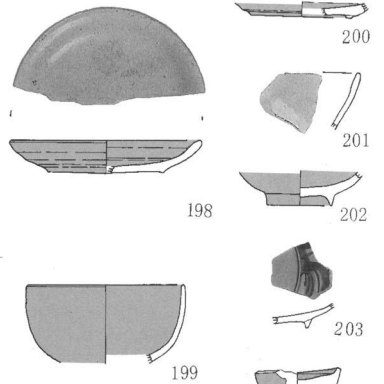
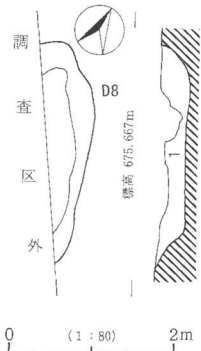
[特徴]

近世末～近代の厠。中世の竪穴状遺構。

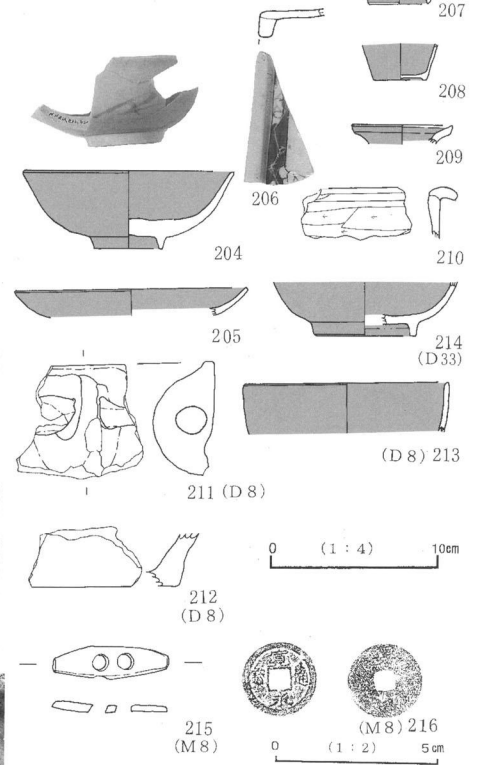
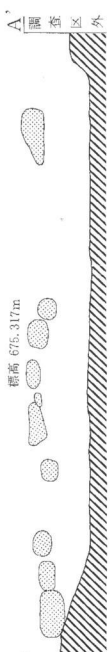


- D7
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) シルト、細砂粒土、炭化物粒子を含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂を含む。

- D8
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 砂礫主体。



D33号土坑・M8号溝址礎

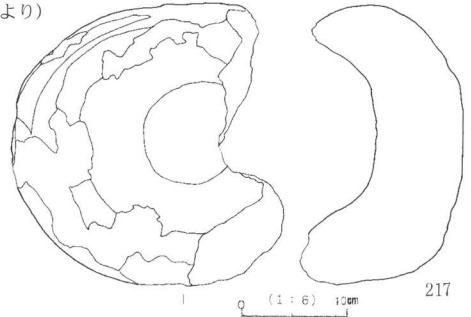


第14トレンチ全景(南より)

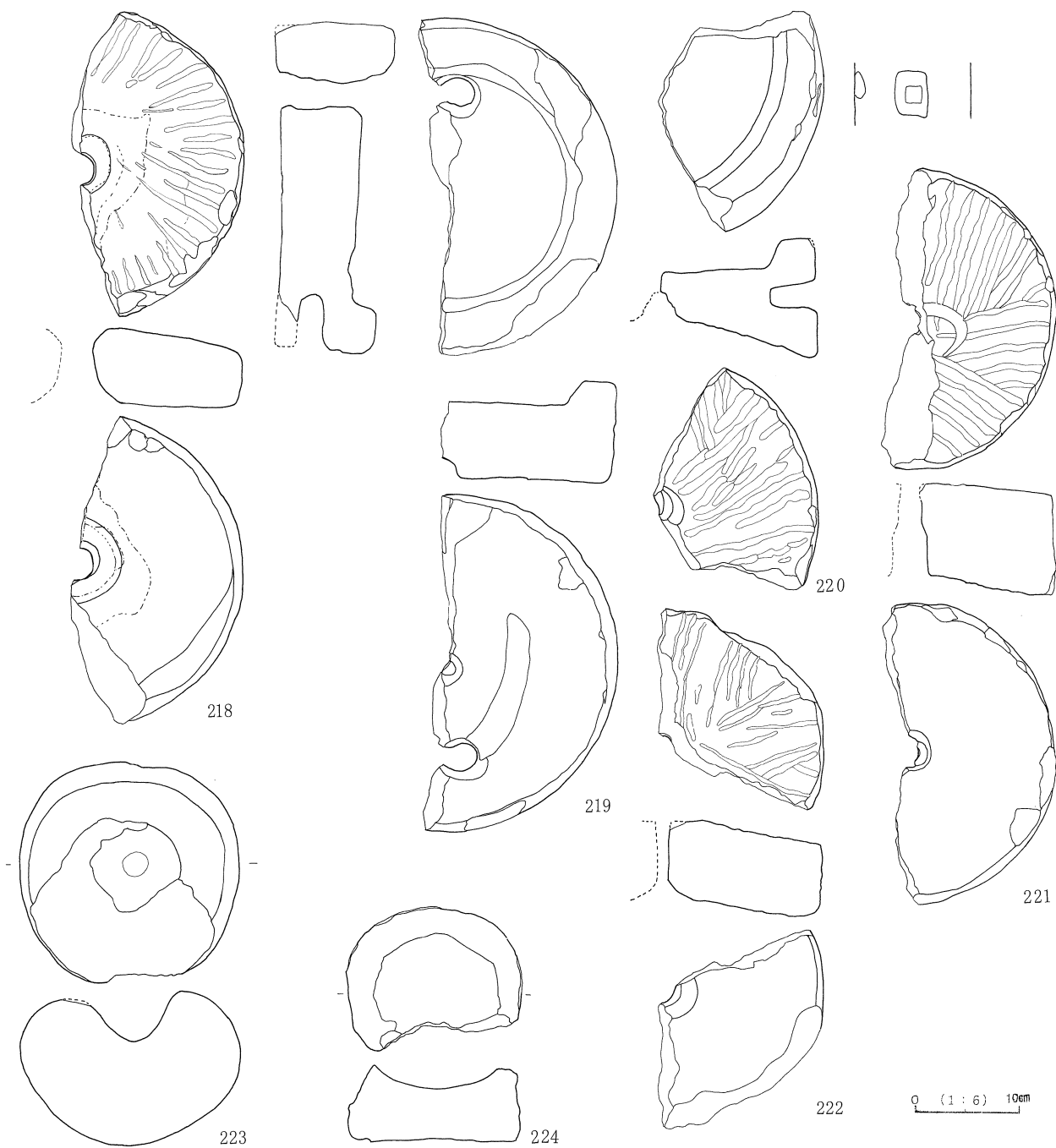


D33号土坑・M8号溝址完掘(東より)

D8号土坑(東より)



第28図 野沢館跡Ⅸ 第14トレンチ(1)



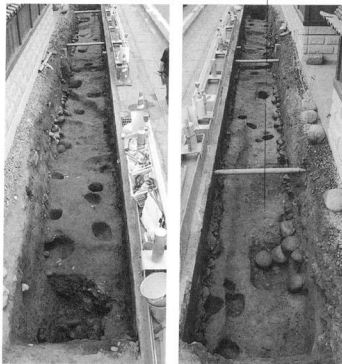
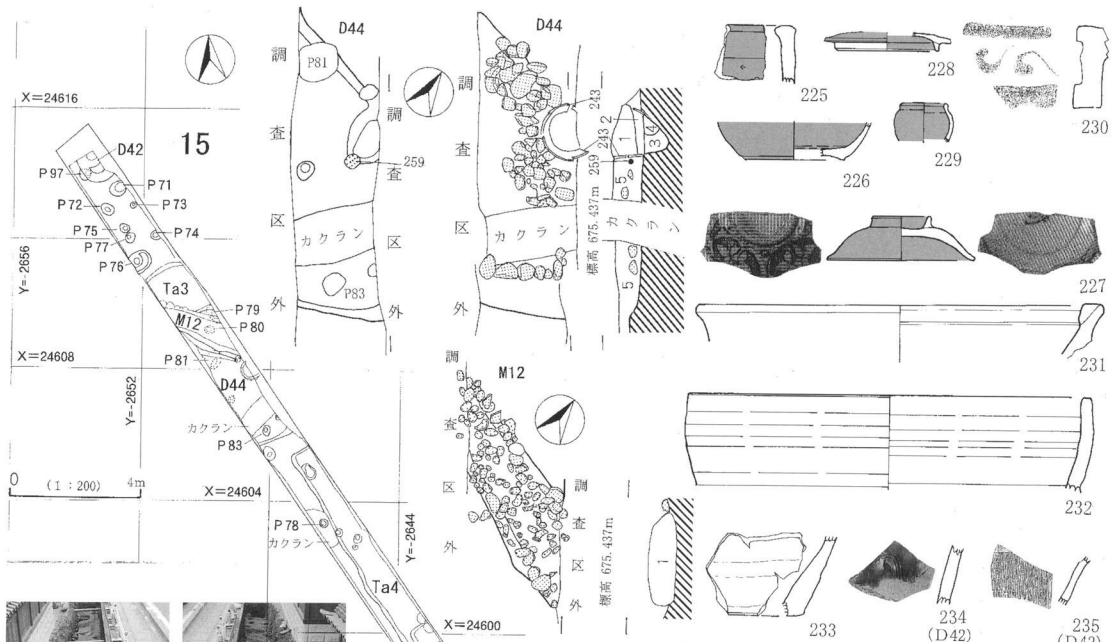
第29図 野沢館跡Ⅸ 第14トレンチ (2)

第16トレンチ

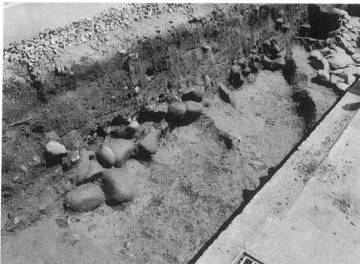
[主な遺構と遺物]

D45号土坑 近代の土坑。

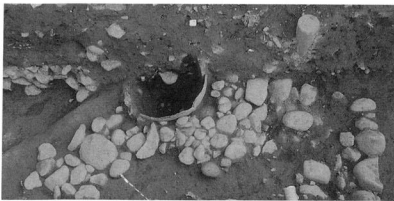
D46号土坑 土坑の北と南に河床礫を平坦に敷き詰める。古瀬戸灰釉平椀 (16C)、寛永通寶 (古寛永)、石臼出土。



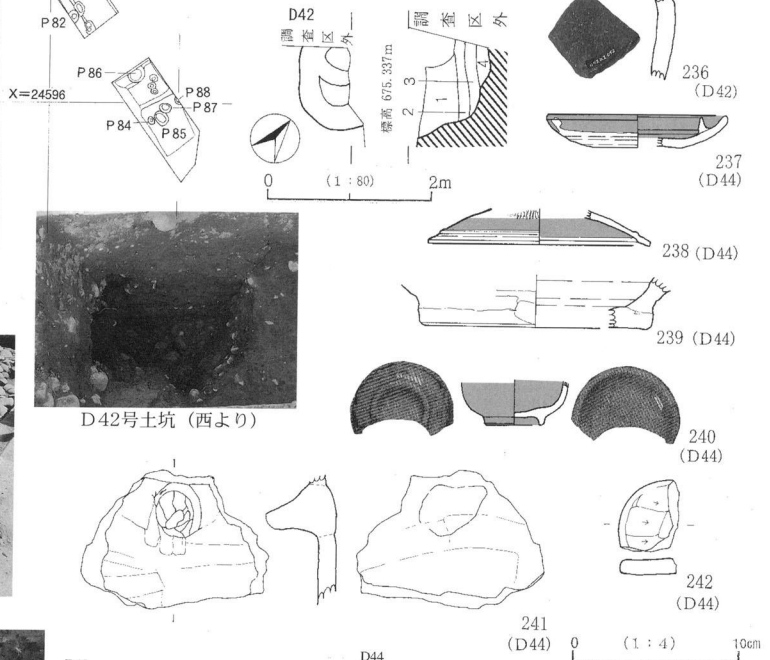
第15トレンチ(北より) 第15トレンチ(南より)



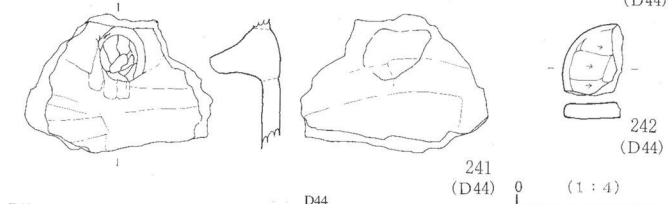
Ta3号竪穴・M12号溝址(西より)



D44号土坑(西より)



D42号土坑(西より)



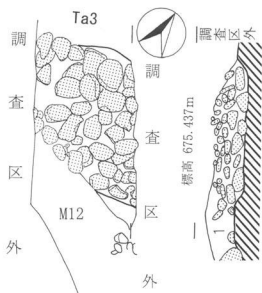
D42

1. 黒褐色土層(10YR3/2)
地山の黄褐色砂ブロックを多量に含む。
焼土、炭化物粒子を含む。
2. 黒褐色土層(10YR2/3)
シルト質土、締まる。
焼土、炭化物粒子を含む。
3. 黒褐色土層(10YR3/2)砂礫多い。
4. 黒褐色土層(10YR2/3)砂礫層。

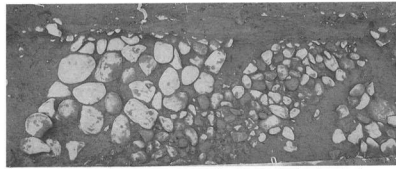
D44

1. 黒褐色土層(10YR2/3)
炭化物粒子を含む。
2. 黒褐色土層(7.5YR2/2)
焼土、炭化物粒子を含む。
3. 黒褐色土層(10YR2/3)砂礫土。
4. にぶい黄褐色土層(10YR4/3)
地山の細砂を含む。
5. 黒褐色土層(10YR2/2)
炭化物粒子を含む。

第30図 野沢館跡IX 第15トレンチ(1)



Ta3
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
炭化物粒子を含む。



Ta3号竖穴・M12号溝址 礫 (西より)



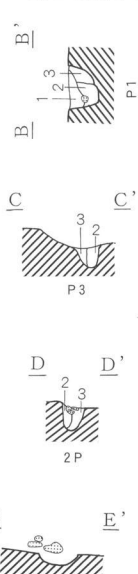
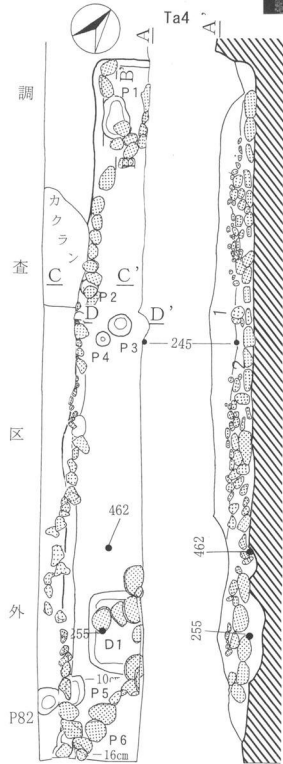
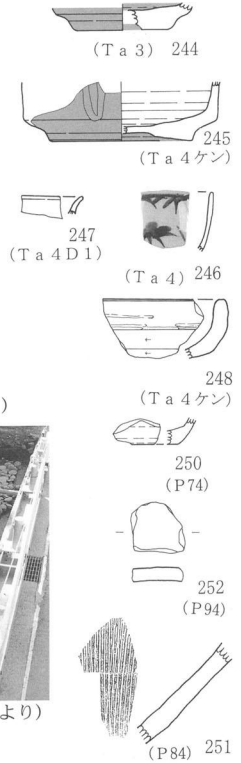
Ta4号竖穴 (北より)



Ta4号竖穴礫 (南より)

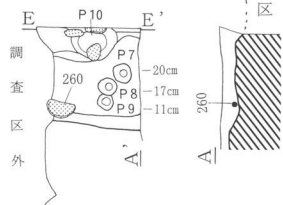
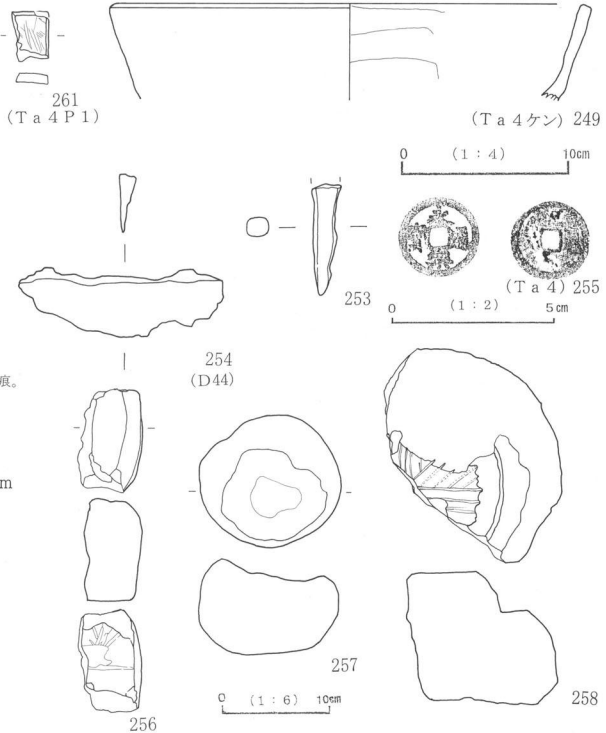


Ta4号竖穴礫 (北より)

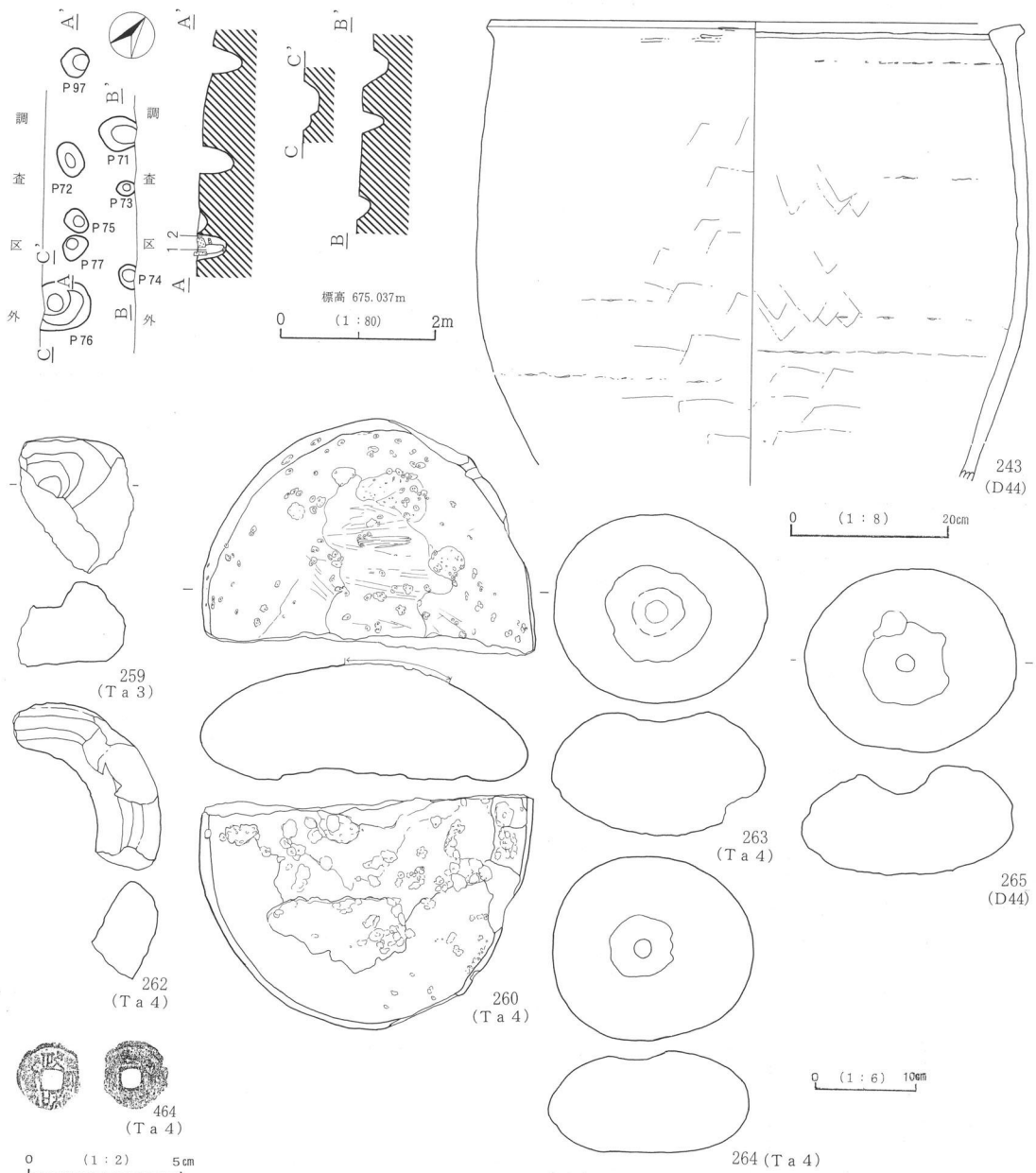


Ta4
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
焼土、炭化物粒子含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂ブロック含む。

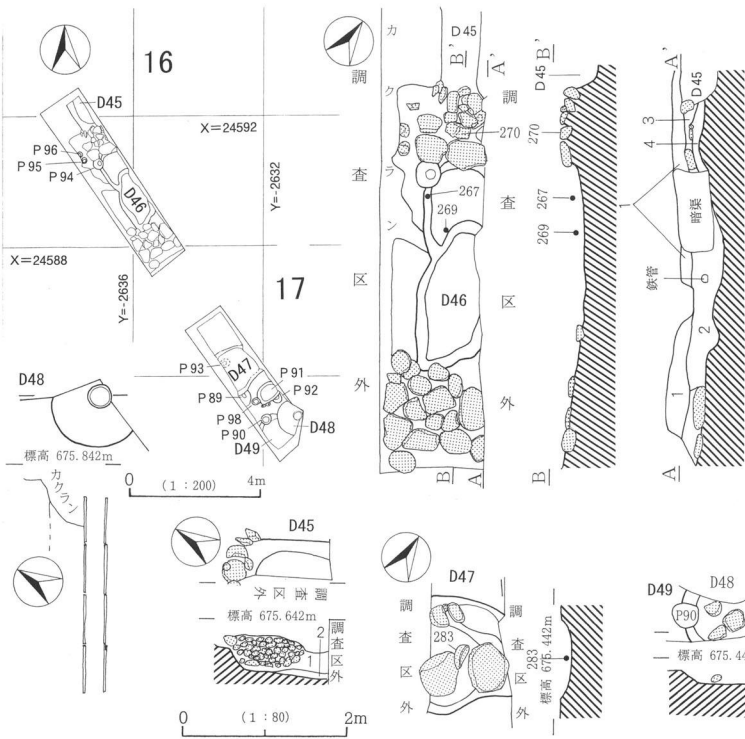
標高 675.437m
0 (1:80) 2m



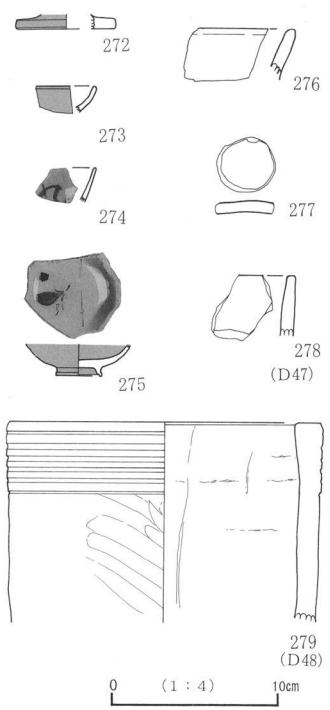
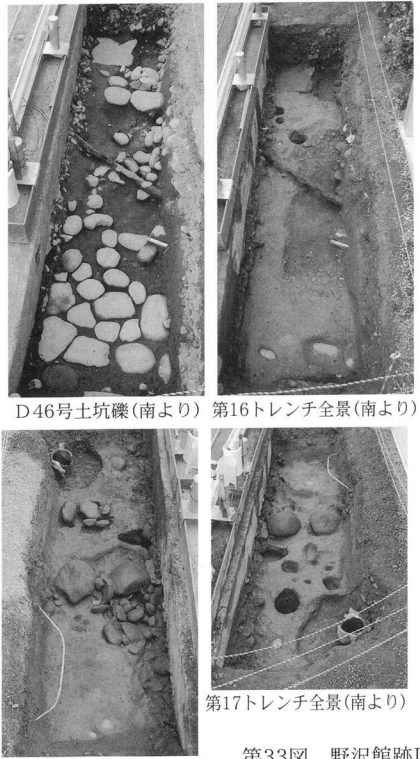
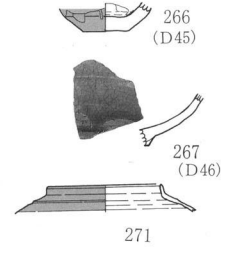
第31図 野沢館跡IX 第15トレンチ (2)



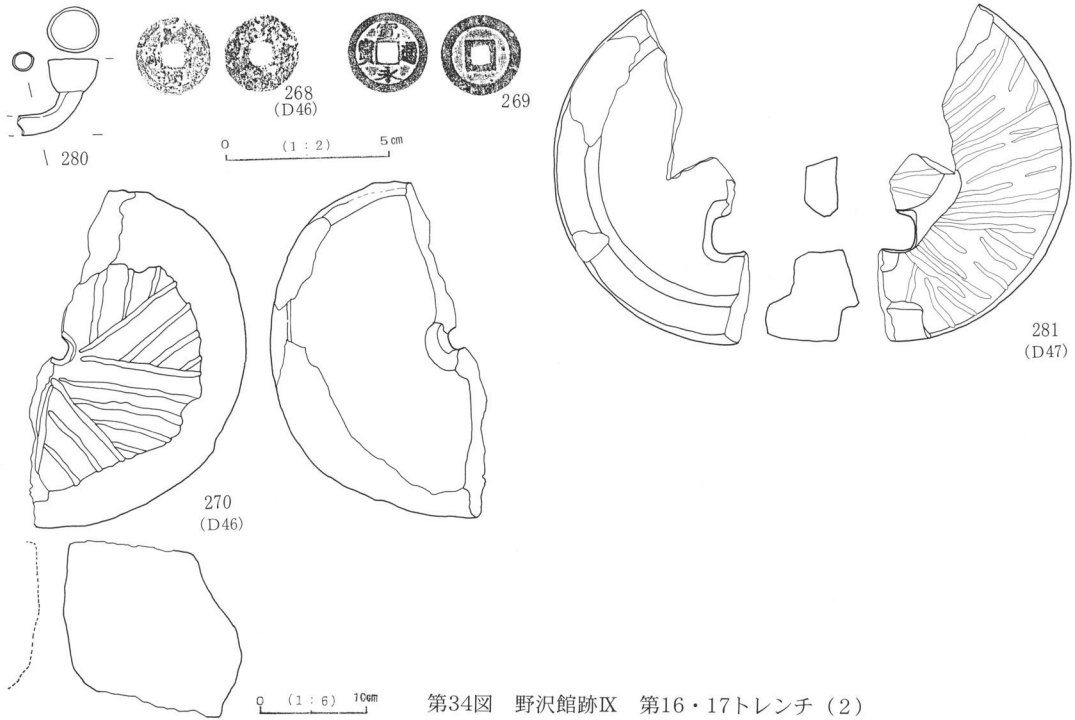
第32図 野沢館跡Ⅸ 第15トレンチ (3)



- D45
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
大小礫を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂礫層。
- D46
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
鉄分を含み、焼土、炭化物粒子を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) シルト質土。
焼土、炭化物粒子を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2)
粘性あり。焼土・炭化物粒子含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/3)
シルト質土。
焼土、炭化物粒子含む。
- D47
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山の細かい砂を含む。
焼土、炭化物粒子含む。
- D48
1. 暗褐色土層 (10YR3/4)
砂礫層。
- D49
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)



第33図 野沢館跡Ⅹ 第16・17トレンチ (1)



第34図 野沢館跡IX 第16・17トレンチ (2)

第17トレンチ

[主な遺構と遺物]

- D47号土坑 大礫あり。内耳 (中世) ・石臼出土。
 D48号土坑 円形。土管を井戸枠とする。近代の井戸。

[特徴]

近代の井戸。中世の土坑がある。

第18トレンチ (道路西側)

D16号土坑 攪乱によりプラン不明確。段をなして落ち込む。D18に切られる。前山錆釉灯明皿 (18C末~19C前)、伊万里染付碗 (18C末~19C前) 出土。

D21号土坑 一辺188cmの隅丸長方形の土坑。瀬戸・美濃灰釉陶器椀、伊万里染付椀 (18C末~19C前) ・内耳・火鉢・焙烙出土。

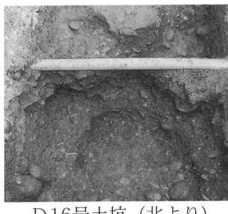
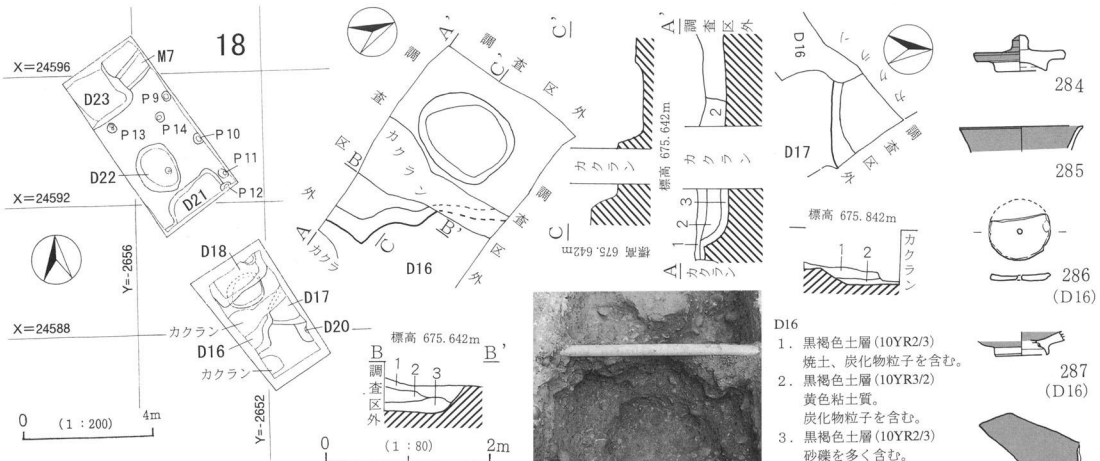
D22号土坑 158cm×120cmの楕円形。深さ40cmを測る。容器を埋納したセクションを呈す。土坑上面に寛永通寶15枚がまとまって出土。青磁蓮弁文碗 (13C)

D23号土坑 158cm×144cmの隅丸方形の土坑。深さ51cmを測る。礫を四壁に並べ、中に礫を入れ込む。東にはM7溝址 (暗渠) の石組が続く。軒平瓦 (幕末) ・砥石を加工した押型 (近世) 出土。M7からは前山片口鉢、搦鉢 (18C末~19C前)、石臼出土。近世末の遺構。

単独ピット P9~13。建物址か。南北の柱間296cmを測る。D22号土坑を囲む。

[特徴]

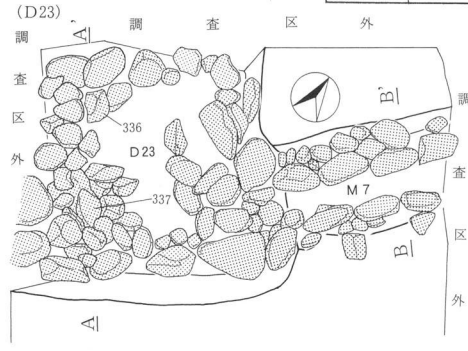
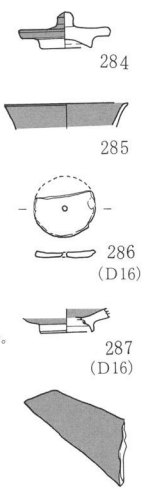
近世末の土坑と遺物が見られる。



D16号土坑 (北より)

- D16
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 焼土、炭化物粒子を含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 黄色粘土質。炭化物粒子を含む。
 3. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂礫を多く含む。

- D17
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 地山砂を多量に含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂質。



- D23
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 粘質土。炭化物粒子を含む。



D23号土坑 M7号溝址 礫(北より)



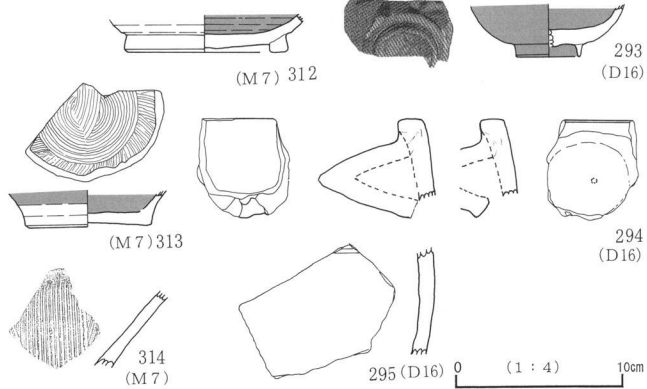
D23号土坑 M7号溝址 完掘(北より)



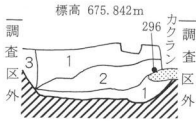
第18トレンチ全景(南より)



第18トレンチ全景(北より)

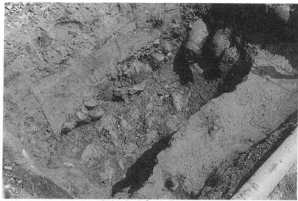


第35図 野沢館跡Ⅸ 第18トレンチ (1)



D18

1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
シルト質土主体に細かい砂がまじる。
炭化物、焼土粒子を含む。
2. 礫層
3. 黒褐色土層 (10YR2/3)
炭化物、焼土粒子を含む。



D18号土坑 (西より)

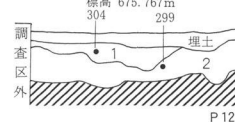
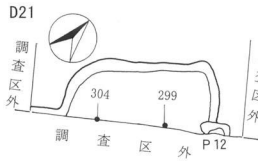


D20

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
炭化物、焼土粒子、粘土ブロックを含む。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
粘質土。
3. 褐灰色土層 (10YR4/1)
シルト質土。

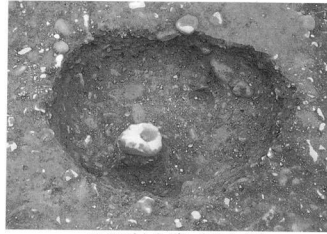


D20号土坑 (東より)



D21

1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
地山砂、焼土、炭化物粒子を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)
礫層。
炭化物を多く含み、粘性あり。

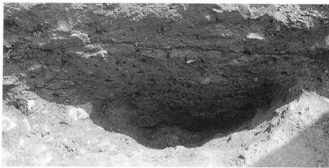
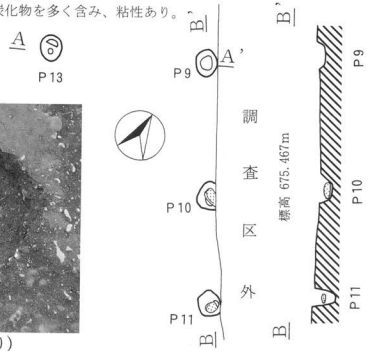


D21号土坑 (東より)

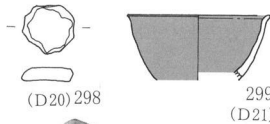


D22

1. 黒褐色土層 (10YR3/2)
シルト質土。
炭化物粒子を含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3)
細かい砂層。
炭化物粒子を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3)
炭化物粒子を含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/3)
3層より締まる。
炭化物粒子を含む。

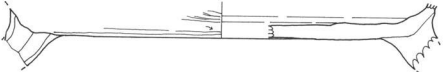
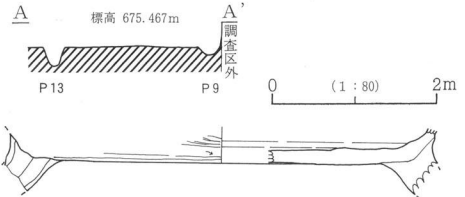


D20号土坑 (西より)

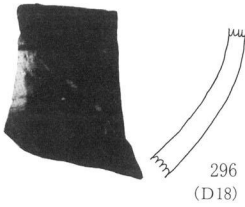


(D20) 298

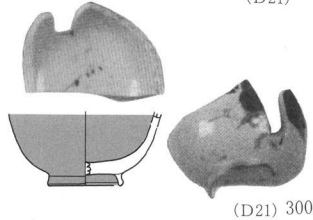
299 (D21)



(D21) 304

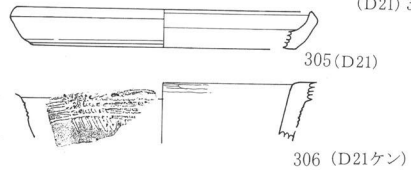


296 (D18)



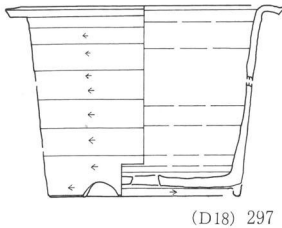
(D21) 300

301 (D21ケン)

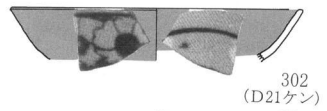


305 (D21)

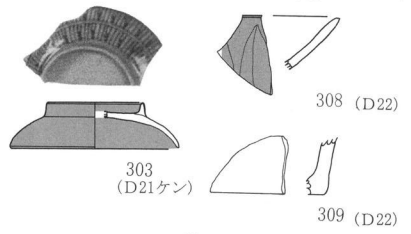
306 (D21ケン)



(D18) 297



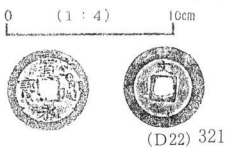
302 (D21ケン)



303 (D21ケン)

308 (D22)

309 (D22)



(D22) 321



(D22) 322



(D22) 318

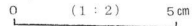
(D22) 319

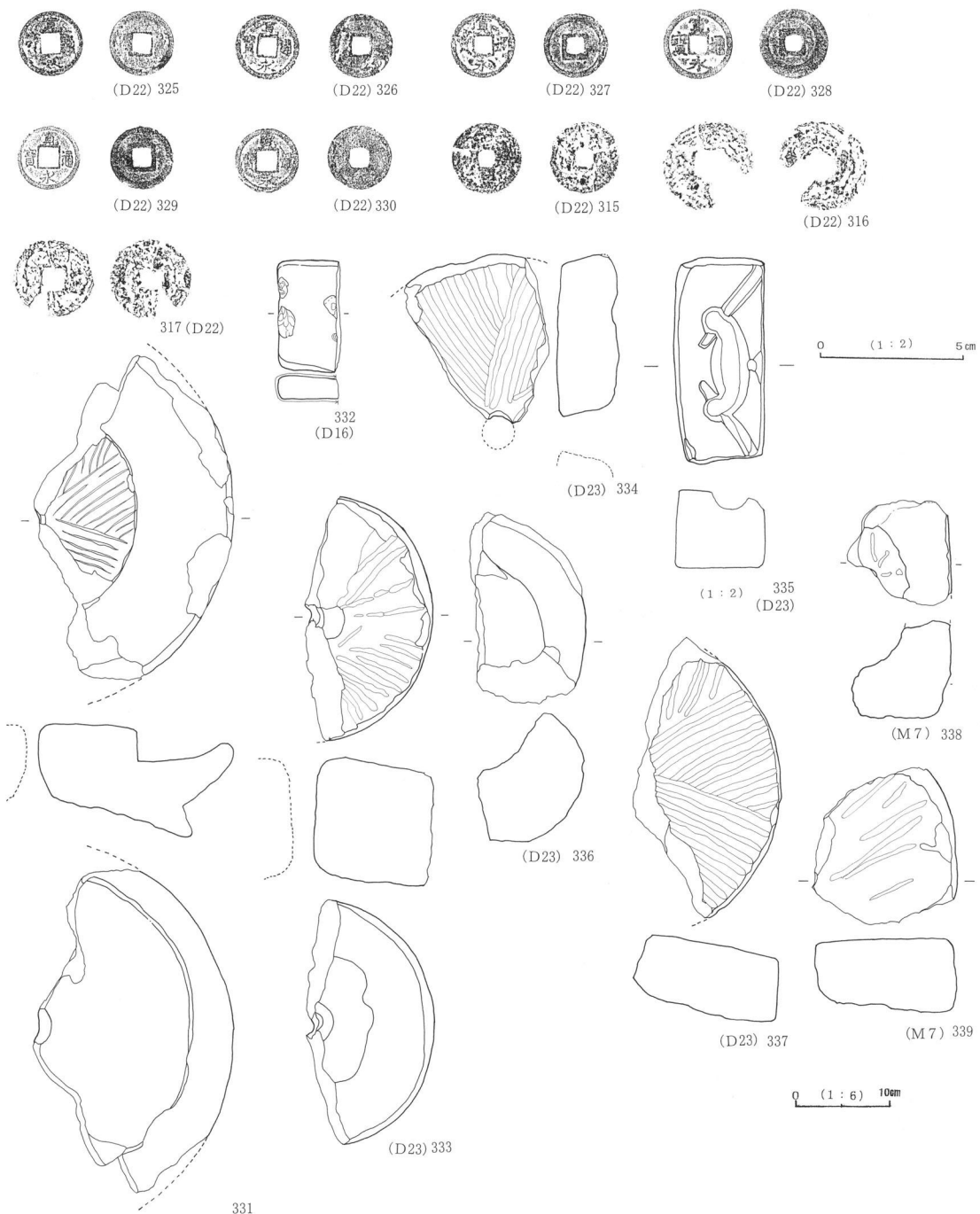


(D22) 320

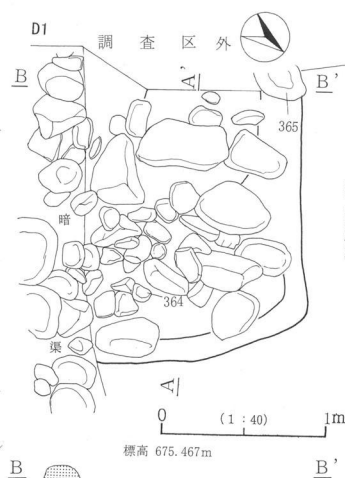
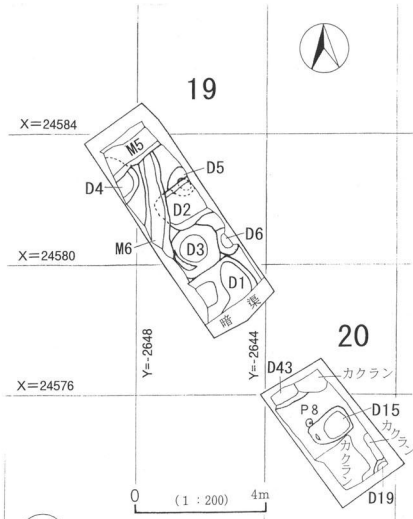
(D22) 324

第36図 野沢館跡区 第18トレンチ (2)

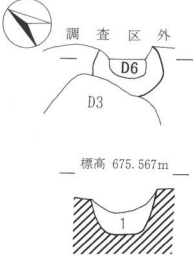
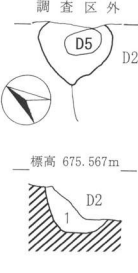
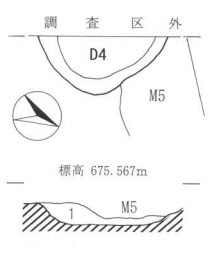
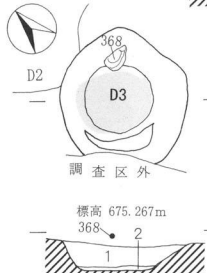
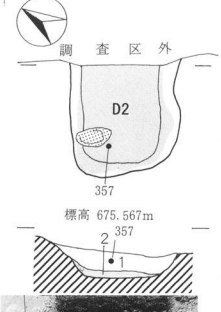




第37図 野沢館跡IX 第18トレンチ (3)



- D1
1. 褐灰色土層 (10YR4/1) 3cm大礫を含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂礫層。
- D2
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 粘土ブロック・大小礫を含む。
 2. にぶい黄褐色土層 (10YR7/2) 粘土。
- D3
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂礫を多く含む。
 2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) シルト質土粘性有り。
- D4
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 細かい砂、シルト主体。炭化物粒子を含む。
- D5
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 多量の円礫を含む。やや砂質。べたつく。
- D6
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 多量の円礫を含む。やや砂質。べたつく。

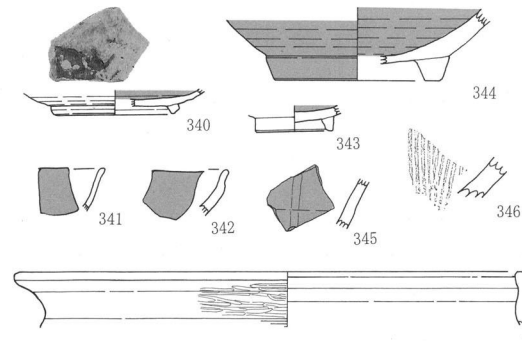


第19トレンチ全景(北より)

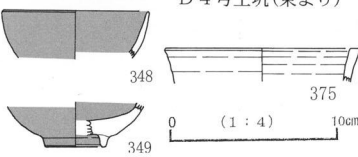
D1号土坑(北より)

D2号土坑(東より)

D3号・D6号土坑(東より)

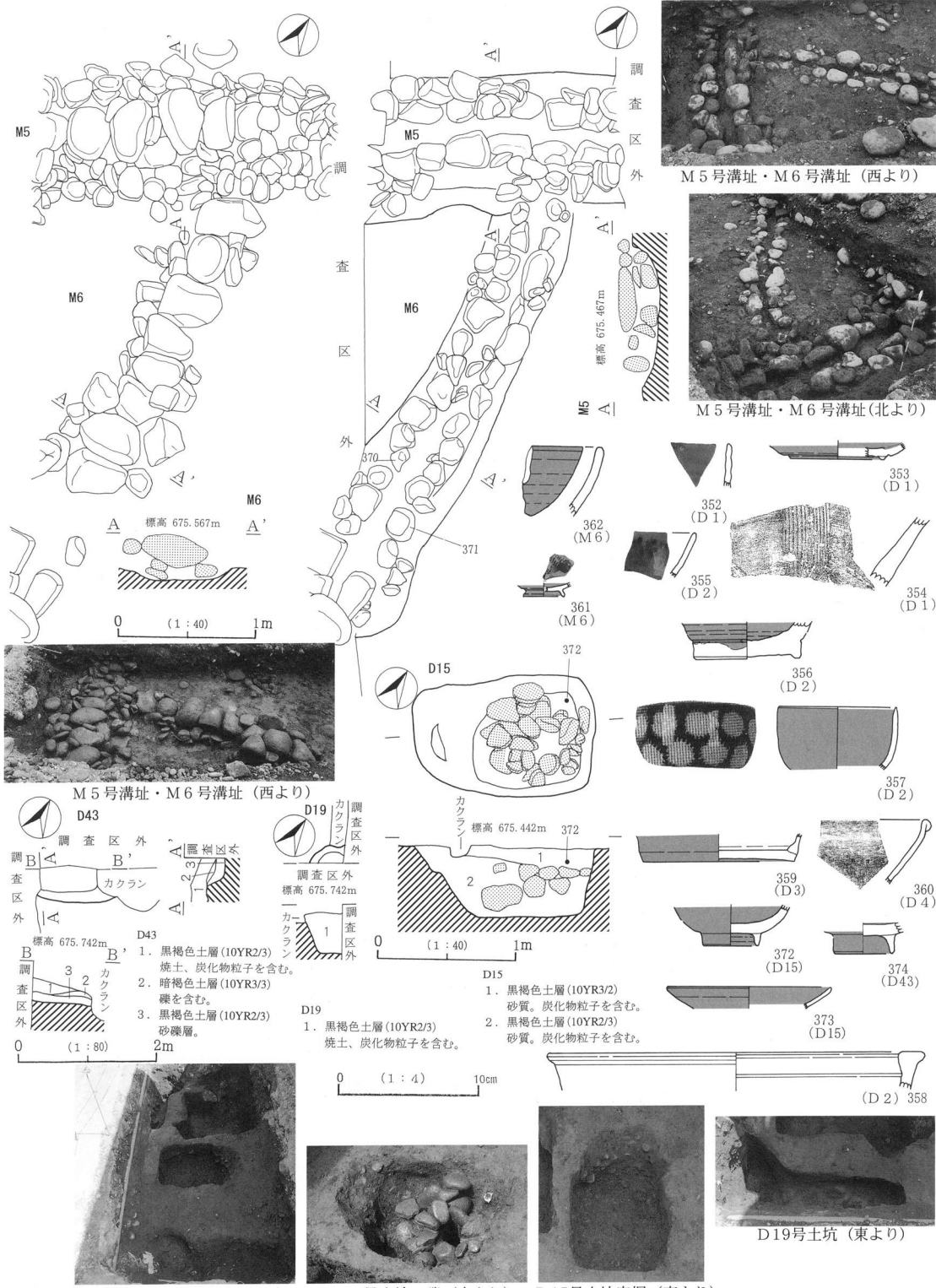


D4号土坑(東より)

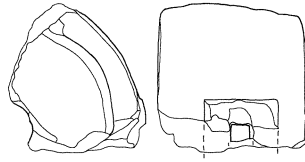
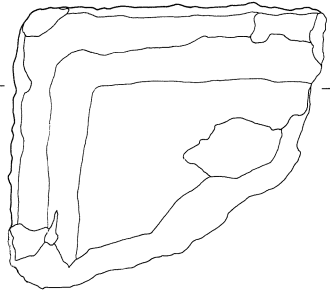
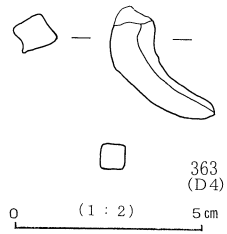


第38図 野沢館跡IX 第19・20トレンチ(1)

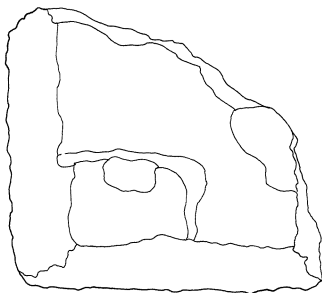
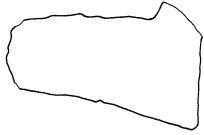
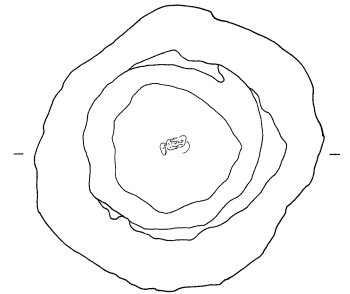
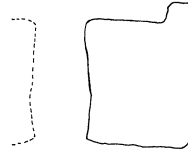
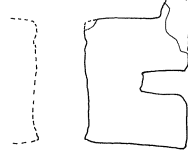
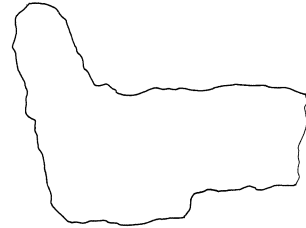
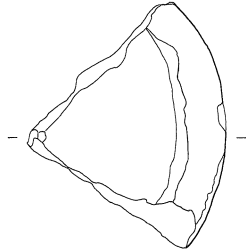
0 (1:4) 10cm



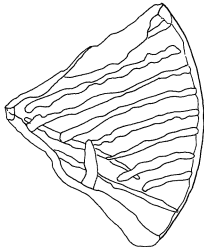
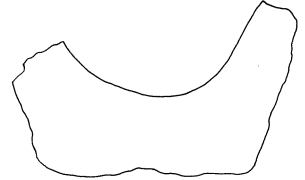
第39図 野沢館跡IX 第19トレンチ (2)



0 (1:4) 10cm

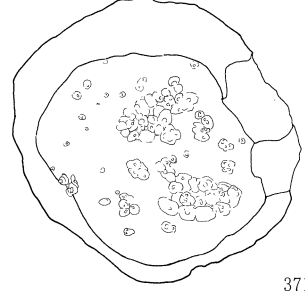
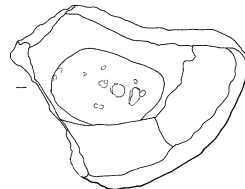


366 (D 2)

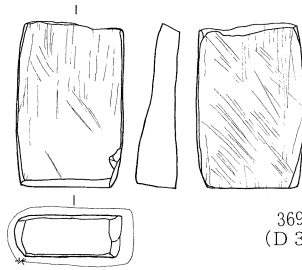
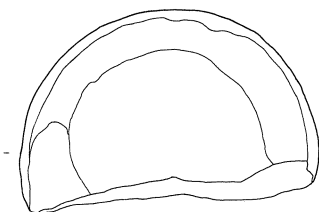


364 (D 1)

365 (D 1)



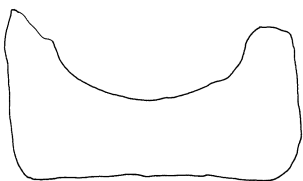
371 (M 6)



369 (D 3)



370 (M 6)

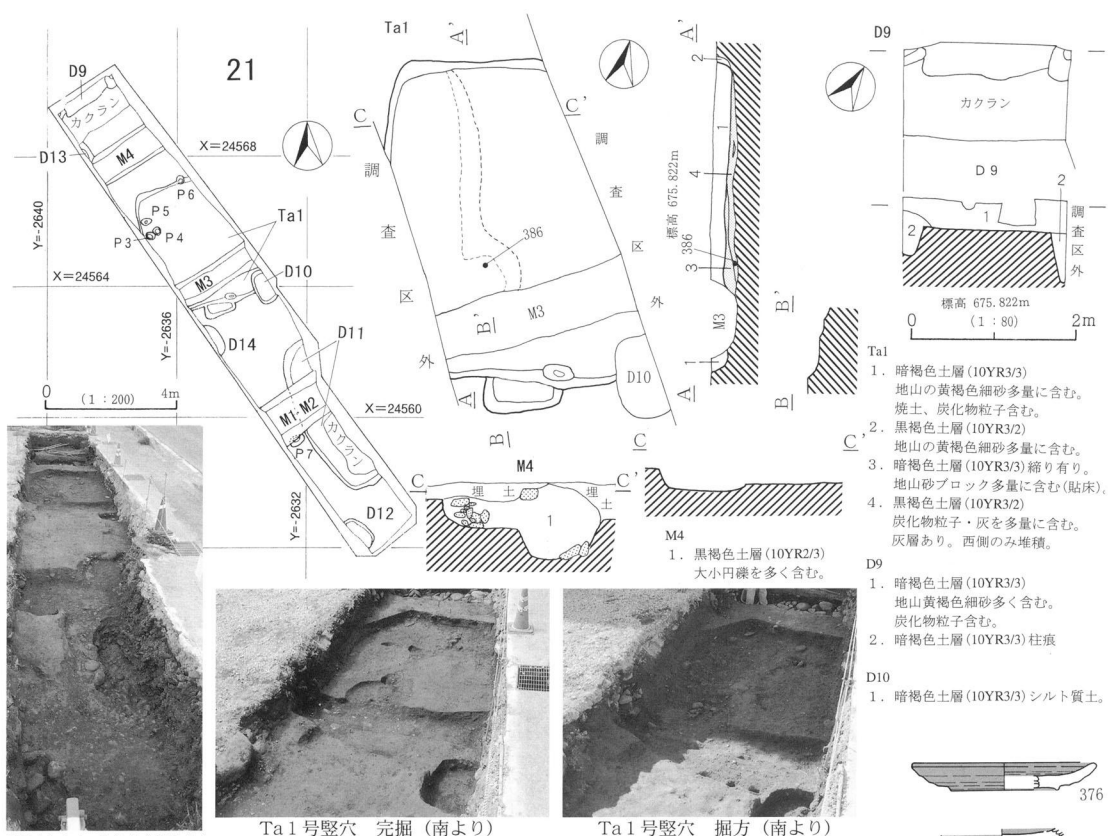


368 (D 3)

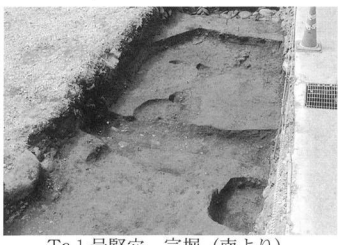
0 (1:4) 10cm

0 (1:6) 10cm

第40図 野沢館跡Ⅸ 第19・20トレンチ (3)



第21トレンチ全景(南より)

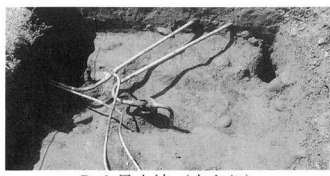
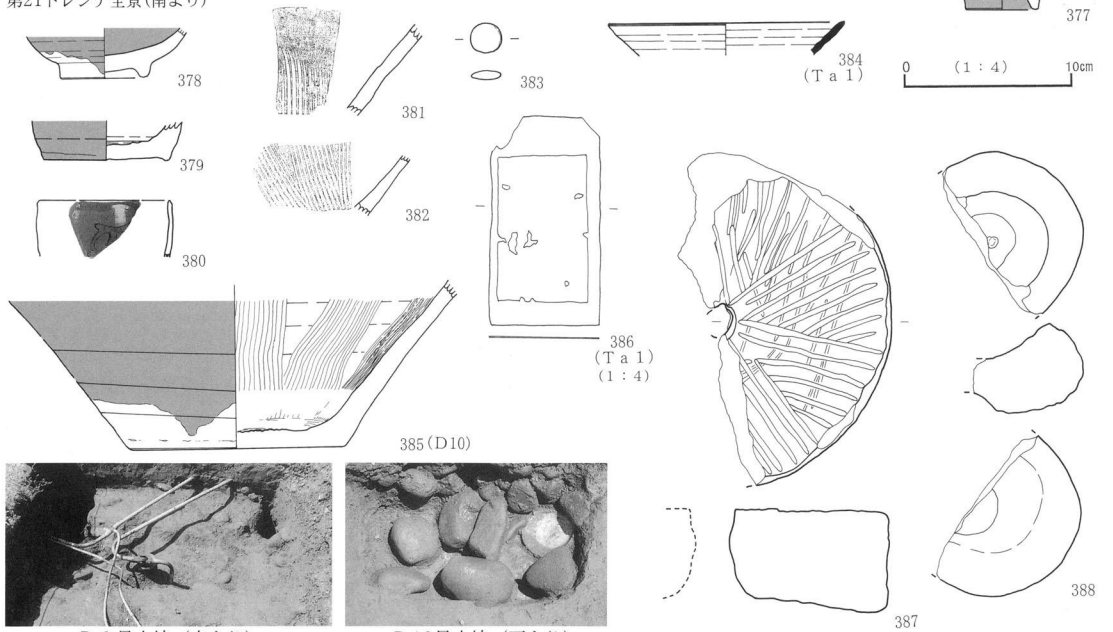


Ta 1号竖穴 完掘(南より)

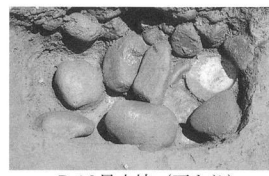


Ta 1号竖穴 掘方(南より)

- Ta1**
1. 暗褐色土層(10YR3/3) 地山の黄褐色細砂多量に含む。 焼土、炭化物粒子含む。
 2. 黒褐色土層(10YR3/2) 地山の黄褐色細砂多量に含む。
 3. 暗褐色土層(10YR3/3) 縮り有り。 地山砂ブロック多量に含む(貼床)。
 4. 黒褐色土層(10YR3/2) 炭化物粒子・灰を多量に含む。 灰層あり。西側のみ堆積。
- D9**
1. 暗褐色土層(10YR3/3) 地山黄褐色細砂多く含む。 炭化物粒子含む。
 2. 暗褐色土層(10YR3/3) 柱痕
- D10**
1. 暗褐色土層(10YR3/3) シルト質土。

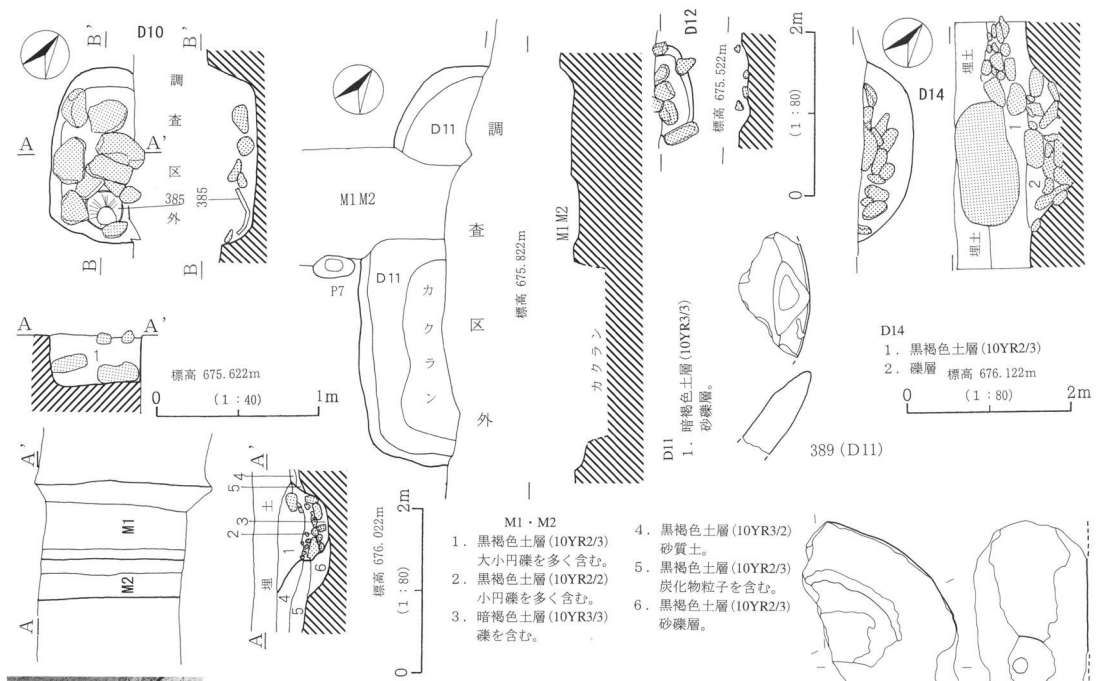


D 9号土坑(南より)



D 10号土坑(西より)

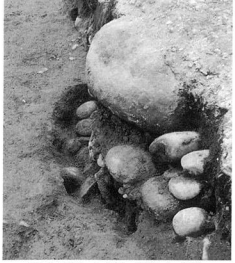
第41図 野沢館跡IX 第21トレンチ(1)



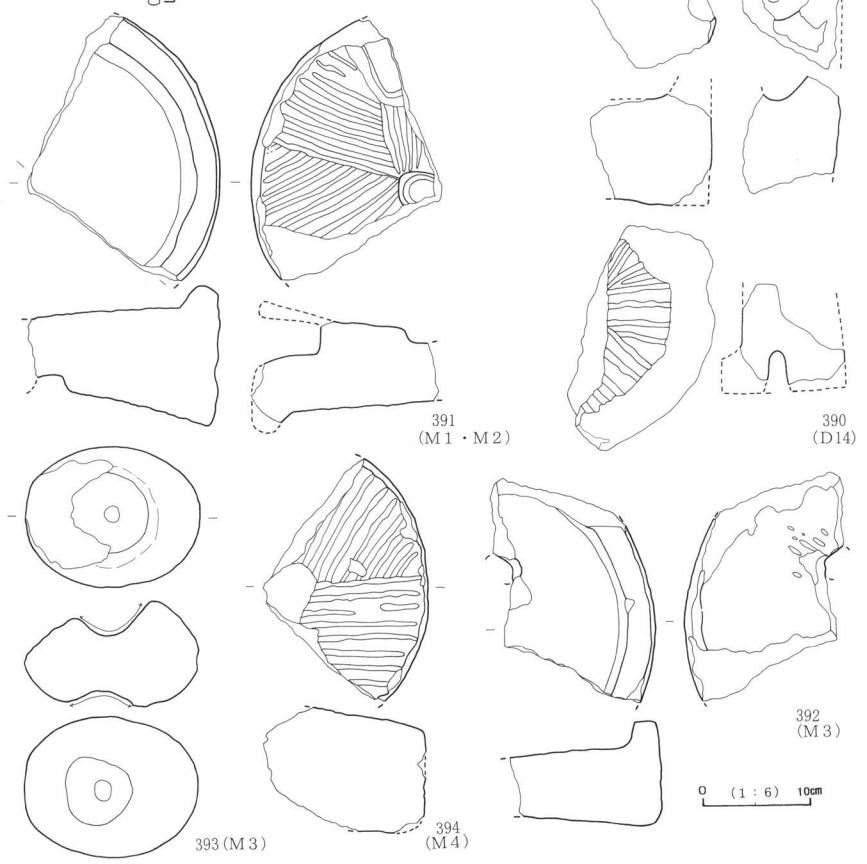
D10号土坑 (南より)



D11号土坑 (北より)



D14号土坑 (北より)



第42図 野沢館跡Ⅸ 第21トレンチ (2)

第19トレンチ

[主な遺構と出土遺物]

D 1号土坑 上面に礫群が見られる。志野丸皿（17C）・瀬戸美濃灰釉丸椀（17C）・石鉢・石臼出土。

D 2号土坑 短辺134cmの隅丸長方形。底面に粘土を貼る。水分が下に抜けないための溜遺構。伊万里染付碗（18C末～19C前）・前山錆釉鉢（18C末～19C前）・茶臼出土。

D 3号土坑 長径156cmの円形。底面にシルト質土堆積。D 2に切られる。前山鉄釉壺（18C末～19C前）・砥石・石搗鉢出土。

D 4号土坑 M 5に切られる。円形か。錆釉唐津搗鉢（17C）出土。

M 6・M 5号溝址（暗渠） M 5号溝が新しい。石組暗渠。M 6から唐津椀（近世）出土。

[特徴]

近世初頭の遺物を出土する土坑と近世末の土坑の二時期が見られる。

第20トレンチ

[主な遺構と出土遺物]

D 15号土坑 132cm×88cmの隅丸長方形。深さ54cmを測る。礫が詰められ、中央が径30cmほどの円形にあく。柱状のものを支えたのであろうか。伊万里染付椀・皿（18C末～19C前）。

[特徴]

第19トレンチと同様。

第21トレンチ

[主な遺構と出土遺物]

T a 1号竪穴状遺構 南北368cm東西260cmの方形。M 3溝址（暗渠）に切られる。銅板出土。銅板は紙質のもので覆われ、長さ12.9cm幅6.85cmの薄いものである。片面に8.8cm7.2cmの紙を貼っている。奈良・平安時代の須恵器片を出土するのみ。

D 10号土坑 一辺106cmの隅丸長方形。河床礫の中に搗鉢の底部埋納か。鉄釉搗鉢（18C末～19C前）。

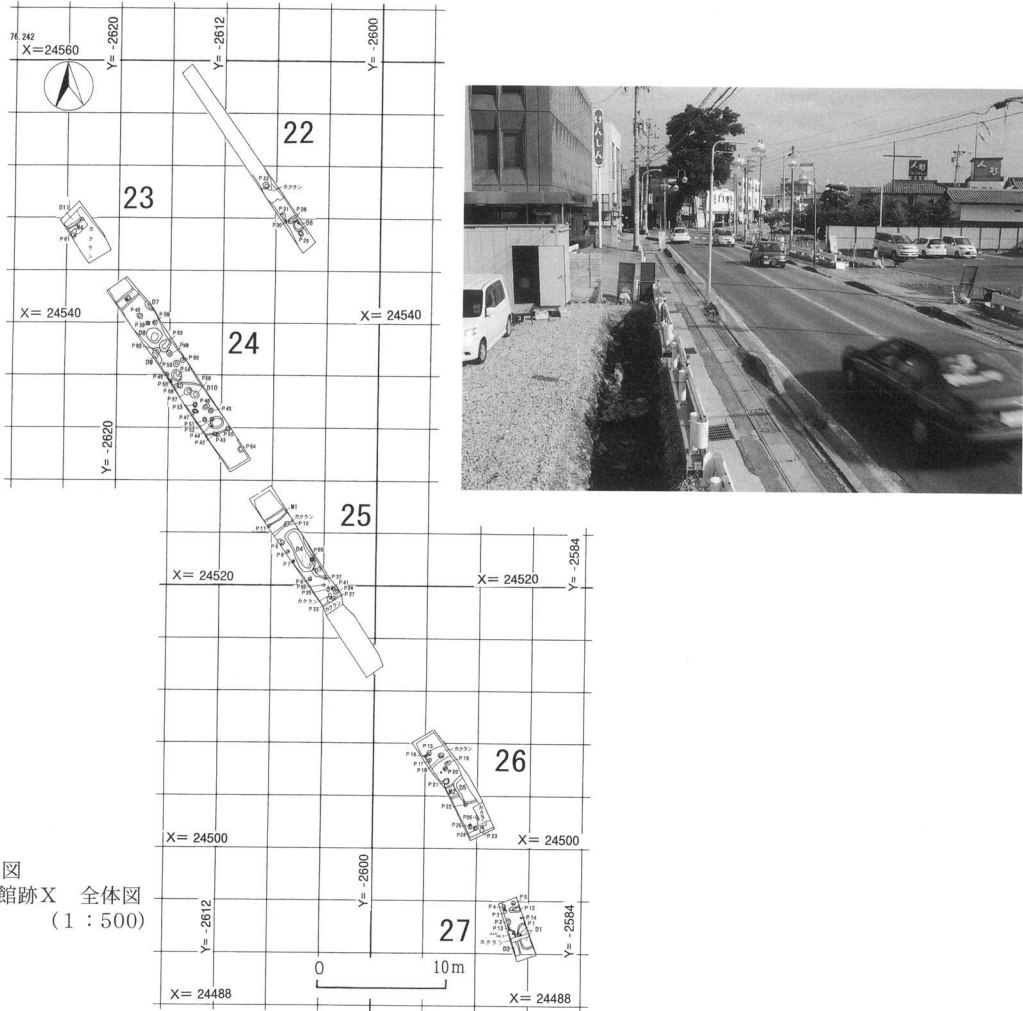
D 11号土坑 長軸486cmの隅丸長方形か。石搗鉢を出土。

D 14号土坑 長さ76cm厚さ40cmを測る大きな石の下に多くの河床礫が見られた。礎石であろうか。石臼出土。

M 1・M 2・M 3・M 4号溝址 石組みの暗渠。石臼・凹石転用して使用。

野沢館跡 X

(第22～第27トレンチ)



第43図
野沢館跡X 全体図
(1 : 500)

第3節 野沢館跡X

第22トレンチ (道路東側)

[主な遺構と遺物]

遺構面まで大半が攪乱され、南端にわずかに残っていた。

D6号土坑 一辺79cm隅丸方形。検出面に前山焼の陶器が多量に出土。前山初期の水簸した製品が見られる。前山灰釉椀・片口鉢(18C)、前山灯明皿(18C末~19C前)

[特徴]

前山焼の製品ばかりが多量に見られる。初期の前山焼もあり店舗跡であろうか。

第23トレンチ (道路西側)

[主な遺構と遺物]

D11号土坑 規模・形態不明、南壁下に小礫を並べる。

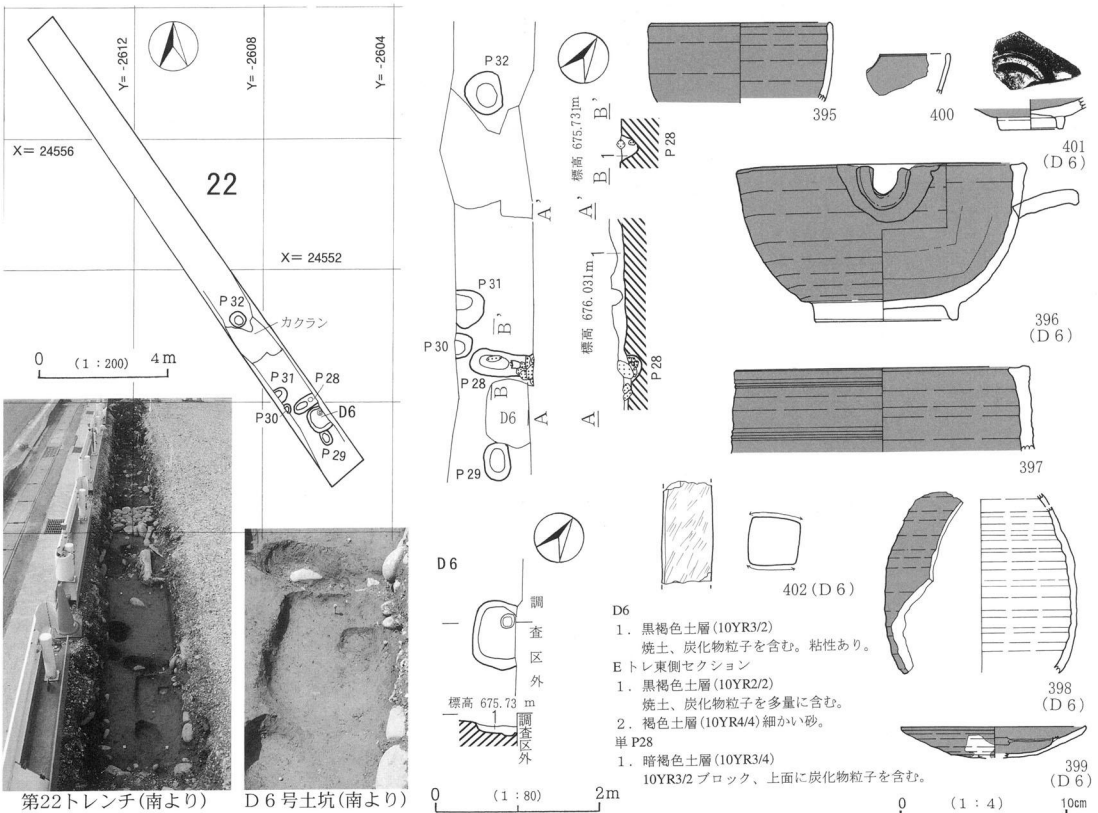
第24トレンチ

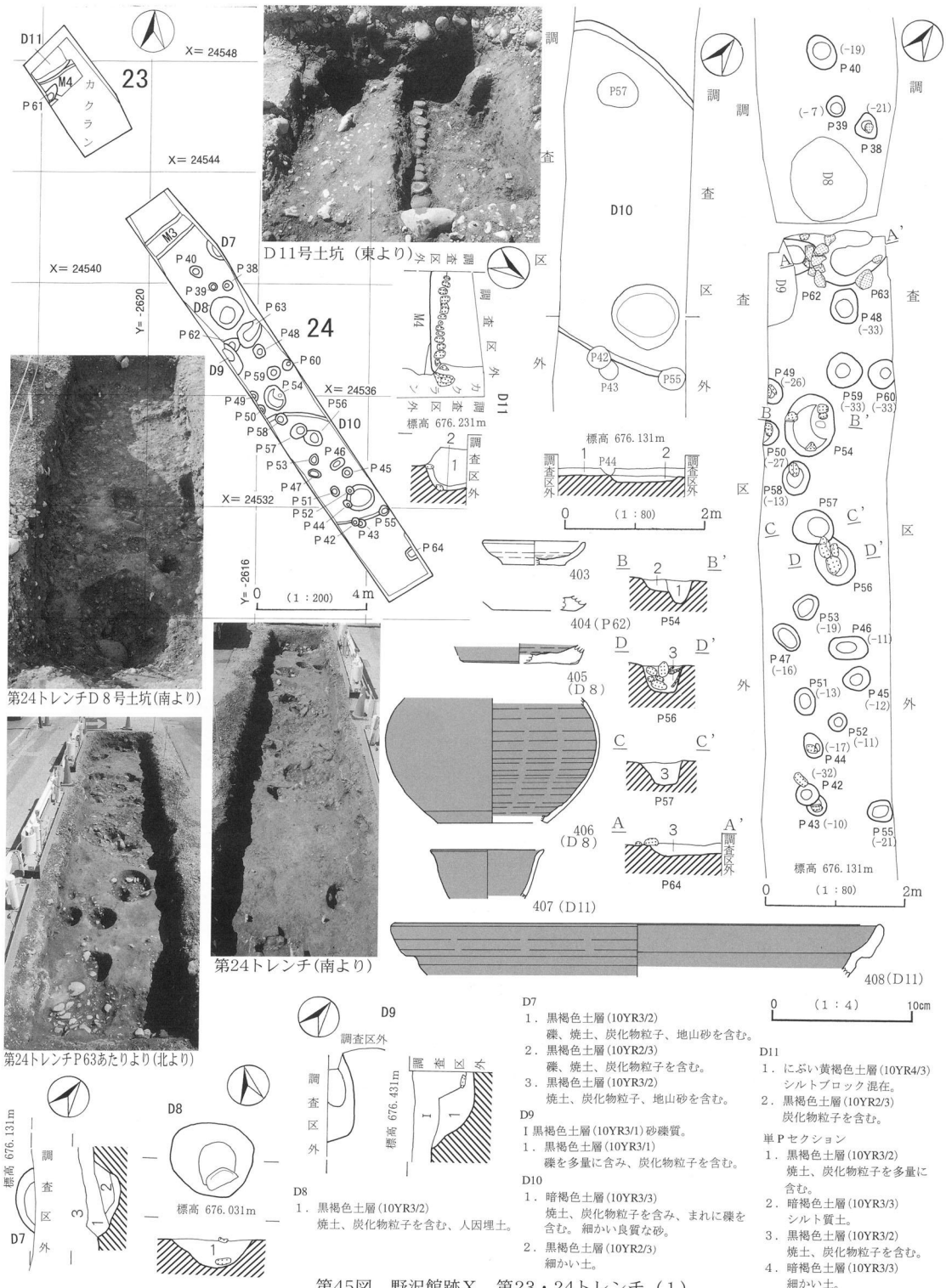
[主な遺構と遺物]

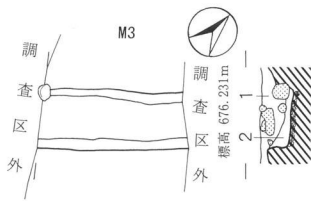
D8号土坑 長径118cmの円形土坑。前山灰釉德利・土瓶(18C末~19C前)

D10号土坑 一辺360cmほどの隅丸長方形か。竅穴状遺構としても良い。遺物はない。

単独ピット P38~64の多数のピットを検出。規模はつかめないが建物の柱穴であろう。新旧があり、二時期にわたる。

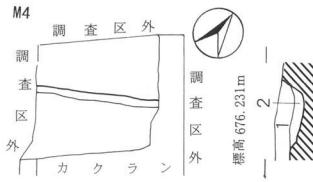






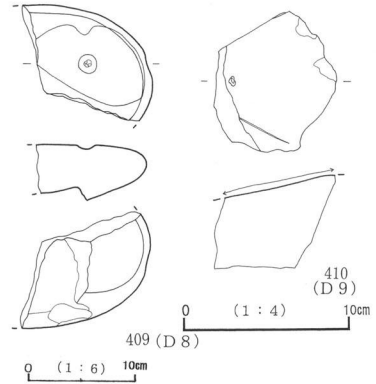
M3

1. 暗褐色土層 (10YR3/3)
地山砂多量に含み、燼土、炭化物粒子を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂を含む。

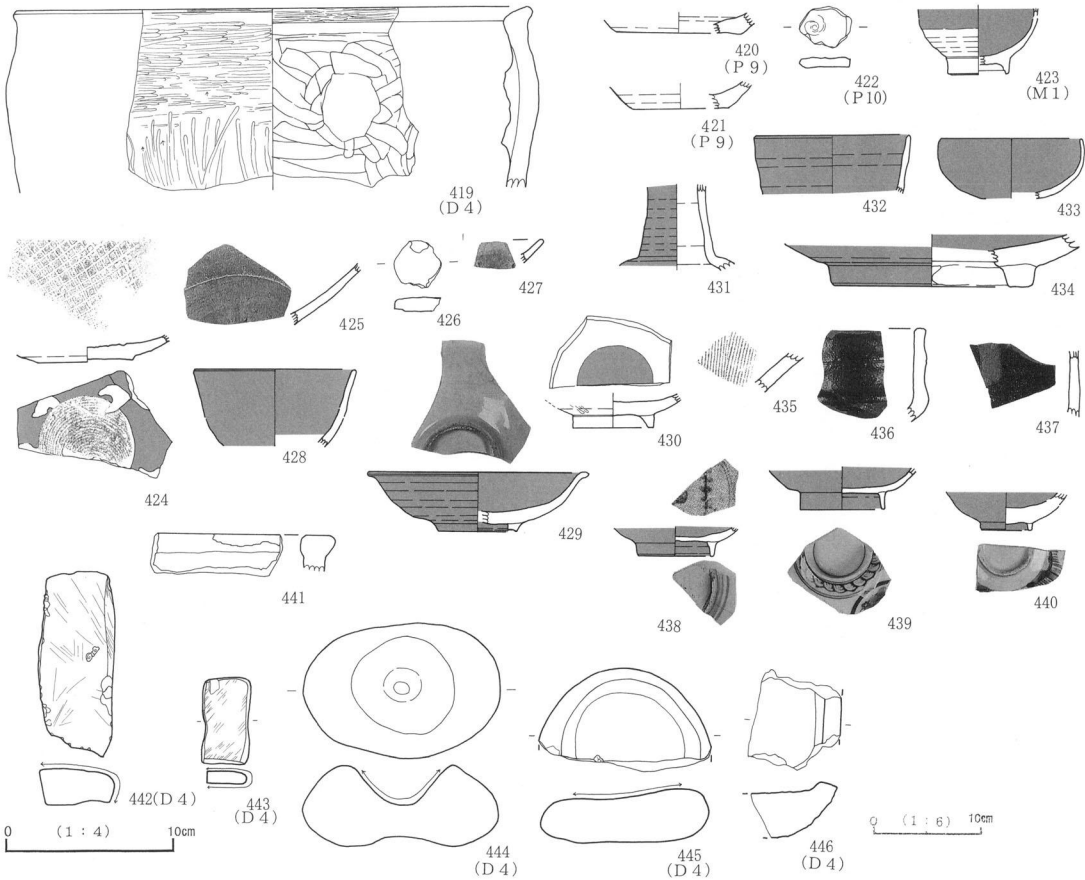


M4

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
炭化物粒子を含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3)
地山砂を含む。細かい土。



第46図 野沢館跡X 第23・24トレンチ (2)

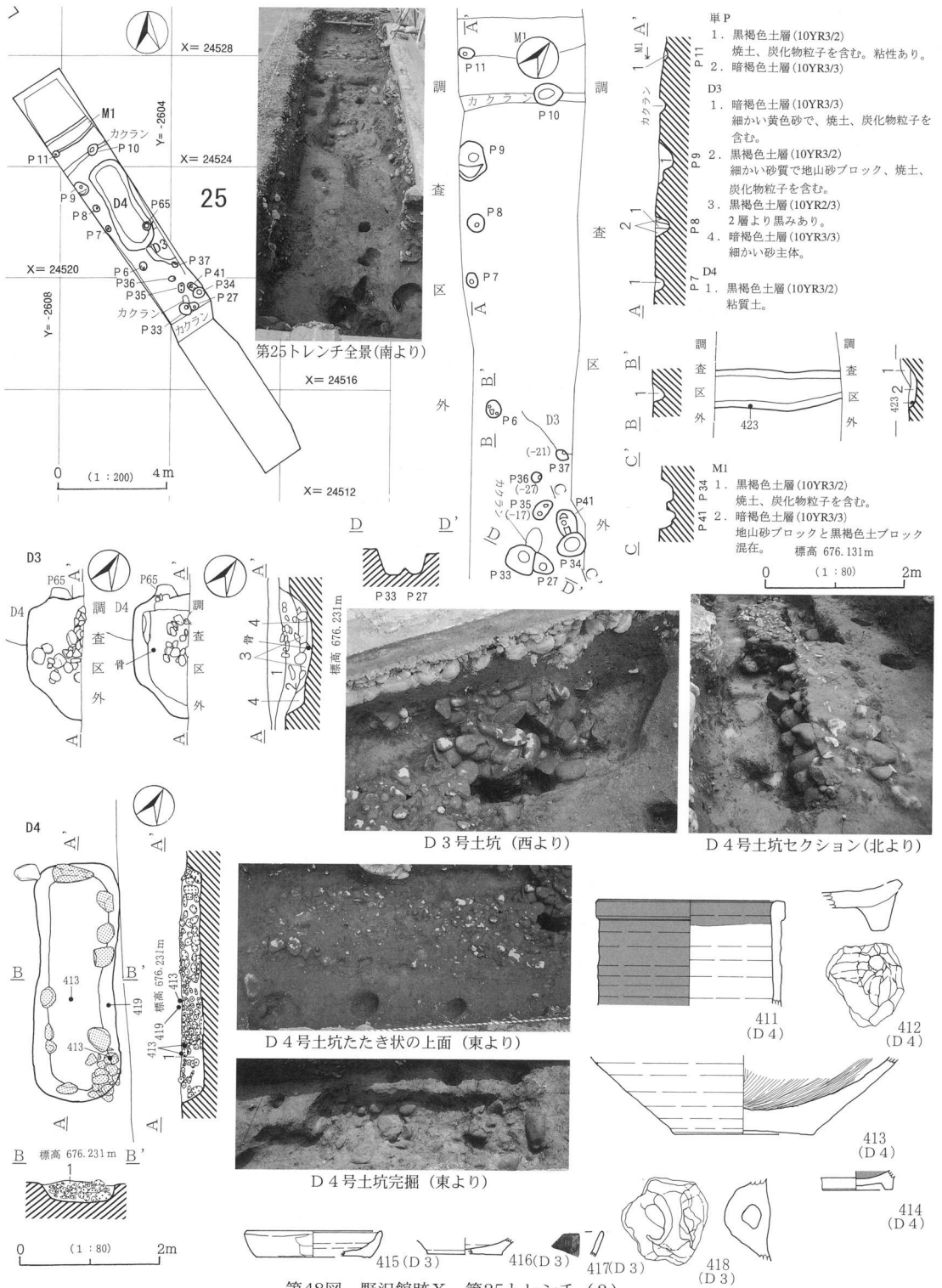


第47図 野沢館跡X 第25トレンチ (1)

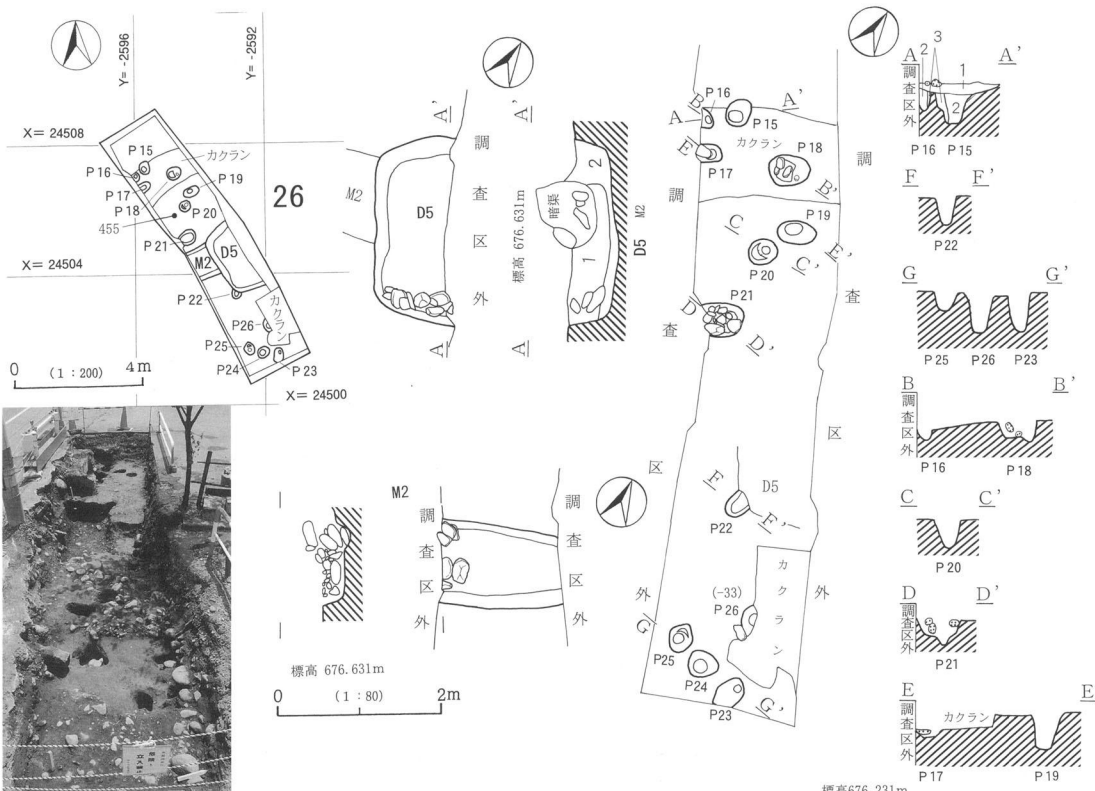
第25トレンチ

[主な遺構と遺物]

D3号土坑 D4号土坑に切られる。長さ174cm深さ42cmを測る。多量の河床礫を含み、底面より骨片を出土する。かわらけ・内耳(中世)を出土。



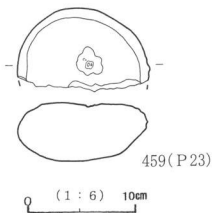
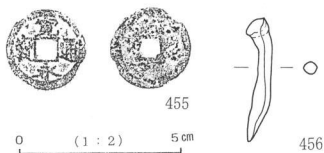
第48図 野沢館跡X 第25トレンチ (2)



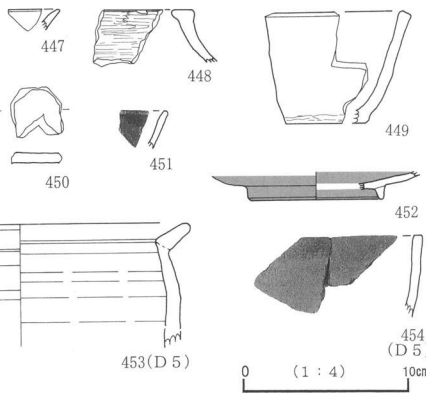
第26トレンチ(北より)



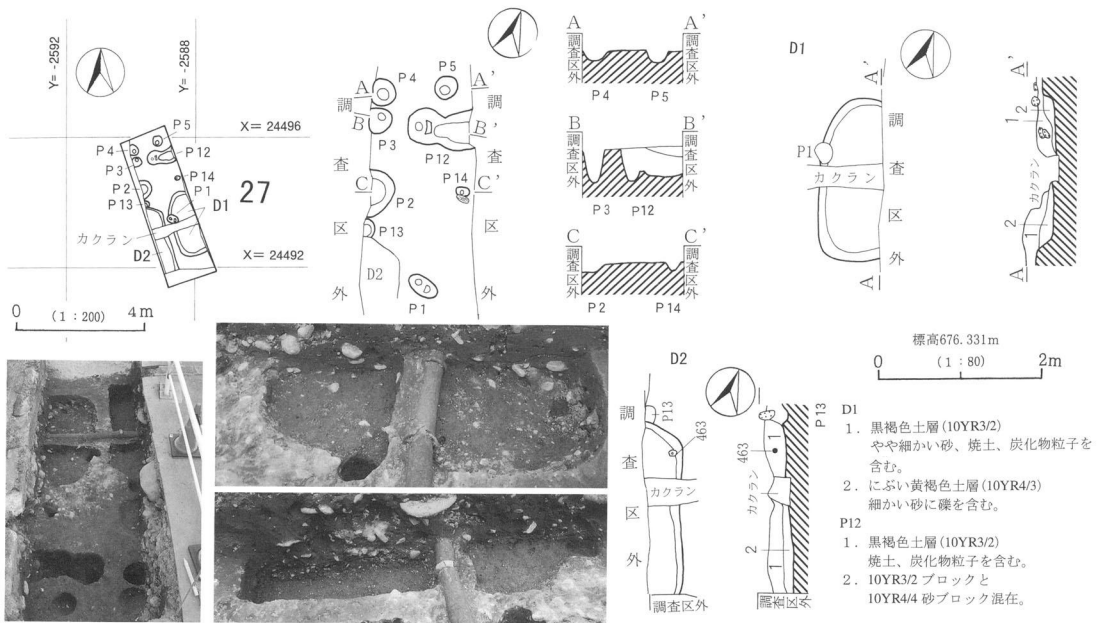
D5号土坑(西より)



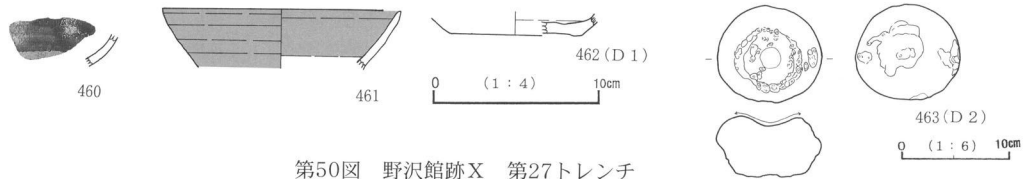
- D5
1. 黒褐色土層(10YR3/2)
焼土、炭化物粒子、大小礫を含む。
 2. 黒褐色土層(10YR2/3)砂礫層。
- M2
1. 灰黄褐色土層(10YR4/2)
粘質土主体。
- 単 P15・16
1. 黒褐色土層(10YR3/2)
焼土、炭化物粒子を多量に含む。粘性あり。
 2. 黒褐色土層(10YR3/2)柱痕。
 3. 暗褐色土層(10YR3/3)
地山砂に黒褐色土ブロック混在。



第49図 野沢館跡X 第26トレンチ



第27号トレンチ(北より) 上, D1号土坑(西より) 下, D2号土坑(東より)



第50図 野沢館跡X 第27号トレンチ

D4号土坑 長軸342cm短軸124cmの土坑内に小礫を詰め粘質土で堅めている。上面が敲きの床面状態になっていた。(写真参照) 上面から唐津焼締播鉢(17C後)、火鉢類(近世)、前山灰釉椀(18C)、礫の中より凹石、茶臼が出土。

ピット群 D4の西にP7~P9が土坑と平行している。建物址か。P9からかわらけ(中世)が出土。

M1号溝 幅56cmの浅い溝。唐津鉄釉小椀(17C前)。

埋土 瀬戸卸皿(13C)、灰釉平椀(15C)、志野丸皿(17C前)、唐津椀(17C)、初期伊万里染付皿・輪髹皿(17C中)。

[特徴]

近世の遺物に初期伊万里や志野丸皿などの高級品を出土。また埋土ながら古瀬戸が出土。

第26号トレンチ

[主な遺構と遺物]

D5号土坑 M2に切られる。一辺218cmの隅丸方形か。多量の礫含む。火鉢(近世)・内耳(中世)を出土。

単独ピット P15・P18・P20・P21は建物址であろうか

[特徴]

建物址とみられる柱穴(中世?)と、中世の土坑がみられた。

第27トレンチ

[主な遺構と遺物]

D 1号土坑 一辺200cmを測る。底面は平坦である。隅丸方形基調の土坑か。かわらけ（中世）出土。

D 2号土坑 規模・形態不明。底面平坦。凹石出土。

[特徴]

第26・27トレンチと中世遺構が多数みられる。

第V章 総括

今回の調査では、大きくわけて近世における甲州街道沿いの町屋敷関連の遺構遺物と中世における野沢館跡関連とに大別される。なお、近代の資料も多く出土したが、ほとんどが埋土からであり、遺構との関連の見られない近代の陶磁器などは紙面の都合で本報告書では掲載しなかった。

1. 中世の遺構

今回の調査地点は西に水路が南流している。調査例がなく確認されていないが、外堀である可能性は高い。従って今回の調査は野沢館跡の西、三の郭にあたる。市街地であるため連続した調査は不可能であり、攪乱も激しかったため全容は無理ながら傾向は把握することができた。

(1) 堀

第3トレンチにおいて東西方向の堀を検出した。幅3.73m深さ1.6mを測り、野沢館跡Ⅵの調査で検出された東西方向の堀、M 1がそのまま西延長した位置にある。野沢館跡北西隅にあたり、三の郭にあたる。この地点の字名が「下木戸」地籍である。居屋敷を経て南に「上木戸」がある。甲州街道に対してとも考えられるが、ならば東折する岩村田往還に下木戸があっても良いことから、野沢館跡にとっての捌手的な出入り口を想定できる。

かわらけ・内耳を出土する。

(2) 竪穴状遺構

中世の竪穴状遺構は野沢館跡ⅦではT a 1・T a 2、野沢館跡Ⅸ T a 2・D 28、野沢館跡ⅩではD 1などが上げられる。全容の判るものはないが、なんらの貼り床が認められ、底面が平坦なものである。（混同するのをさけるためT aとDの名称は調査時のままを使用している。）中世遺物を出土する。いずれも規模は小さく最大で一辺3.12m、最小1.72m深さは深いもので40cm、浅いものは4cmを測る。かわらけ・内耳・播鉢などで、灯明皿に使用したかわらけ、煮炊き用の内耳鍋、調理用具の播鉢があり、実用的な空間である。ただ、D 28土坑からは大窯の灰釉稜皿・灰釉香炉が内耳鍋と伴出し、嗜好的な遺物である。また第24トレンチでは古瀬戸灰釉卸皿や平椀を埋土から出土している。

(3) 土坑

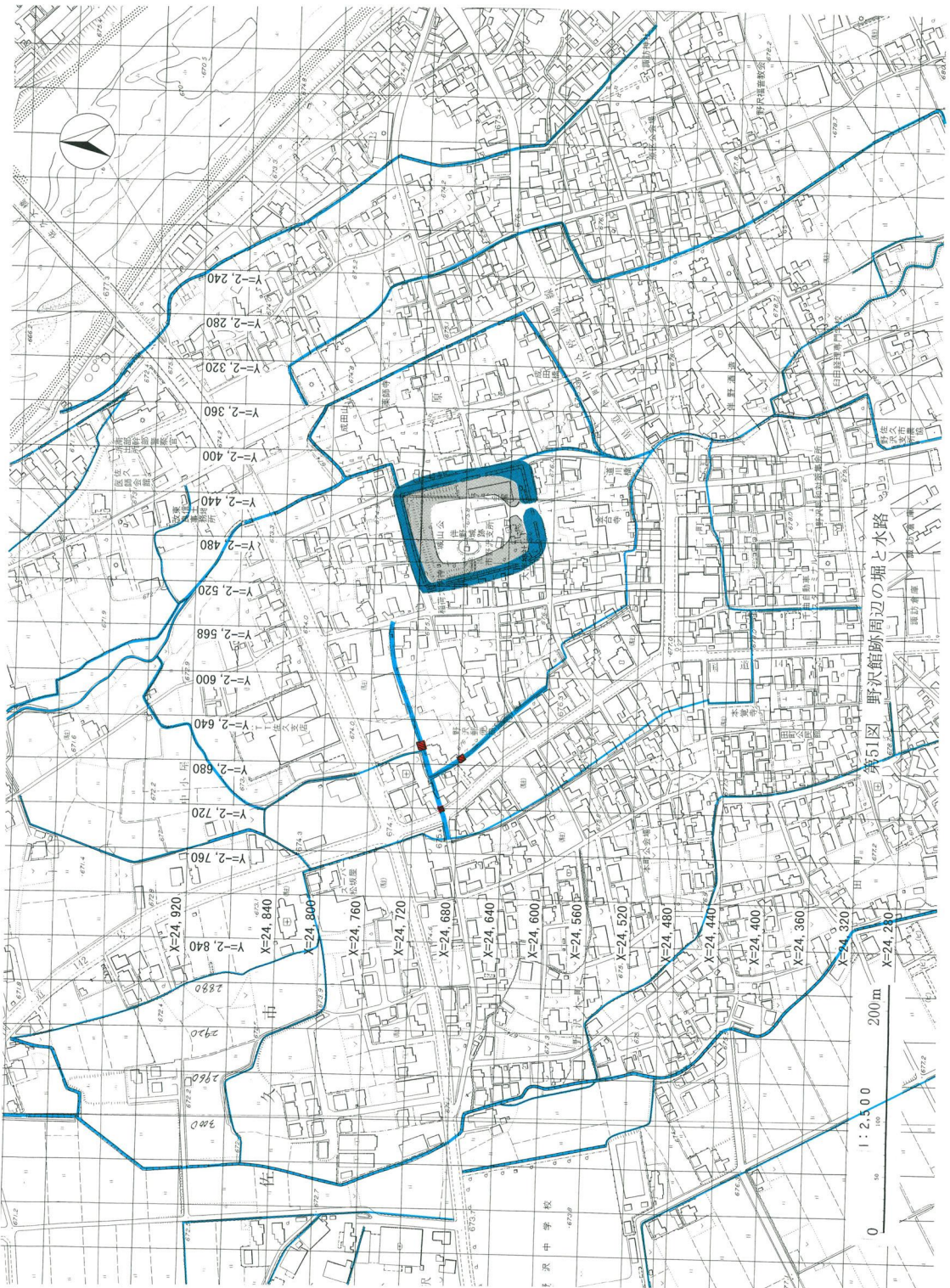
野沢館跡ⅦではD 6が遺物を伴い、覆土からも中世といえる。他に遺物はないがD 1・D 2・D 5 D 12・D 13は覆土的には中世と考えられる。

野沢館跡ⅨではD 25・D 29・D 34・D 35は内耳・かわらけ・播鉢を出土する。遺物はないが覆土からはD 7・D 11～D 13・D 19・D 20・D 30・D 31・D 36・D 39・D 49などが上げられる。いずれも焼土・炭化物粒子を比較的多く含んでいる。土坑の形態は不明なものも多く分からない。

(4) 単独ピット

中世遺物を出土するピットがあり、覆土からも中世と推定できるものは第13・26トレンチである。調査面積が少ないので建物址であろうが規模形態はつかめない。

以上を総括すると北の水田から上がった第3トレンチから第13トレンチあたりに中世の15・16Cの遺物を出土しており、中世が濃厚である。また第21トレンチの南端にも中世の可能性のある遺構がみられた。最南端の第26・27トレンチあたりも中世の遺構・遺物がみられる。





注. 天保7年(1836)の「野沢村絵図」と道路・水路が一致。野沢村の大塚芳太郎氏が所有していたものである。年号がないが、野沢村となっているので明治30年3月の野沢町以前の地図であろう。

第52図 居屋敷全図 (約1:2,500)

2. 近世の遺構

近世は近世初期と近世後期とがある。

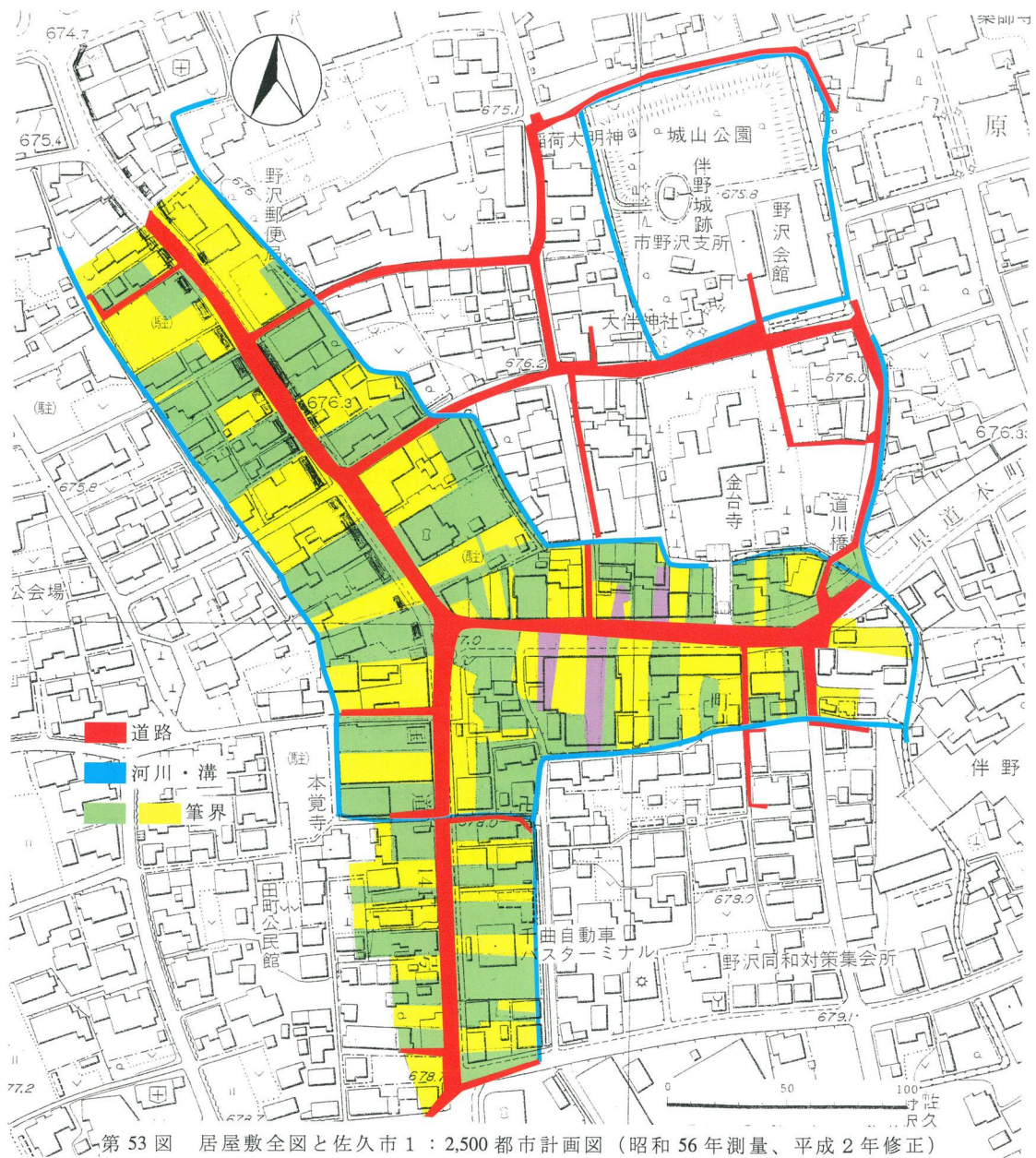
(1) 近世初期の遺構

竪穴状遺構

近世初期の遺物を出土する竪穴状遺構は野沢館跡ⅦでT a 2がある。炉址を持つ。かわらけ・内耳などの中世遺物があるが、寛永通寶・煙管・黄瀬戸鉢など近世の遺物を出土する。

土坑

野沢館跡ⅦではD 7 (第7トレ)、野沢館跡ⅨではD 1・D 4 (19トレ)・D 8・D 33 (14トレ)・D 42 (15トレ)、隅丸方形基調で、深さがあり、多量の礫を含んでいる。野沢館跡ⅨのD 33は暗



渠と接続して排水している。

野沢館跡ⅧD 7は志野丸皿・黄瀬戸鉢 (17C前) (T a 1 検出時出土) などがある。D 8・D 33号土坑からは唐津の椀 (17C) を出土する。

(2) 近世後期の遺構

竪穴状遺構はない。

土坑

野沢館跡ⅧではD 3 (2トレ)、野沢館跡ⅨではD 2・D 3 (19トレ)、D 10 (21トレ)、D 15 (20トレ)、D 16 (18トレ)、D 21~D 23 (18トレ)、D 32 (12トレ)、D 38 (11トレ)、D 40 (10トレ)。野沢館跡ⅩではD 4 (25トレ) がある。

野沢館跡ⅧのD 2は短辺134cmの隅丸長方形を呈し、底面に粘土を貼る。粘土上面には伊万里染付椀（18C末～19C前）出土する。D 3はシルト質土が堆積していた。D10は一辺106cmの隅丸長方形の土坑で、前山播鉢出土。D15は隅丸長方形の土坑に中央を円形にあげ礫で固めている。伊万里染付椀（18C末～19C前）を出土。D22は寛永通寶が15枚がまとまって出土。セクションは何かを埋納したセクションを示す。D32・D38は深さ56・61cmと深く、多量の礫が入り、礫の間に粘質土がみられる。前山播鉢（18C末～19C前）を出土。D40は76cmと深く、前山灰釉椀（18C末～19C後）が出土する。野沢館跡ⅩのD 4は石を詰めて粘土で固めた敲き土間状の遺構である。唐津焼締播鉢（17C後）、前山灰釉椀（18C）がある。

3. 近代の遺構

近代の遺構は大半が攪乱されて残っていない。

T a 3・4（15トレ）竪穴状遺構は幕末ないし近代と推測される。地面を平坦に下げて、石を敷詰めている。建物の基礎にあたるであろうか。基礎石の下に10cm大の礫を入れるのが一般的な基礎の方法であったという。（野沢の荒井公務店主のお話による。）D44は素焼きの大甕を枠にした埋甕式便槽遺構である。第16・17トレにも近代の土坑があり、D48は井戸であるが土管を井戸枠にしている。

4. まとめ

中世の堀を発見し、三の郭北西において東西方向に延びる15・16Cの堀を新たに確認した。堀の存在により、三の郭が確定され、中世の三の郭北西に生活の痕跡である竪穴状遺構・土坑・ピットがあり、内耳・かわらけの出土により裏付けられた。近世の遺構の多い地点でも15・16C遺物が出土していることから15・16Cの野沢館跡西側三の郭全体に居住した手がかりを得られた。なお卸皿・水注把手・青磁蓮弁文碗など13・14Cの時代の陶磁器は、捏鉢などがないことからこの頃に煮炊き生活のにおいはしない。遺物は15C後半になって量が増え、平椀・内耳鍋が16Cまで続いている。

近世においては、初頭の17Cに陶磁器の量が増え17C中頃までである。鉄絵の志野丸皿などランクが上のもの、初期伊万里（1630～1650）は城下町などではあるが一般に流通していないのがみられ、唐津もある。北からの物流が窺われ、近世初期の野沢は町として成立していたようである。近世中頃の遺物は少ないことから中頃は衰退し、遺物の増える18C後半に街屋が形成され始めたようである。前山焼初期の製品がみられ関係者がいた可能性など、18C末～19C前の在地の前山の製品の圧倒的多数や、瀬戸・美濃・伊万里の製品も多く、かなりの商店街を形成したことが判明した。

引用参考文献

1. 2000佐久市教育委員会 『薬師寺遺跡』
2. 2004佐久市教育委員会 『野沢館跡Ⅳ』
3. 2005佐久市教育委員会 「野沢館跡Ⅴ」『佐久市文化財年報13』
4. 2005佐久市教育委員会 『野沢館跡Ⅵ』
5. 2005佐久市教育委員会 『野沢館跡Ⅶ』
6. 1993佐久市志史編纂委員会 『佐久市志史 歴史編（二）中世』
7. 1992佐久市志史編纂委員会 『佐久市志史 歴史編（三）近世』
8. 2001江戸遺跡研究会 『図説江戸考古学研究事典』 柏書房

第3表 野沢館跡Ⅷ 遺物一覧表

番号	器種		法	調整	残存	産地	時期	出土位置	備考	
			量							
			口径・底径・器高							
1	鉄釉陶器	椀	—	内 外	ロクロナデ→施釉 "	口縁一部	古瀬戸	15C後	1ト	
2	鉄釉陶器	丸椀	—	内 外	ロクロナデ→施釉 "	口縁一部	瀬戸・美濃	18C	1ト	
3	錆釉陶器	播鉢	—	内 外	ロクロナデ→鉄釉 "	口縁一部	瀬戸・美濃	18C末 ~19C前	1ト	
4	陶器	甕	—	内 外	ロクロナデ " →自然釉	破片	常滑	中世	1ト	
5	土師質	かわらけ	—・(6.7)・〈1.6〉	内 外	ロクロナデ " →底部回転糸切り	底部一部	在地	中世	1ト	内面ススの痕か？
6	土師質	かわらけ?	—・—・〈2.0〉	内 外	ロクロナデ " →底部手持ヘラケズリ	底部一部	在地	中世?	1ト	
7	鉄釉陶器	土瓶	—・(7.0)・〈1.7〉	内 外	ロクロナデ→施釉 "	底部一部	在地	近代	1ト	底部に刻字「益〇」
8	土師質	内耳	—	内 外	ロクロナデ "	口縁一部	在地	中世	1ト	スス付着
9	鉄釉陶器	丸椀	—	内 外	ロクロナデ→施釉 "	口縁一部	瀬戸・美濃	近世	2ト	
10	灰釉陶器	丸椀	—	内 外	施釉 "	胴部破片	前山	18C末 ~19C前	2ト	
11	鉄釉陶器	椀	—・(5.6)・〈1.6〉	内 外	ロクロナデ→施釉 " →底部回転ヘラ切り→高台貼付→施釉	底部1/2	瀬戸・美濃	18C	2ト	
12	鉄釉陶器	丸椀	—・(5.2)・〈2.0〉	内 外	ロクロナデ→施釉 " →底部回転ヘラ切り	底部1/2	瀬戸・美濃	18C	2ト	
13	灰釉陶器	徳利	—	内 外	ロクロナデ " →施釉	胴部破片	前山	18C末 ~19C前	2ト	
14	鉄釉陶器	こね鉢	—・(19.0)・〈5.3〉	内 外	ロクロナデ→施釉 " →底部と底部外周回転ヘラケズリ→施釉	底部1/7	前山	18C末 ~19C前	2ト	
15	灰釉陶器	徳利	(3.6)・—・〈2.8〉	内 外	ロクロナデ→施釉 "	口縁1/3	前山	18C末 ~19C前	2ト	
16	灰釉陶器	鉢	—	内 外	ロクロナデ→施釉 "	口縁一部	瀬戸・美濃	18C末 ~19C前	2ト	
17	瓦質	火鉢	—	内 外	ロクロナデ ロクロナデ	頸部破片	在地	近世	2ト	
18	灰釉陶器	仏飯	—	内 外	ロクロナデ→施釉 " →下部ヘラケズリ	杯部一部	瀬戸・美濃	18C末 ~19C前	2ト	
19	緑釉陶器	植木鉢	—	内 外	ロクロナデ " →施釉	胴部破片	瀬戸・美濃	18C末 ~19C前	2ト	
20	灰釉陶器	壺	—	内 外	ロクロナデ→施釉 "	口縁一部	前山	18C末 ~19C前	2ト	口縁部面取り
21	磁器	染付碗	—	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	口縁から 底部一部	伊万里	18C末 ~19C前	2ト	
22	陶器	鉢	—	内 外	施釉 施釉→底部回転ヘラケズリ	底部片	不明	近代	2ト	スス付着
23	灰釉陶器	呉子蓋	—	内 外	ロクロナデ→施釉 "	肩部破片	前山	18C末 ~19C前	2ト	
24	土師質	火鉢?	—	内 外	ロクロナデ→刻目 ロクロナデ→施文→施釉	破片	?	近世	2ト	
25	錆釉陶器	播鉢	—	内 外	ロクロナデ→刻み→施釉 " →施釉	胴部破片	前山	18C末 ~19C前	2ト	
26	土師質	火鉢	—	内 外	ロクロナデ→ミガキ→黒色処理 " →ミガキ	胴部破片		近世	2ト	64と同個体
27	瓦質	火消し壺?	—	内 外	ロクロナデ→焙焼 " →底部力キメ→焙焼	底部破片		近世	2ト	
28	瓦質	火鉢	(15.8)・—・〈3.6〉	内 外	ロクロナデ "	口縁1/14		近世	2ト	口縁面取り
29	土師質	かわらけ	(7.2)・(4.2)・2.1	内 外	ロクロナデ " →底部糸切り	口縁1/5・ 底部1/6	在地	16C	2ト	口縁に欠けあり

30	土師質	内耳	-(18.0)・(4.9)	内 外	ロクロナデ " →底部ヘラズリ	底部1/11	在地	中世	2トレ	NO.1	
31	土師器	基石	1.9・1.9・(0.6)	内 外	ナデ "	完形	?	近世	2トレ		
番号	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置	備考				
32	青銅製品	煙管	(2.2)	1.0	0.6	1.25	2トレ	No.2			
33	鉄製品	角釘	(6.2)	(3.1)	0.4	4.49	2トレ				
34	鉄製品	角釘	6.2	(1.0)	0.3	2.48	2トレ				
35	鉄製品	角釘	(2.4)	(1.7)	0.4	1.45	2トレ	耕作土			
36	鉄製品	角釘	(2.1)	4.1	0.5	2.03	2トレ	耕作土			
37	鉄製品	角釘	(3.1)	(2.0)	-	1.49	2トレ	耕作土			
38	鉄製品	角釘	(5.3)	2.1	0.5	3.4	2トレ	耕作土			
番号	器種	法 口径・底径・器高	調 整			残存	産地	時期	出土位置	備考	
39	鉄釉陶器	器台	4.0・6.3・5.3	内 外	ロクロナデ→施釉 "	1/2	?	近代	3トレ	畳付無釉	
40	鉄釉陶器	天目茶碗	(11.6)・-(1.8)	内 外	ロクロナデ→施釉 "	口縁1/8	瀬戸	16C?	3トレ		
41	錆釉陶器	灯明皿	(6.6)・(5.0)・1.7	内 外	ロクロナデ→芯台貼付→施釉 " →外面底部回転ヘラケズリ→施釉	口縁1/6	在地	18C末 ~19C前	3トレ	口縁にスス付着	
42	灰釉陶器	こね鉢	-	内 外	ロクロナデ→施釉 "	口縁一部	前山	18C末 ~19C前	3トレ		
43	灰釉陶器	丸椀	(8.4)・-(2.7)	内 外	ロクロナデ→施釉 "	口縁1/10	前山	18C末 ~19C前	3トレ		
44	灰釉陶器	小椀	(9.4)・-(2.8)	内 外	ロクロナデ→施釉 "	口縁1/10	前山	18C末 ~19C前	3トレ		
45	白磁	皿	(10.8)・(6.0)・1.3	内 外	ロクロナデ→高台貼付→内面にスタンプ→施釉 " →施釉	口縁一部・ 底部1/6	瀬戸・ 美濃	19C	3トレ		
46	陶器	椀	(12.0)・-(3.8)	内 外	ロクロナデ→施釉 "	口縁1/12	京焼?	幕末	3トレ		
47	磁器	染付碗	(10.6)・-(3.4)	内 外	施釉 梅花紋→施釉	口縁1/6	伊万里	18C後 ~19C前	3トレ		
48	磁器	染付碗	-・4.4・(3.9)	内 外	施釉 梅花紋→畳付以外施釉	底部完形	伊万里	18C後 ~19C前	3トレ		
49	瓦質土器	火鉢	-(6.7)	内 外	ロクロナデ 胴部ナデ→口縁ロクロナデ	口縁破片		近世	3トレ	スス付着	
51	土師質	ほうろく	(25.8)・(22.8)・(3.1)	内 外	ロクロナデ→黒色処理 " →底部と底部外周手持ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	口縁1/12・ 底部1/14	在地	近世	3トレ		
52	土師質	ほうろく	(30.0)・-(4.3)	内 外	ロクロナデ→一部ヘラミガキ " →下半部回転ヘラケズリ→一部ヘラミガキ	口縁1/16	在地	近世	3トレ	スス付着	
53	錆釉陶器	搦鉢	-(12.5)・(6.0)	内 外	ロクロナデ→施釉 " →刻み目→施釉	底部2/5	前山	18C末 ~19C前	3トレ		
54	土師質	内耳(耳)	-	内 外	ナデ ナデ	把手	在地	中世	3トレ		
55	土師質	火鉢	-(6.1)	内 外	ロクロナデ " →脚部貼付 脚部に印花紋	脚部と 底部破片	?	中世	3トレ		
56	土師質	内耳	(24.4)・(20.2)・14.1	内 外	ロクロナデ→耳貼付 " →ナデ	口縁1/8	在地	16C	3トレD6	NO.1・NO.2	
57	土師質	かわらけ	(8.7)・(5.4)・2.6	内 外	ロクロナデ " →底部回転糸切り	口縁1/3・ 底部2/3	在地	16C	3トレM1		
58	土師質	かわらけ	-(5.0)・(0.7)	内 外	ロクロナデ " →底部回転糸切り	底部1/4	在地	?	3トレM1		
59	土師質	かわらけ	-(6.6)・(1.0)	内 外	ロクロナデ " →底部糸切り	底部1/6	在地	?	3トレM1		
60	陶器	甕		内 外	ロクロナデ " →施釉	胴部破片	常滑	中世	3トレM1	NO.2	
番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置	備考				
50	石製品	砥石	(3.3)	3.4	0.6	10.27	3トレ				
番号	器種	法 口径・底径・器高	調 整			残存	産地	時期	出土位置	備考	
61	灰釉陶器	水注	-	内 外	指圧痕→施釉 ナデ→施釉	把手	古瀬戸	13~14C	3トレ		

62	土師質	内耳	-	内 外	ロクロナデ "	口縁破片	在地	15C	3トM1	外面スス付着
63	土師質	内耳	(29.1)・-・(16.1)	内 外	ナデ→口縁ヨコナデ→内耳貼付 ナデ→口縁ヨコナデ	口縁1/8	在地	15C後半?	3トレ	外面スス付着
64	土師質	火鉢	-・(17.0)・(4.7)	内 外	ロクロナデ→ミガキ→黒色処理 " →底部と底部外周手持ヘラケズリ→ヘラミガキ	底部1/6	在地	近世	3トレ	
65	土師質	内耳	-・-・(5.1)	内 外	ナデ ロクロナデ→ヘラナデ	底部破片	在地	中世	3トM1	
番号	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置		備考		
66	鉄製品	角釘	(5.8)	0.7	0.3	2.68	5トレ			
番号	器種	法 量 口径・底径・器高	調 整			残存	産地	時期	出土位置	備考
67	灰釉陶器	灯明皿	(9.9)・(4.6)・2.4	内 外	ロクロナデ→口縁施釉 " →底部回転ヘラケズリ→口縁施釉	口縁一部・ 底部1/4	前山	18C末 ~19C前	5トレ	口縁に欠けあり スス付着
68	灰釉陶器	鉢	-・(7.7)・(2.1)	内 外	ロクロナデ→施釉 " →高台貼付→施釉	底部1/4	瀬戸・ 美濃	18C末 ~19C前	6トレ	トチン痕あり
69	磁器	染付皿	-・(8.0)・(2.7)	内 外	ロクロナデ→施釉 " →高台貼付→畳付以外施釉	底部1/4	伊万里	18C	6トレ	
70	土師質	内耳	-	内 外	ナデ "	口縁破片	在地	中世	6トレ	
番号	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置		備考		
71	石臼	(上臼)	(31.8)	-	12.5	4.330	6トレ		ふくみ2.5cm心棒孔径(2.6)cm挽き木孔形状 長方形	
72	石臼	(上臼)	-	(6.4)	-	1.110	6トレ		心棒径(2.0)cm挽き木孔形状 長方形?	
73	渡来銭	至道元寶	-	-	-	0.67	6トレ		初鑄年995年	
74	古銭	寛永通寶	2.6	-	-	2.90	6トレ		(新寛永)文銭 初鑄年1668年	
75	古銭	寛永通寶	2.5	-	-	3.21	6トレ		(古寛永)文銭 初鑄年1636年	
番号	器種	法 量 口径・底径・器高	調 整			残存	産地	時期	出土位置	備考
76	灰釉陶器	徳利?	-	内 外	ロクロナデ→施釉 "	口縁一部	前山	18C末 ~19C前	7ト	
77	鉄釉陶器	志野丸皿	-・(6.6)・(1.1)	内 外	ロクロナデ " →高台貼付→外面底部以外施釉	底部1/5	瀬戸・ 美濃	17C前	7ト	
78	灰釉陶器	椀	(12.2)・-・(1.6)	内 外	ロクロナデ→施釉 "	口縁1/14	瀬戸・ 美濃	?	7ト	
79	灰釉陶器	皿	(13.2)・(6.6)・2.6	内 外	ロクロナデ→施釉貼付 " →高台貼付→全面施釉	口縁1/10 底部1/10	前山	18C末 ~19C前	7ト	
80	青磁	蓮弁文碗	-	内 外	施釉 "	口縁一部	龍泉	13C	7ト	外面に蓮弁文
81	土師質	内耳?	-	内 外	ロクロナデ "	口縁破片	在地?	中世?	7ト	
82	陶器	播鉢	-	内 外	ロクロナデ→内面刻み目 "	底部破片	在地	15C~ 16C	7ト	底部スス付着
83	瓦質陶器	火鉢	(18.8)・-・(2.2)	内 外	ロクロナデ→黒色処理 " →黒色処理	口縁1/11	在地	近世	7ト	
84	錆釉陶器	綾皿	-・(3.5)・(1.0)	内 外	ロクロナデ→施釉 " →底部ケズリ出し高台→錆釉	底部1/2	瀬戸・ 美濃大窯	16C中	7トTa1	
85	鉄釉陶器	丸椀	-・5.7・(1.2)	内 外	ロクロナデ→施釉 " →回転ヘラ切り→高台貼付	底部1/2	瀬戸・ 美濃	近世	7トTa1	
86	灰釉陶器	皿	-・(7.0)・(1.1)	内 外	ロクロナデ→施釉 " →高台貼付→施釉	底部1/4	瀬戸・ 美濃大窯	16C	7トTa1	底部にトチン痕あり 貫入
87	灰釉陶器	杯	(13.0)・-・(3.0)	内 外	ロクロナデ→施釉 "	口縁1/8	前山	18C~ 19C前	7トTa1	
88	灰釉陶器	志野丸皿	-・(5.8)・(1.2)	内 外	ロクロナデ→施文→施釉 " →底部回転ヘラケズリ→高台貼付→施釉	底部1/6	瀬戸・ 美濃	17C前半	7トTa1	
89	陶器	黄瀬戸鉢	-	内 外	ロクロナデ→施文→施釉 " →施釉	口縁破片	瀬戸・ 美濃	17C前	7トTa1	
90	土師質	播鉢	(24.0)・(8.0)・11.8	内 外	ロクロナデ→刻み目 " →口縁ヨコナデ、底部ナデ	口縁1/4 底部1/3	在地	15・16C	7トTa1	外面底部と底部外周に付 着物あり。内面磨耗。NO.2
91	土師質	内耳	-	内 外	ロクロナデ "	口縁破片	在地	中世	7トTa1	

番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置	備考			
92	土製品	円板	4.2	4.2	1.3	26.35	7トレTa1	在地。中世。土器摺鉢の二次利用。			
197	鉄製品	刀子	5.1	0.9	0.2	4.79	7トレTa1				
467	渡来銭	〇〇通宝	(2.2)	—	—	1.16	7トレTa1				
93	茶臼	(下臼)	—	(6.3)	—	680	7トレTa1	心棒径(2.4)cm			
94	石製品	砥石	10.2	3.0	2.1	100	7トレTa1	凝灰岩			
番号	器種		法 量 口径・底径・器高	調整			残存	産地	時期	出土位置	備考
95	土師質	かわらけ	—・(5.3)・(1.2)	内 ロクロナデ 外 " →底部糸切り			底部1/4	在地	中世	7トレTa2	
96	土師質	内耳	—	内 ロクロナデ 外 "			口縁破片	在地	15C後半	7トレTa2	スス付着
97	灰釉陶器	黄瀬戸鉢	—	内 ロクロナデ→内面に櫛描波状文→施釉(ハケ塗り?) 外 ロクロナデ→施釉			胴部破片	瀬戸・美濃	17C前	7トレTa2	
番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置	備考			
282	銅製品	煙管	(3.9)	0.9	0.1mm以下	0.63	7トレTa2	No.1			
283	古銭	寛永通寶	2.5	—	—	1.59	7トレTa2	(古寛永)初铸年1636年			
465	鉄製品	角釘	(6.8)	(0.5)	0.35	2.82	7トレTa2				
466	鉄製品	角釘	(3.8)	(0.7)	0.3	2.25	7トレTa2				
98	石製品	台石	26.6	21.0	8.9	7,500	7トレTa3	安山岩			
99	石製品	スリ石	13.9	11.2	5.7	1,380	7トレTa3				
100	石製品	スリ石	8.8	7.4	3.2	240	7トレTa3				
番号	器種		法 量 口径・底径・器高	調整			残存	産地	時期	出土位置	備考
101	土師質	内耳	—	内 ナデ 外 ナデ			把手	在地	中世	7トレTa3	
102	鉄釉陶器	椀	—・(5.2)・(2.0)	内 ロクロナデ→施釉 外 " →底部回転ヘラ切り→高台貼付→施釉			底部1/6	瀬戸・美濃	近世	7トレD7	
103	青磁	蓮弁文碗	(11.0)・—・(2.9)	内 ロクロナデ 外 " →蓮弁文→施釉			口縁1/8	龍泉	13C後 ~14C前	7トレD7	
104	土師質	内耳	(29.0)・—・(3.6)	内 ロクロナデ 外 "			口縁破片	在地	15C後	7トレD7	
105	土師質	かわらけ	(11.0)・(7.5)・2.4	内 ロクロナデ 外 " →底部糸切りか?			口縁1/10・ 底部1/8	在地	17・18C	7トレD7	内耳と同質胎土
番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置	備考			
106	石製品	板碑	(8.1)	(6.9)	1.7	160	7トレD10				
番号	器種		法 量 口径・底径・器高	調整			残存	産地	時期	出土位置	備考
107	磁器	染付皿	(11.5)・(7.4)・2.4	内 ロクロナデ 外 " →高台貼付→施釉			口縁1/8・ 底部1/6	伊万里	17C後	8トレD9	口縁が輪花
108	磁器	染付小碗	—・(3.0)・(3.2)	内 ロクロナデ 外 " →高台貼付→施釉			底部1/2	伊万里	近世	8トレD9	
109	灰釉陶器	鉢	—	内 ロクロナデ 外 " →施釉			胴部破片	前山	18C末 ~19C前	8トレD9	
110	灰釉陶器	仏飯	—	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→施釉			杯部破片	瀬戸・美濃	18C末 ~19C前	8トレD9	
112	土師質	かわらけ	(9.6)・(6.0)・2.1	内 ロクロナデ 外 " →底部糸切り			口縁1/16・ 底部1/6	在地	16C前	8トレ	
113	土師質	内耳	—	内 ナデ 外 ロクロナデ			把手	在地	中世	8トレ	
114	?	内耳?	—・(15.8)・(3.6)	内 ナデ→黒色処理 外 底部外周ヘラナデとヘラケズリ・底部ヘラナデ			底部1/8	?	?	8トレ	
115	鉄釉陶器	天目茶椀	—・(6.0)・(2.4)	内 ロクロナデ→施釉 外 "			底部1/8	瀬戸・美濃	近世	8トレ	
116	灰釉陶器	?	(5.0)・(4.6)・3.0	内 ロクロナデ→施釉 外 "			口縁1/7・ 底部一部	?	近世	8トレ	
117	磁器	染付碗	(11.0)・(6.0)・6.9	内 ロクロナデ→施釉 外 "			口縁一部・ 底部1/6	伊万里	18C	8トレ	

番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置		備考		
118	石製品	凹石	8.0	8.8	6.2	640	8ト		安山岩		
119	石製品	凹石	12.6	13.4	8.2	1,600	8ト		安山岩		
111	土製品	円板	4.1	4.3	1.2	21.39	8ト		内耳二次利用 在地 中世		
120	古銭	寛永通寶	2.8	—	—	4.74	8ト		(四文銭) 初鑄年1769年		
121	古銭	寛永通寶	2.5	—	—	3.42	7ト		(古寛永) 初鑄年1636年 第19図に掲載		
番号	器種		法 量		調整		残存	産地	時期	出土位置	備考
			口径・底径・器高								
122	磁器	染付碗	(8.2)・(4.4)・5.4		内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→施文→施釉		口縁1/9・ 底部1/6	伊万里	18C前～ 19C前	表採	
番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置		備考		
123	石臼	上臼	(38.4)	12.5	—	5,370	表採		ふくみ(1.7)cm 供給孔形状長方形 挽き木孔形状長方形		

第4表 野沢館跡Ⅹ 遺物一覧表

番号	器種		法	調整			残存	産地	時期	出土位置	備考
			量								
124	灰釉陶器	丸椀	(11.8)・4.8・8.0	内 外	ロクロナデ→施釉 " →底部高台貼付	口縁1/7・ 底部完存	前山	18C末 ~19C前	10トD40	No.1	
125	灰釉陶器	椀	— — — —	内 外	ロクロナデ→施釉 " →施釉	口縁破片	前山	18C末 ~19C前	10トD40		
126	土師質	内耳	— — — —	内 外	胴部ナデ→口縁ヨコナデ 胴部ナデ→口縁ヨコナデ	口縁破片	在地	中世	10トD40		
127	須恵器	甕	— — — —	内 外	当て具痕 平行タタキ	胴部破片	在地	平安	10トD41		
128	磁器	染付碗	— — — (4.5)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	体部破片	伊万里	V期	10トD41		
129	磁器	染付碗	— — — —	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁破片	瀬戸・ 美濃	19C前	10トD41		
130	磁器	染付碗	(3.7)・—・(3.6)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁1/9	伊万里	V期	10トD41		
番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置		備考		
131	鉄製品	角釘	(4.8)	(0.9)	(0.7)	4.16	10トレケン				
132	石臼	下臼	—	—	—	970	10トD40				
番号	器種		法	調整			残存	産地	時期	出土位置	備考
			量								
133	焼締	甕	(52.2)・—・(27.1)	内 外	胴部ハナデ' →口縁ヨコナデ' 胴部ハナデ' →口縁ヨコナデ'	口縁1/8	染谷	近世	11トD34		
134	土師質	内耳	— — — —	内 外	ヨコナデ ナデ	胴部破片	在地	中世	11トD34		
135	土師質	かわらけ	9.8・6.7・2.5	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り	2/3	在地	中世	11トD35	口縁スス付着 No.1	
136	土師質	内耳	— — — —	内 外	ヨコナデ ヨコナデ	口縁破片	在地	15C後	11トD35		
137	鉄釉陶器	播鉢	—・(11.0)・(5.1)	内 外	ロクロナデ→すり目→施釉 ロクロナデ→底部回転糸切り→施釉	底部1/3	前山	18C末 ~19C前	11トD38		
138	鉄釉陶器	甕	— — — —	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁破片	前山?	?	11トD38		
139	灰釉陶器	椀	— — — —	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	杯部	唐津	17C	11トD38		
140	土師質	内耳	— — — —	内 外	ヨコナデ ヨコナデ	口縁破片	在地	中世	11トD58		
番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置		備考		
141	石製品	石鉢	—	—	—	810	11トD38				
142	石臼	上臼	—	—	(11.4)	2,880	11トD38		目なし臼。ふくみ (1.8) cm		
番号	器種		法	調整			残存	産地	時期	出土位置	備考
			量								
143	灰釉陶器	丸椀	—・(5.4)・(1.6)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→杯部施釉	底部1/2	瀬戸・ 美濃	18C	12ト	貫入入る	
144	磁器	染付碗	—・(5.6)・(5.5)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部1/3	伊万里	18C末 ~19C前	12トD28	貫入入る	
145	灰釉陶器	稜皿	(10.0)・(5.8)・2.1	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付→施釉	口縁1/6・ 底部1/4	大窯 静岡?	16C後	12トD28		
146	灰釉陶器	香炉	— — — (1.5)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付→施釉	底部1/4	大窯	16C	12トD28		
147	土師質	内耳	— — — —	内 外	ヨコナデ ヨコナデ	口縁破片	在地	中世	12トD28		
148	瓦質土器	火鉢	— — — —	内 外	ヨコナデ ミガキ	口縁一部	在地	近世	12トD28		
149	土師質	播鉢	— — — —	内 外	ロクロナデ→ヨコナデ→すり目→黒色処理 ロクロナデ	胴部破片	在地	16C中	12トD29		
150	土師質	内耳	(31.2)・—・(14.1)	内 外	胴部ナデ→口縁ヨコナデ 胴部ハナデ' →口縁ヨコナデ'	口縁1/8	在地	16C中	12トD29	No.1	
151	白磁	皿	(14.0)・—・(1.9)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→輪花貼付→施釉	口縁破片	伊万里	近世	12トD32		

152	灰釉陶器	丸椀	－・4.4・〈2.6〉	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台削り出し→施釉	底部完形	？	18C	12トD32		
153	土師質	火鉢	－・－・－	内 外	ナデ ナデ→脚部貼付	底部一部	在地	近世	12トD32		
154	鉄釉陶器	丸椀	－・－・－〈5.8〉	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台削り出し→施釉	体部破片	前山	18C後	12トM9㍻		
番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置		備考		
155	鉄製品	？	10.1	1.6	0.75	44.22	12トレD28				
156	石製品	手水鉢	〈23.7〉	〈39.6〉	〈17.0〉	11,990	12トレケン		ノミ痕残る。		
157	石製品	敲打石	12.3	5.8	3.4	330	12トレD31ケン		スリ目あり。		
158	石製品	播鉢	〈16.4〉	22.1	〈13.4〉	5,530	12トレD28		No.1		
159	石製品	播鉢	〈18.5〉	〈11.6〉	12.1	2,260	12トレD28		No.2。五輪塔の一部か？		
160	石製品	凹石	8.1	7.7	4.2	350	12トレD28㍻				
161	石製品	播鉢	－	－	12.5	730	12トレD30				
162	石製品	凹石	〈9.2〉	〈10.3〉	6.1	480	12トレD32ケン				
163	石製品	播鉢	－	－	14.0	3,080	12トレD32		対面に凹あり。		
番号	器種		法 量 口径・底径・器高	調 整			残存	産地	時期	出土位置	備考
164	土師質	かわらけ	11.0・6.8・2.8	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転系切り	口縁一部欠損 底部完損	在地	16C～ 17C	13トケン	No.1	
165	土師質	かわらけ	(8.3)・(5.2)・2.3	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転系切り	口縁一部・ 底部1/2	在地	16C	13トケン		
166	長石釉陶器	志野皿	(11.9)・－・〈1.9〉	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁1/12	瀬戸・ 美濃	17C前	13トケン	貫入入る	
167	鉄釉陶器	碗	－・4.7・〈2.0〉	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→背部施釉	底部完形	瀬戸・ 美濃	18C～ 19C	13トケン		
168	鉄釉陶器	播鉢	－・－・－	内 外	ロクロナデ→スリ目→施釉 ロクロナデ→施釉	胴部破片	前山	18C末～ 19C前	13トケン		
169	陶器	椀	－・－・－	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁一部	唐津	17C	13トTa2㍻		
170	土師質	かわらけ	(8.2)・－・〈1.7〉	内 外	ロクロナデ ロクロナデ	口縁1/6	在地	16C～ 17C	13トTa2㍻		
171	土師質	かわらけ	－・(5.4)・〈1.3〉	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転系切り	底部1/6	在地	中世	13トD24		
172	土師質	香炉	－・－・－	内 外	ナデ ナデ	脚	在地	中世	13トD25		
173	土師質	かわらけ	(8.0)・(3.9)・2.0	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転系切り	口縁～底部1/8	在地	中世	13トD25		
174	鉄釉陶器	椀	－・4.8・〈1.4〉	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台削り出し	底部完存	前山	18C末～ 19C前	13トD27		
175	鉄釉陶器	椀	－・－・－	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁破片	前山	18C末～ 19C前	13トD27		
176	土師質	内耳	－・－・－	内 外	ロクロナデ ナデ→口縁ヨコナデ	口縁破片	在地	16C中	13トP17㍻		
177	土師質	内耳	－・－・－	内 外	ロクロナデ ナデ	底部破片	在地	16C中	13トP21		
178	土師質	内耳	－・－・－	内 外	ナデ ナデ	胴部破片	在地	中世	13トP22		
179	土師質	内耳	－・－・－	内 外	ナデ 胴部ナデ	底部破片	在地	15C後	13トP23		
180	土師質	内耳	－・－・－	内 外	ロクロナデ ロクロナデ	口縁破片	在地	15C後	13トP23		
181	白釉陶器	志野皿	－・(7.2)・〈1.4〉	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付	底部1/6	瀬戸・ 美濃	17C	13トP24		
182	土師質	内耳	－・－・－	内 外	ナデ ナデ	破片	在地	中世	13トP24		
183	陶器	甕	－・－・－	内 外	ナデ ナデ	胴部破片	常滑	中世	13トP26		
184	鉄釉陶器	播鉢	－・－・－	内 外	ロクロナデ→スリ目→施釉 ロクロナデ→施釉	胴部破片	瀬戸・ 美濃	17C前～ 18C	13トP26		
185	土師質	内耳	－・－・－	内 外	ナデ ナデ	底部破片	在地	中世	13トP33		

186	鉄釉陶器	小椀	(7.7)・ \cdot ・ \cdot 2.5	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁1/6	瀬戸・美濃	近世	13トP34		
187	土師質	内耳	\cdot ・ \cdot ・ \cdot ・ \cdot	内 外	ロクロナデ ロクロナデ	口縁破片	在地	中世	13トP36		
188	土師質	内耳	\cdot ・ \cdot ・ \cdot ・ \cdot	内 外	ナデ ナデ	胴部破片	在地	中世	13トP41		
番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置		備考		
189	鉄製品	角釘	6.4	0.9	0.6	9.19	13トケン				
190	鉄製品	角釘	(4.8)	0.8	0.7	5.26	13トケン				
191	石製品	砥石	7.6	5.9	2.3	140	13トケン		近世。ノコギリ痕有り。		
192	石製品	凹石	13.3	14.6	7.7	1,870	13トケン				
193	茶臼	上臼	18.6	—	7.7	1,150	13トケン		ふくみ0.2cm 心棒径(2.3)cm		
194	石製品	石鉢	(18.8)	—	8.6	840	13トD24				
195	石臼	下臼	(34.4)	—	10.0	1,830	13トD25		ふくみ1.2cm 目無し臼		
196	石製品	凹石	(14.8)	(15.6)	9.2	1,370	13トP33		No.1		
197									NNZⅧ 第15図第7トPに掲載		
番号	器種		法 量 口径・底径・器高	調整			残存	産地	時期	出土位置	備考
198	白釉陶器	志野丸皿	(11.8)・(7.0)・2.0	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁～ 底部1/2	瀬戸・美濃	17C後	14ト	内外面にトチン痕。	
199	灰釉陶器	椀	(9.8)・ \cdot ・(4.7)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施文→施釉	口縁1/6	瀬戸・美濃	18C末～ 19C前	14ト		
200	錆釉陶器	稜皿	\cdot ・(6.2)・(0.9)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部1/7	瀬戸・美濃	16C前～中	14トケン		
201	灰釉陶器	椀	\cdot ・ \cdot ・ \cdot ・ \cdot	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁破片	瀬戸・美濃	18C末～ 19C前	14ト	貫入入る	
202	磁器	染付椀	\cdot ・(4.0)・(2.1)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部1/3	伊万里	18C末～ 19C前	14ト		
203	磁器	染付皿	\cdot ・ \cdot ・ \cdot ・ \cdot	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部破片	伊万里	18C末～ 19C前	14ト		
204	磁器	染付皿	(13.0)・(5.2)・4.8	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	口縁1/8 底部1/2	伊万里	17C中	14トケン		
205	磁器	染付皿	(14.3)・ \cdot ・(1.7)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁1/6	伊万里	18C末～ 19C後	14ト		
206	磁器	染付?	\cdot ・ \cdot ・ \cdot ・ \cdot	内 外	施釉 施釉	口縁一部	瀬戸・美濃	近代	14ト		
207	陶器	染付德利	5.3・3.8・2.1	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台削り出し?→施釉	ほぼ完形	?	近代	14ト	端部磨く。	
208	磁器	猪口	\cdot ・(3.2)・(2.3)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部1/2	瀬戸・美濃	近代	14ト		
209	磁器	花瓶	(6.2)・ \cdot ・(1.2)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁1/7	瀬戸・美濃 (前山か?)	18C末～ 19C前	14ト		
210	土師質	火鉢	\cdot ・ \cdot ・ \cdot ・ \cdot	内 外	ロクロナデ→口縁ヨコナデ 胴部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	口縁破片	在地	近世	14トケン		
211	土師質	内耳	\cdot ・ \cdot ・ \cdot ・(6.9)	内 外	ナデ ナデ	口縁把手	在地	中世	14トD8		
212	土師質	内耳	\cdot ・ \cdot ・(3.2)	内 外	ロクロナデ ナデ	底部破片	在地	中世	14トD8		
213	灰釉陶器	椀	(12.6)・ \cdot ・(3.1)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁破片	唐津?	17C	14トD8		
214	陶器	椀	\cdot ・(6.2)・(3.3)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部1/2	唐津	17C	14トD33		
番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置		備考		
215	金属製品	?	1.0	3.6	0.3	3.46	14トレM8				
216	古銭	寛永通寶	2.3	—	—	2.58	14トレM8		新寛永。江戸時代。		
217	石製品	石鉢	(25.3)	25.7	15.1	10,940	14トケン				
218	石臼	下臼	(30.4)	—	7.6	4,630	14トケン		ふくみ2.4 心棒直径(3.0)		
219	石臼	上臼	32.4	—	9.8	7,550	居屋敷49-1 出土		ふくみ0.6 心棒直径(3.2) 供給孔径4.2 挽き木孔方形 目無し臼		
220	石臼	上臼	(32.4)	—	11.2	3,530	居屋敷49-1 出土		ふくみ3.4 心棒直径(3.0) 挽き木孔4.2×3.1(cm)		
221	石臼	下臼	(27.8)	—	10.6	5,700	居屋敷49-1 出土		ふくみ1.1 心棒径(1.8)cm		
222	石臼	下臼	(30.2)	—	9.1	2,910	居屋敷49-1 出土		ふくみ2.3 心棒径(1.5)cm		
223	石製品	凹石	(21.0)	20.8	14.6	7,440	居屋敷49-1 出土				

224	石製品	播鉢	(13.8)	(16.6)	(7.3)	1,990	居屋敷49-1出土					
番号	器種		法 量		調 整			残存	産地	時期	出土位置	備考
			口径・底径・器高									
225	錆釉陶器	甕	—・—・—	内	ロクロナデ→施釉			口縁破片	前山	近代	15ㄮ	
				外	ロクロナデ→施釉							
226	白磁	皿	—・(6.0)・(2.3)	内	ロクロナデ→施釉			底部1/3	瀬戸・美濃	近代	15ㄮ	
				外	ロクロナデ→施釉							
227	磁器	染付蓋	(9.0)・(3.7)・2.7	内	ロクロナデ→施釉			口縁一部・ 底部1/2	伊万里	18C末～ 19C前	15ㄮ	貫入入る
				外	ロクロナデ→高台貼付→施釉							
228	陶器	蓋	(6.4)・—・(1.1)	内	ロクロナデ→文様削りだし→施釉			1月6日	瀬戸・美濃	近代	15ㄮ	
				外	ロクロナデ→かえり貼付け→施釉							
229	鉄釉陶器	小壺	(3.0)・—・(2.3)	内	ロクロナデ→施釉			口縁1/3	瀬戸・美濃	近代	15ㄮ	
				外	ロクロナデ→施釉							
230	瓦	軒平	(5.4)・—・5.0	内	焰焼			一部	幕末以降	近代	15ㄮ	
				外	焰焼							
231	土師質	火鉢	(25.2)・—・(3.6)	内	ロクロナデ			口縁破片	在地	近世	15ㄮ	
				外	ロクロナデ							
232	土師質	内耳	(25.0)・—・(5.8)	内	ロクロナデ			口縁破片	在地	中世	15ㄮ	
				外	ロクロナデ							
233	土師質	内耳	—・—・—	内	ナデ			底部破片	在地	中世	15ㄮ	
				外	ナデ							
234	陶器	黄瀬戸鉢	—・—・—	内	ロクロナデ→施釉			破片	瀬戸・美濃	17C	15ㄮD42	
				外	ロクロナデ→櫛描波状文→施釉							
235	錆釉陶器	播鉢	—・—・—	内	スリ目→施釉			破片	唐津	17C	15ㄮD42	
				外	ロクロナデ→施釉							
236	陶器	甕	—・—・—	内	ナデ			胴部片	常滑	中世	15ㄮD42	
				外	ナデ							
237	灰釉陶器	灯明皿	(11.2)・—・(2.0)	内	ロクロナデ→灯芯台貼付→施釉			口縁1/3	前山	18C末～ 19C前	15ㄮD44	
				外	ロクロナデ→底部部回転へろスリ→口縁施釉							
238	鉄釉陶器	土鍋の蓋	(13.6)・—・(2.1)	内	ロクロナデ→施釉			口縁1/7	前山	18C末～ 19C前	15ㄮD44	
				外	ロクロナデ→天井部タタキ→施釉							
239	土師質	火鉢	—・(14.2)・(3.2)	内	ロクロナデ			底部1/6	在地	近代	15ㄮD44	243内
				外	底部外周ナデ→底部へラナデ							
240	磁器	染付碗	—・(3.7)・(2.7)	内	ロクロナデ→施釉			底部2/3	瀬戸・美濃	19C	15ㄮD44	243内
				外	ロクロナデ→高台貼付→施釉							
241	土師質	火鉢	—・—・—	内	ナデ			胴部一部	在地	近世	15ㄮD44	243内
				外	ナデ							
番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置		備考			
242	土製品	円板	(4.4)	(3.7)	1.0	17.54	15ㄮD44		1/4残存。土師器杯転用か？243内			
番号	器種		法 量		調 整			残存	産地	時期	出土位置	備考
			口径・底径・器高									
243	土師質	大甕	(70.0)・—・(58.8)	内	口縁ヨコナデ、胴部へラナデ			口縁一部	在地	近世	15ㄮD44	外面磨減著しい。 No.1
				外	口縁部ミガキ、胴部へラナデ							
244	青磁	香炉	—・(5.8)・(1.6)	内	ロクロナデ			底部1/4	?	近代	15ㄮTa3	
				外	ロクロナデ→高台削り出し→施釉							
245	青磁	香炉	—・(8.8)・(3.6)	内	ロクロナデ			底部1/4	瀬戸・美濃	近代	15ㄮTa4?	No.3 底部は錆釉
				外	ロクロナデ→高台削り出し→施釉							
246	磁器	染付小碗	—・—・—	内	ロクロナデ→施釉			口縁破片	伊万里	18C末～ 19C前	15ㄮTa4	
				外	ロクロナデ→施釉							
247	土師質	植木鉢	—・—・—	内	ロクロナデ			口縁破片	?	?	15ㄮTa4D1	
				外	ロクロナデ							
248	土師質	焙烙	—・—・—	内	ロクロナデ			口縁破片	在地	近世	15ㄮTa4?	スス付着
				外	ロクロナデ→回転へろスリ→一部ミガキ							
249	土師質	内耳	(29.6)・—・(5.9)	内	へラナデ			口縁1/11	在地	16C後	15ㄮTa4?	
				外	ナデ							
250	土師質	かわらけ	—・—・—	内	ロクロナデ			底部破片	在地	中世?	15ㄮP74	
				外	ロクロナデ→底部糸切り							
251	陶器焼締	播鉢	—・—・—	内	スリ目			胴部破片	在地	近世	15ㄮP84	
				外	ロクロナデ							

番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置	備考			
252	土製品	円板	3.2	3.4	0.9	12.76	15トP94	内耳の二次利用。			
253	鉄製品	角釘	(3.4)	(0.9)	0.6	3.21	15ト				
254	鉄製品	刀子?	(6.2)	(1.9)	(0.55)	7.26	15トレ	243内			
255	渡来銭	永楽通寶	2.5	-	-	3.07	Ta4	初鑄年1408年 No.2			
256	石臼	上臼	-	-	9.5	640	15トレケン				
257	石製品	凹石	12.2	13.1	8.8	1,750	15トレ				
258	茶臼	下臼	-	-	(12.3)	3,390	15トレ				
259	五輪塔?		(13.3)	(11.3)	(8.3)	620	15トレTa3				
260	石製品	台石	23.1	32.6	11.5	11,290	15トレTa4	No.4			
261	石製品	砥石?	(3.1)	(2.3)	(0.7)	6.89	15トレTa4P 1				
262	石製品	石鉢	(24.0)	-	(9.6)	1,150	15トレTa4				
263	石製品	凹石	18.6	21.0	12.3	6,440	15トレTa4				
264	石製品	凹石	18.2	19.7	10.1	4,970	15トレTa4				
464	渡来銭	政和通寶	(2.2)	-	-	1.57	15トTa4	No.1。初鑄年1111年北宋時代。			
265	石製品	凹石	18.1	20.8	10.8	4,740	15ト	No.2			
番号	器種		法 量 口径・底径・器高	調 整			残存	産地	時期	出土位置	備考
266	錆釉陶器	壺	一・(2.8)・(1.7)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り→胴部に凹みをつける→施釉			底部1/2	?	近代	16トD45	
267	灰釉陶器	平碗	一・一・一	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→高台貼付→施釉			破片	大窯	16C	16トD46	No.2
番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置	備考			
268	古銭	寛永通寶	2.3	-	-	1.67	16トレD46	(四文銭)初鑄年明和5年(1768) No.3			
269	古銭	寛永通寶	2.5	-	-	3.90	16・17トレケン	古寛永 初鑄年寛永13年(1636)			
270	石臼	下臼	(32.5)	-	16.3	10,240	16トレD46	No.1 ふくみ3.0cm 心棒孔径(2.8)cm			
番号	器種		法 量 口径・底径・器高	調 整			残存	産地	時期	出土位置	備考
271	陶器	急須	(7.1)・一・(1.7)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→施釉			口縁1/4	?	近代	16・17トケン	
272	鉄釉陶器	仏花瓶	一・(6.2)・(0.9)	内 外 ロクロナデ→底部回転糸切り→施釉			脚部1/6	前山	18C末~ 19C前	17トケン	
273	白磁	碗	一・一・一	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→施釉			口縁破片	伊万里	幕末	17トケン	
274	磁器	染付碗	一・一・一	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→施釉			口縁破片	伊万里	幕末	17トケン	
275	磁器	染付猪口	一・2.8・(1.9)	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→高台貼付→施釉			底部完存	瀬戸・ 美濃	19C	17トケン	
276	土師質	内耳	一・一・一	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ			口縁破片	在地	中世	17トケン	
278	土師質	内耳	一・一・一	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ			口縁破片	在地	中世	17トD47	
279	錆釉陶器	土管	(29.0)・一・(18.5)	内 ナデ 外 ヘラナデ→上部に横位の沈線を6条施す			口縁1/3	近在	近代	17トD48	No.1。井戸枠として使用。
番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置	備考			
280	青銅製品	煙管	(2.35)	(2.3)	1.4	2.96	17トレケン				
281	石臼	上臼	(33.8)	-	(8.7)	3,210	17トレD47	No.1。ふくみ(1.9)。輝石安山岩。			
277	土製品	円板	3.3	3.7	0.9	12.51	17トレケン	内耳の二次利用。			
番号	器種		法 量 口径・底径・器高	調 整			残存	産地	時期	出土位置	備考
282			-								NNZⅧ第17図に掲載
283			-								NNZⅧ第17図に掲載
284	鉄釉陶器	土瓶の蓋	5.5・1.0・2.1	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→つまみ貼付→施釉			完形	前山	18C末~ 19C前	18トケン	
285	磁器	染付小碗	(7.6)・一・(1.5)	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→施釉			口縁1/4	瀬戸・ 美濃	19C	18トケン	
286	土師質	?	(2.8)・(3.7)・5.0	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り→焼成前穿孔			口縁1/3	在地	近世末	18トD16	
287	灰釉陶器	小碗	一・(3.4)・(1.4)	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→高台削り出し→施釉			底部1/4	瀬戸・ 美濃	18C後	18トD16	貫入する

288	鉄釉陶器	土瓶注口	— · — · —	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→施釉	注口のみ残存	前山	18C末～ 19C前	18トD16		
289	錆釉陶器	灯明皿	10.2・4.3・2.3	内 ロクロナデ→貼付→施釉 外 ロクロナデ→底部回転へカスリ→施釉	口縁一部欠損 底部完存	前山	18C末～ 19C前	18トD16		
290	磁器	染付碗	(8.0)・—・(3.3)	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→施釉	口縁1/8	伊万里	18C末～ 19C前	18トD16		
291	磁器	染付碗	—・3.1・(1.8)	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部完存	伊万里	18C末～ 19C前	18トD16	口縁端部円盤状に加工か？	
292	磁器	染付碗	(10.2)・—・(3.9)	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→施釉	口縁1/7	伊万里	18C	18トD16		
293	磁器	染付碗	—・(4.0)・(3.2)	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→施釉	底部1/4	伊万里	18C末～ 19C前	18トD16		
294	土師質	火鉢	— · — · —	内 円錐脚貼付 外 口縁部ミガキ、胴部ロクロナデ→ナデ	口縁破片	在地	近代	18トD16	295と同個体	
295	土師質	火鉢	— · — · —	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→ナデ	胴部破片	在地	近代	18トD16	294と同個体	
296	鉄釉陶器	甕	— · — · —	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→施釉	胴部破片	前山	18C末～ 19C前	18トD18	No.1	
297	土師質	植木鉢	(17.0)・11.8・(11.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→脚部貼付→胴部と底部回転へカスリ→口縁ロクロナデ→焼成前底部に穿孔。脚部に3ヶ所切り込みを入れる。	口縁一部 底部完存	近在	近世末	18トD18		
番号	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置	備考			
298	土製品	円板	3.0	3.3	0.9	9.68	18トD20	内耳の二次利用。No.3		
番号	器種	法 量 口径・底径・器高	調 整			残存	産地	時期	出土位置	備考
299	灰釉陶器	小碗	(8.8)・—・(4.0)	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→施釉	口縁1/4	瀬戸・ 美濃	19C前	18トD21ハ	No.1	
300	陶器	染付碗	—・(4.6)・(4.5)	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部1/5	伊万里	18C末～ 19C前	18トD21		
301	鉄釉陶器	播鉢	— · — · —	内 刻み目→施釉 外 ロクロナデ→施釉	破片	前山	18C末～ 19C前	18トD21ハ		
302	磁器	染付皿	(18.0)・—・(3.1)	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→施釉	口縁1/8	伊万里	18C末～ 19C前	18トD21ハ		
303	磁器	染付蓋	(10.4)・(6.0)・2.8	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→高台貼付→施釉	口縁1/6・ 底部1/2	伊万里	18C末～ 19C前	18トD21ハ		
304	土師質	火鉢	—・(23.2)・(2.2)	内 ロクロナデ 外 ヘラケズリ→ミガキ、底部ナデ周辺部ミガキ	底部1/4	在地	近世	18トD21	No.3	
305	土師質	火鉢類	(18.8)・(16.0)・2.3	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁1/8・ 底部一部	近在	近世	18トD21	磨耗	
306	土師質	火鉢	— · — · —	内 ロクロナデ→ミガキ 外 口縁ミガキ、胴部刻み目	破片	在地	近世	18トD21ハ		
307	欠									
308	青磁	蓮弁文碗	— · — · —	内 ロクロナデ→施釉 外 蓮弁文→施釉	口縁破片	龍泉窯	14C	18トD22		
309	土師質	内耳	— · — · —	内 ヨコナデ 外 ナデ	底部破片	在地	中世	18トD22		
311	磁器	染付碗	—・3.6・(2.4)	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部1/2	伊万里	18C末～ 19C前	18トM7	第35図掲載	
312	鉄釉陶器	片口鉢	—・10.0・(2.3)	内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→高台貼付	底部2/3	前山	18C末～ 19C前	18トM7	第35図掲載	
313	錆釉陶器	播鉢	—・(7.8)・(2.1)	内 スリ目→施釉 外 ロクロナデ→底部部回転へカスリ、口縁部施釉	底部1/3	前山	18C末～ 19C前	18トM7	第35図掲載	
314	鉄釉陶器	播鉢	— · — · —	内 スリ目→施釉 外 ロクロナデ→施釉	胴部破片	前山	18C末～ 19C前	18トM7	第35図掲載	
番号	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置	備考			
310	瓦質	軒平瓦	(10.8)	—	5.3	—	18トD23	幕末。近在。第35図掲載		
315	古銭	〇〇〇〇	2.4	—	—	2.83	18トD22			
316	古銭	〇〇〇〇	(3.0)	—	—	2.48	18トD22	No.2		
317	古銭	〇〇〇〇	(2.6)	—	—	2.53	18トD22	No.2		
318	古銭	寛永通寶	2.3	—	—	3.53	18トD22	No.1		
319	古銭	寛永通寶	2.4	—	—	2.7	18トD22	No.2		

320	古銭	寛永通寶	2.3	-	-	2.10	18ㄗD22	No.2			
321	古銭	寛永通寶	2.5	-	-	3.35	18ㄗD22	No.2。初鑄年1668年			
322	古銭	寛永通寶	2.3	-	-	2.47	18ㄗD22	No.2			
323	古銭	寛永通寶	2.3	-	-	2.71	18ㄗD22	No.2			
324	古銭	寛永通寶	2.3	-	-	2.71	18ㄗD22	No.2			
325	古銭	寛永通寶	2.3	-	-	1.79	18ㄗD22	新寛永			
326	古銭	寛永通寶	2.2	-	-	3.41	18ㄗD22	No.2			
327	古銭	寛永通寶	2.2	-	-	3.11	18ㄗD22	No.2			
328	古銭	寛永通寶	2.5	-	-	4.22	18ㄗD22	No.2			
329	古銭	寛永通寶	2.2	-	-	1.90	18ㄗD22	No.2			
330	古銭	寛永通寶	2.2	-	-	2.46	18ㄗD22	No.2			
331	茶臼	下臼	(43.2)	-	12.0	4.810	18ㄗ	ふくみ6.0 心棒孔径(1.3)			
332	石製品	砥石	11.7	6.8	2.7	410	18ㄗレD16				
333	石臼	下臼	(26.4)	-	13.7	6,090	18ㄗレD23	ふくみ2.1 心棒孔径(3.9)スリ面磨耗スス付着			
334	石臼	下臼	(37.2)	-	6.6	2,400	18ㄗレD23	ふくみ0.4 心棒孔径(3.6)			
335	石製品	砥石	7.1	3.2	2.7	120	18ㄗレD23	押型			
336	石製品	凹石	(27.0)	-	13.5	3,560	18ㄗレD23	No.1			
337	石臼	下臼	(32.4)	-	(9.0)	4,430	18ㄗレD23	ふくみ (2.4) No.2			
338	石製品	播鉢	-	-	(10.2)	660	18ㄗレM7	黒色多孔質安山岩			
339	石臼	下臼	(33.0)	-	7.7	2,620	18ㄗレM7	ふくみ?心棒孔径? スリ面磨耗			
番号	器種		法 量			調整	残存	産地	時期	出土位置	備考
			口径・底径・器高								
340	灰釉陶器	小碗	-・(7.5)・(1.5)	内	ロクロナデ→施釉		底部1/3	前山	18C末~ 19C前	19ㄗ	
				外	ロクロナデ→高台貼付						
341	鉄釉陶器	椀	-	内	ロクロナデ→施釉		口縁破片	前山	19C末~ 20C前	19ㄗ	
				外	ロクロナデ→施釉						
342	鉄釉陶器	天目茶碗	-	内	ロクロナデ→施釉		口縁破片	瀬戸・ 美濃	17C	19ㄗ	
				外	ロクロナデ→施釉						
343	灰釉陶器	椀	-・(4.8)・(1.6)	内	ロクロナデ→施釉		底部1/2	前山	18C末~ 19C前	19ㄗ	
				外	ロクロナデ→高台貼付						
344	陶器	竹目鉢	-・(10.4)・(4.4)	内	ロクロナデ→施釉		底部1/3	唐津	18C	19ㄗ	
				外	ロクロナデ→高台貼付→胴部錆釉施釉						
345	鉄釉陶器	甕	-	内	ロクロナデ→施釉		破片	前山	18C末~ 19C前	19ㄗ	
				外	ロクロナデ→施釉						
346	鉄釉陶器	播鉢	-	内	スリ目→施釉		胴部破片	前山	18C末~ 19C前	19ㄗ	
				外	ロクロナデ→施釉						
347	鉄釉陶器	香炉	(10.7)・10.7・5.7	内	ロクロナデ→口縁施釉		口縁1/4・ 底部3/4	瀬戸・ 美濃	18C後	19ㄗ	
				外	ロクロナデ→黒文様→施釉 底部回転ハガリ→高台貼付						
348	磁器	染付小碗	(9.0)・-・2.9	内	ロクロナデ→施釉		口縁1/6	伊万里	18C末~ 19C前	19ㄗ	
				外	ロクロナデ→施釉						
349	磁器	染付碗	-・(3.8)・(2.7)	内	ロクロナデ→施釉		底部1/4	伊万里	18C末~ 19C前	19ㄗ	
				外	ロクロナデ→高台貼付→施釉						
350	磁器	染付徳利	-・(6.0)・(1.2)	内	ロクロナデ→施釉		底部1/4	伊万里	近世末	19ㄗ	
				外	ロクロナデ→高台貼付→施釉						
351	土師質	火鉢	(33.6)・-・(3.4)	内	ロクロナデ		口縁破片	在地	近世	19ㄗ	
				外	ロクロナデ→ミガキ						
352	灰釉陶器	丸椀	-	内	ロクロナデ→施釉		口縁破片	瀬戸・ 美濃	17C	19ㄗD1	
				外	ロクロナデ→施釉						
353	白釉	志野丸皿	-・(6.8)・(1.2)	内	ロクロナデ→施釉		底部1/7	瀬戸・ 美濃	17C	19ㄗD1	
				外	ロクロナデ→施釉						
354	陶器	播鉢	-	内	ロクロナデ→スリ目→施釉		胴部破片	大窯	16C	19ㄗD1	
				外	ロクロナデ→施釉						
355	灰釉陶器	丸椀	-	内	ロクロナデ→施釉		口縁破片	瀬戸・ 美濃	18C末~ 19C前	19ㄗD2	
				外	ロクロナデ→施文→施釉						
356	鉄釉陶器	鉢	-・(7.8)・(2.6)	内	ロクロナデ→施釉		底部3/4	前山	18C末~ 19C前	19ㄗD2	
				外	ロクロナデ→高台削り出し→施釉						
357	磁器	染付小碗	(8.7)・-・(4.5)	内	ロクロナデ→施釉		口縁1/2	伊万里	18C末~ 19C前	19ㄗD2	No.1
				外	ロクロナデ→施釉						
358	土師質	火鉢	(27.6)・-・(2.7)	内	ロクロナデ		口縁破片	在地	近世	19ㄗD2	
				外	ロクロナデ						

359	鉄釉陶器	壺	－・(11.0)・(2.0)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→施釉 底部ヘラナデ	底部1/2	前山	18C末～ 19C前	19トD37			
360	錆釉陶器	播鉢	－	内 外	ロクロナデ→スリ目→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁破片	唐津	17C後	19トD4			
361	磁器	染付猪口	－・(3.0)・(1.0)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部1/4	瀬戸・ 美濃	近代	19トM6			
362	錆釉陶器	鉢類	－	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁破片	唐津	近世	19トM6			
番号	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置	備考					
363	鉄製品	角釘	(3.0)	1.2	1.0	4.64	19トレD4					
364	石臼	上臼	(32.0)	－	(10.3)	2,240	19トレD1	No.2。ふくみ(3.3)。黒色多孔質安山岩				
365	石製品	石鉢	(23.1)	(25.5)	17.9	7,750	19トレD1	No.1。溶結凝灰岩				
366	茶臼	上臼	(20.8)	－	11.8	1,550	19トレD2	ふくみ0.7。心棒孔径(4.0)。挽き手孔形状方形。				
367	石製品	砥石	9.3	6.1	2.5	270	19トレD2					
368	石製品	石鉢	(24.4)	－	13.6	5,600	19トレD3	No.1。硬砂岩				
369	石製品	砥石	8.8	5.7	2.2	180	19トレD3					
370	石製品	播鉢	(22.4)	－	9.9	1,730	19トレM6	No.1				
371	石製品	播鉢	17.1(底部)	－	(14.0)	5,940	19トレM6	No.2。溶結凝灰岩				
番号	器種	法 量 口径・底径・器高	調 整			残存	産地	時期	出土位置	備考		
372	磁器	染付碗	－・4.2・(3.0)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部完存	伊万里	18C末～ 19C前	20トD15	No.1		
373	磁器	染付皿	(12.0)・－・(1.6)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁破片	伊万里	18C末～ 19C前	20トD15			
374	灰釉陶器	椀	－・4.5・(2.2)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部完存	唐津	17C後	20トD437	ゴキテ椀		
375	瓦質	香炉	(12.0)・－・(2.2)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ	口縁1/8	?	中世	20トDカラ	第38図掲載		
376	灰釉陶器	丸皿	(11.4)・(6.7)・1.6	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部1/6	瀬戸・ 美濃	17C後	21ト			
377	白釉陶器	皿?	－・4.5・(1.6)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部ほぼ 完存	前山?	?	21トDカラ			
378	鉄釉陶器	片口鉢	－・5.4・(3.0)	内 外	ロクロナデ→施釉 口縁ロクロナデ→施釉 高台貼付	底部完存	前山	18C	21ト	No.4		
379	灰釉陶器	徳利	－・(7.8)・(2.4)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→高台削り出し→施釉	底部1/4	前山	18C末～ 19C前	21トDカラ			
380	灰釉陶器	椀	(8.3)・－・(3.4)	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施文→施釉	口縁1/6	瀬戸・ 美濃	18C末～ 19C前	21ト			
381	鉄釉陶器	播鉢	－	内 外	ロクロナデ→スリ目→施釉 ロクロナデ→施釉	胴部破片	前山	18C後～ 19C前	21ト			
382	錆釉陶器	播鉢	－	内 外	ロクロナデ→スリ目 ロクロナデ→施釉	胴部破片	前山	18C後～ 19C前	21トDカラ			
番号	器種	法 量 口径・底径・器高	調 整			残存	産地	時期	出土位置	備考		
384	須恵器	杯	(14.6)・－・(2.0)	内 外	ロクロナデ ロクロナデ	口縁一部			21トTa1	外面火だすき有り。		
385	鉄釉陶器	播鉢	－・13.3・(10.1)	内 外	ロクロナデ→刻目(16本1単位) ロクロナデ→底部回転糸切り→施釉		前山	18C後～ 19C前	21トD10	No.1 内面磨滅。		
番号	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置	備考					
383	土製品	碁石	1.8	1.9	0.6	1.92	21トDカラ	ナデ調整				
386	銅製品	銅板	12.9	6.85	0.03	21.6	21トレTa1	No.1。紙が何層も貼られている。				
387	石臼	下臼	(31.0)	－	9.5	5,890	21トレ	ふくみ0.4 心棒孔径(4.2)。ノミ痕残る。				
388	石製品	凹石	(16.0)	－	8.3	1,500	21トレ					
389	石製品	石鉢	－	－	(7.8)	350	21トレD11					
390	石臼	上臼	－	－	(10.4)	3,190	21トレD14	ふくみ(0.6)挽き木孔形状円型か?凹石としての二次利用有り				
391	石臼	上臼	(32.0)	－	13.1	5,680	21トレM1・M2	ふくみ3.2 心棒孔径(2.2)挽き手孔形状方形				
392	石臼	上臼	(37.0)	－	9.8	2,690	21トレM3	ふくみ1.5 供給孔形状方形?ノミ痕残る。スリ面磨耗				
393	石製品	凹石	13.1	16.2	9.8	2,310	21トレM3					
394	石臼	下臼	33.4	－	11.8	4,310	21トレM4	ふくみ2.1				

第5表 野沢館跡X 遺物一覧表

番号	器種		法 量		調 整	残存	産地	時期	出土位置	備考
			口径・底径・器高							
395	灰釉陶器	椀	(11.2)・--・(4.8)		内 ロクロナデ→施釉 外 " →施釉	口縁1/8	前山	18C	22トク	
396	陶器	片口鉢	17.8・9.4・9.7		内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→高台貼付→施釉	口縁2/3 底部完存	前山	18C	22トD6	
397	灰釉陶器	鉢?	(18.2)・--・(5.2)		内 ロクロナデ→施釉 外 "	口縁1/9	前山	18C末 ~19C前	22トク	
398	灰釉陶器	壺?	-		内 ロクロナデ 外 " →施釉	胴部破片	前山	18C末 ~19C前	22トD6	
399	錆釉陶器?	灯明皿	(11.4)・(5.4)・(1.9)		内 ロクロナデ→芯台貼付→ナデ→施釉 外 ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→施釉	口縁~底部 1/4	前山	18C末 ~19C前	22トD6	
400	灰釉陶器	椀	-		内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→施釉	口縁破片	瀬戸・ 美濃	18C末 ~19C前	22トク	
401	灰釉陶器	椀	--・(4.0)・1.9		内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→施釉	底部1/4	瀬戸・ 美濃	18C末 ~19C前	22トD6	
番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置		備考	
402	石製品	砥石	(6.3)	3.2	3.0	110	22トD6			
番号	器種		法 量		調 整	残存	産地	時期	出土位置	備考
			口径・底径・器高							
403	土師質	かわらけ	(7.4)・(4.6)・1.7		内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	口縁1/8 底部1/3	在地	中世	24トク	口唇部にスス付着
404	土師質	かわらけ	--・(6.2)・(1.1)		内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	底部1/8	在地	中世	24トP62	
405	鉄釉陶器	徳利	--・(8.5)・(1.4)		内 ロクロナデ→施釉 外 "	底部1/8	前山	18C末 ~19C前	24トD8	
406	灰釉・ 錆釉陶器	土瓶	--・(8.0)・(9.0)		内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→ナデ→施釉	胴部1/8	近在	幕末	24トD8	
407	灰釉陶器	小椀	(8.2)・--・(3.5)		内 ロクロナデ→施釉 外 "	口縁破片	瀬戸・ 美濃	18C末 ~19C前	23トD11	
408	鉄釉陶器	播鉢	(35.8)・--・(3.8)		内 ロクロナデ→施釉 外 "	口縁破片	前山	18C末 ~19C前	23トD11	
番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置		備考	
409	石製品	すり石	(10.8)	(12.3)	5.2	840	24トD8ク			
410	石製品	砥石	(8.7)	(7.5)	(5.8)	410	24トD9			
番号	器種		法 量		調 整	残存	産地	時期	出土位置	備考
			口径・底径・器高							
411	錆釉陶器	筒形土器	(13.7)・--・(7.7)		内 ロクロナデ→口縁部に施釉 外 ロクロナデ→施釉	口縁1/4	前山	18C末 ~19C前	25トD4	
412	瓦質	香炉	-		内 ロクロナデ 外 ナデ→脚部貼付	底部破片	在地	15C~16C	25トD4	
413	焼締陶器	播鉢	--・(10.2)・(5.6)		内 スリ目 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	底部3/4	唐津	17C後	25トD4	No.1・No.3
414	灰釉陶器	椀	--・5.1・(1.4)		内 ロクロナデ→施釉 外 ロクロナデ→高台削り出し?	底部完存	前山	18C	25トD4	貫入する 高台部のみ加工か。
415	土師質	かわらけ	(10.0)・(8.4)・1.9		内 ロクロナデ 外 体部ヘラナデ・底部糸切り	口縁1/7・ 底部1/6	在地	中世	25トD3	
416	土師質	かわらけ	--・(5.4)・(1.2)		内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部糸切り	底部1/4	在地	近世	25トD3	内耳と同質胎土
417	鉄釉陶器	椀	-		内 ロクロナデ→施釉 外 "	口縁破片	前山	18C末 ~19C前	25トD3	
418	土師質	内耳	-		内 ナデ 外 ナデ	耳のみ完存	在地	中世	25トD3	
419	土師質	火鉢類	(31.8)・--・(11.1)		内 胴部ヘラナデ→口縁ミガキ→耳貼付 外 胴部ヘラケズリ→口縁部~胴部ミガキ	口縁1/7	在地	近世	25トD4	No.2
420	土師質	かわらけ	--・(7.7)・(1.3)		内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部糸切り	底部破片	在地	中世	25トP9	

421	土師質	かわらけ	－・(5.9)・〈1.6〉	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り	底部1/4	在地	中世	25㌔P9	
番号	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置	備考			
422	土製品	円板	2.5	3.2	0.6	4.92	25㌔P10	内耳の二次利用		
番号	器種	法 量 口径・底径・器高	調整			残存	産地	時期	出土位置	備考
423	鉄釉陶器	小椀	－・(3.8)・〈4.0〉	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→口縁上部施釉	底部1/4	唐津	17C前	25㌔M1	No.1
424	灰釉陶器	おろし皿	－・5.8・〈1.6〉	内 外	スリ目→施釉 ロクロナデ→底部回転糸切り→杯部施釉	底部1/2	古瀬戸	13C	25㌔	内外面トチン痕有り
425	灰釉陶器	平椀	－	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	体部破片	古瀬戸	15C	25㌔	内面トチン痕あり
番号	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置	備考			
426	土製品	円板	2.9	2.9	0.9	8.27	25㌔	内耳の二次利用		
番号	器種	法 量 口径・底径・器高	調整			残存	産地	時期	出土位置	備考
427	灰釉陶器	志野丸皿	－	内 外	ロクロナデ→施文→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁破片	瀬戸・ 美濃	17C前	25㌔	
428	灰釉陶器	椀	(10.0)・－・〈4.7〉	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁破片	唐津	17C	25㌔	
429	磁器	染付皿	(13.6)・(4.8)・3.6	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	口縁一部・ 底部1/2	初期 伊万里	17C中	25㌔	
430	磁器	輪秃皿	－・(5.0)・〈2.1〉	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部1/2	初期 伊万里	17C中	25㌔	
431	磁器	花瓶	－	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→施釉	頸部1/2	伊万里	近世	25㌔	
432	鉄釉陶器	丸椀	(9.6)・－・〈3.6〉	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	頸部1/2	伊万里	18C	25㌔	
433	陶器	皿	(8.6)・－・〈3.6〉	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁1/8	前山	18C	25㌔	
434	陶器	鉢	－・(12.4)・〈3.2〉	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部1/7	唐津	18C	25㌔	
435	鉄釉陶器	擂鉢	－	内 外	スリ目 ロクロナデ→施釉	胴部破片	前山	18C末 ～19C前	25㌔	
436	鉄釉陶器	香炉	－	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁破片	前山	18C末 ～19C前	25㌔	
437	鉄釉陶器	徳利	－	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	胴部破片	前山	18C末 ～19C前	25㌔	
438	磁器	染付碗	－・(4.8)・〈1.8〉	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部1/5	?	?	25㌔	
439	磁器	染付碗	－・(5.2)・〈2.6〉	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部1/3	瀬戸・ 美濃	19C	25㌔	
440	磁器	染付碗	－・(3.2)・〈2.3〉	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部破片	伊万里	18C末～ 19C前	25㌔	
441	土師質	火鉢	－	内 外	ヨコナデ ヨコナデ→ミガキ	口縁破片	近在	近世	25㌔	
番号	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置	備考			
442	石製品	砥石	11.3	4.7	2.2	150	25㌔D4			
443	石製品	砥石	8.1	4.6	1.2	100	25㌔D4			
444	石製品	凹石	12.6	18.3	7.6	2,150	25㌔D4			
445	石製品	すり石	9.6	15.4	5.1	990	25㌔D4			
446	茶臼	下臼	－	(5.4)	－	240	25㌔D4	黒色多孔質安山岩		
番号	器種	法 量 口径・底径・器高	調整			残存	産地	時期	出土位置	備考
447	土師質	かわらけ	－	内 外	ロクロナデ ロクロナデ	口縁破片	在地	中世	26㌔ㄗ	
448	土師質	火鉢類?	－	内 外	ヨコナデ ミガキ	口縁破片	?	?	26㌔ㄗ	
449	土師質	焙烙	－	内 外	ヨコナデ ヨコナデ	口縁～底部	近在	近世	26㌔ㄗ	

451	鉄釉陶器	天目茶碗	—	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁破片	瀬戸・ 美濃	17C前	26㌧		
452	磁器	染付碗	—・(8.4)・〈1.7〉	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→高台貼付→施釉	底部1/7	伊万里	18C末～ 19C前	26㌧		
453	土師質	火鉢?	(20.9)・—・〈7.6〉	内 外	ロクロナデ ロクロナデ	口縁破片	?	近世	26㌧D5		
454	土師質	内耳	—	内 外	ナデ→口縁ヨコナデ "	口縁破片	在地	16C	26㌧D5		
番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置		備考		
450	土製品	円板	〈3.1〉	3.1	0.6	7.28	26㌧		内耳底部二次利用		
455	古銭	寛永通寶	2.4	-	-	2.48	26㌧		NO.1		
456	鉄製品	角釘	3.8	0.8	0.4	1.86	26㌧				
457	鉄製品	角釘	〈1.9〉	0.5	0.3	0.58	26㌧				
458	欠										
459	石製品	タタキ石	〈7.9〉	12.4	5.6	670	26㌧P23				
番号	器種		法 量 口径・底径・器高	調 整			残存	産地	時期	出土位置	備考
460	鉄釉陶器	椀	—	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	体部破片	前山	18C末～ 19C前	27㌧		
461	灰釉陶器	平椀	(14.6)・—・〈3.6〉	内 外	ロクロナデ→施釉 ロクロナデ→施釉	口縁1/10	古瀬戸	15C	27㌧		
462	土師質	かわらけ	—・(8.0)・〈1.4〉	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り	底部1/6	在地	中世	27㌧D1		
番号	種類		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土位置		備考		
463	石製品	凹石	8.9	9.7	5.7	660	27㌧D2		NO.1		
464									第32図に掲載		
465									第17図に掲載		
466									第17図に掲載		
467									第15図に掲載		

第6表 野沢館跡Ⅷ遺構一覧表

野沢館跡Ⅷ 竪穴状遺構一覧表

遺構名	検出位置	時代	形態	規模 (cm)			主軸方位	炉	柱 穴	備 考
				南北長	東西長	壁 高				
Ta1	7トレ		—	252	〈180〉	23~38	N-41° -W	—	主柱3 床下5	中央一部調査。D7・カクランに切られる。
Ta2	7トレ		円形	295	〈204〉	13~23	N-48° -W	炉	主柱2 他3 床下4	西側調査区外。Ta3を切り、D4・カクランに切られる。青銅品破片・鉄滓・炭化物出土
Ta3	7トレ		円形	172	〈164〉	4~24	N-43° -W	炉	他1 床下1	東側調査区外。Ta2・カクランに切られる。炉より炭化物。

野沢館跡Ⅷ 土坑一覧表

遺構名	検出位置	平面形	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	長軸方位	備考
D1	2トレ	楕円形	〈82〉	〈69〉	17	N-37° -W	西側調査区外・南側未調査区。
D2	2トレ	楕円形	〈94〉	109	28	N-84° -E	西側調査区外。カクランに切られる。
D3	2トレ	—	〈150〉	〈144〉	67	N-57° -W	東側調査区外・西側未調査区。骨破片出土。
D4	7トレ	円形	80	64	21	N-36° -E	Ta2を切る。
D5	5トレ	—	〈148〉	〈96〉	7	N-48° -W	東側調査区外。カクランに切られる。
D6	4トレ	—	〈104〉	〈136〉	17	N-44° -W	南側一部調査。
D7	7トレ	円形	215	〈116〉	34	N-44° -W	東側調査区外。Ta1を切り、カクランに切られる。馬の歯出土。
D8	7トレ	—	108	〈58〉	38	N-28° -E	南側一部調査。
D9	8トレ	—	〈172〉	〈96〉	56	N-50° -E	中央部一部調査。
D10	7トレ	円形	〈56〉	〈48〉	14	N-28° -E	北西側一部調査。
D11	7トレ	楕円形	〈76〉	80	20	N-90°	カクランに切られる。
D12	8トレ	楕円形	〈124〉	〈96〉	8	N-30° -W	南東側調査。
D13	8トレ	—	〈88〉	〈60〉	17	N-44° -E	南西側調査。P10に切られる。

野沢館跡Ⅷ 単独ピット一覧表

遺構名	出土位置	規模(cm)	平面形	覆土	備考
		長径×短径×深さ			
P1	6トレ	89×〈59〉×31	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	P2に切られる。
P2	6トレ	58×34×15	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	P1を切る。
P3	6トレ	27×24×24	円形	1.黒褐色土層(10YR3/2) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	
P4	6トレ	26×25×31	円形	1.黒褐色土層(10YR3/2) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	
P5	7トレ	35×30×12	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	Ta2を切る。鉄釘?片出土
P6	7トレ	31×27×23	不整形	黒褐色土層(10YR3/2)	Ta2を切る。
P7	8トレ	33×21×30	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P8	8トレ	29×21×6	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P9	8トレ	28×21×9	楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	
P10	8トレ	32×30×14	円形	黒褐色土層(10YR2/2)	D13を切る。
P11	8トレ	25×16×17	長方形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P12	8トレ	22×20×19	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P13	8トレ	19×16×15	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P14	8トレ	45×34×24	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	

野沢館跡Ⅷ 溝址一覧表

遺構名	検出位置	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	備考
M1	3トレ	〈208〉	373	160	西側・東側調査区外。堀底より木質小片・覆土中より牛馬の歯片出土。
M2	3トレ	〈250〉	380	40	西側・東側調査区外。水路。

第7表 野沢館跡Ⅱ 遺構一覧表

野沢館跡Ⅱ 竪穴状遺構一覧表

遺構名	検出位置	時代	形態	規模 (cm)			主軸方位	炉	柱 穴	備 考
				南北長	東西長	壁 高				
Ta1	21トレ		—	368 408	(260)	13~24	N-12° -W	—	—	西側・東側調査区外。炭化物出土。 D10・P3~6に切られる。
Ta2	13トレ		—	(216)	(227)	4~7	N-35° -W	—	主柱2 他2 土坑1	南側一部調査。 D25~27・P24・36~38・44・45・47に切られる。
Ta3	15トレ		—	152	(128)	10~14	N-29° -W	—	—	西側・東側調査区外。 M12に切られP79を切る。
Ta4	15トレ		—	1120	(106)	2~15	N-28° -W	—	壁高4 他4 土坑1	東側調査区外。 P86・カクランに切られる。礫が敷きつめられていた。

野沢館跡Ⅱ 土坑一覧表

遺構名	検出位置	平面形	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	長軸方位	備考
D1	19トレ	隅丸長方形	(168)	(131)	40	N-55° -E	西側調査区外。暗渠に切られD3を切る。
D2	19トレ	隅丸長方形	(136)	134	33	N-52° -E	東側調査区外。M6に切られ、D3・D5を切る。
D3	19トレ	円形	(153)	156	50	N-45° -E	西側調査区外。D1・M6に切られ、D6を切る。
D4	19トレ	隅丸長方形	152	(70)	34	N-24° -W	西側調査区外。M5に切られる。
D5	19トレ	円形	88	69	50	N-12° -W	D2に切られる。
D6	19トレ	円形	86	64	54	N-15° -E	東側調査区外。D3に切られる。
D7	14トレ	隅丸長方形	136	(64)	12	N-40° -W	東側調査区外。
D8	14トレ	楕円形	268	(60)	48	N-27° -W	西側調査区外。
D9	21トレ	—	(206)	(46)	84	N-55° -E	南側一部調査。カクランに切られる。
D10	21トレ	隅丸長方形	106	(50)	32	N-29° -W	東側調査区外。Ta1を切る。カヤ炭化物出土。
D11	21トレ	隅丸長方形	486	(118)	31	N-27° -W	東側調査区外。M1・M2・カクランに切られる。炭化物出土。
D12	21トレ	隅丸長方形	110	(42)	14	N-47° -W	西側調査区外。
D13	21トレ	—	(66)	(22)	19	N-38° -W	西側調査区外。M4・カクランに切られる。
D14	21トレ	楕円形	110	(36)	(21)	N-31° -W	西側調査区外。
D15	20トレ	隅丸長方形	132	88	54	N-57° -E	
D16	18トレ	—	(226)	(168)	63	N-20° -E	南側一部調査。D18・カクランに切られ、D17を切る。
D17	18トレ	—	(96)	(88)	18	N-87° -W	東側調査区外。D16に切られ、D20を切る。
D18	18トレ	隅丸長方形	(192)	(82)	54	N-52° -E	北側調査区外。D16を切る。
D19	20トレ	—	(48)	(26)	39	N-55° -E	南側・東側調査区外。カクランに切られる。
D20	18トレ	楕円形	(62)	(30)	52	N-25° -W	東側調査区外。D17に切られる。
D21	18トレ	隅丸長方形	188	(80)	15	N-48° -E	南側調査区外。P12と重複。
D22	18トレ	隅丸長方形	158	120	40	N-28° -W	
D23	18トレ	方形	(158)	(144)	51	N-36° -W	西側・北側調査区外。M7を切る。
D24	13トレ	楕円形	(162)	116	44	N-74° -E	東側調査区外。P22・29・43を切る。
D25	13トレ	楕円形	(144)	(88)	63	N-48° -E	西側・北側調査区外。Ta2・P36を切る。
D26	13トレ	隅丸方形	131	124	24	N-41° -W	P33・35に切られ、D27・P46を切る。
D27	13トレ	楕円形	108	48	18	N-53° -E	D26・P24に切られ、Ta2を切る。
D28	12トレ	隅丸長方形?	312	(172)	22	N-29° -W	東側調査区外。M9・カクランに切られる。
D29	12トレ	楕円形	(144)	(93)	12	N-32° -W	西側調査区外。M9に切られ、P55を切る。
D30	12トレ	—	(118)	(58)	12	N-33° -W	南側・東側調査区外。D32を切る。
D31	12トレ	—	(144)	(80)	31	N-68° -E	北側調査区外。カクランに切られる。
D32	12トレ	隅丸長方形	(188)	(134)	61	N-56° -E	南側調査区外。D30に切られる。
D33	14トレ	楕円形	(340)	(132)	33	N-40° -W	西側・北側調査区外。M8を切る。
D34	11トレ	—	(95)	(84)	8	N-36° -W	北側調査区外。D35・P57・58に切られ、P70を切る。
D35	11トレ	隅丸長方形	154	112	51	N-53° -E	P59に切られD34・36を切る。
D36	11トレ	—	(186)	(54)	44	N-35° -W	西側調査区外。D35・カクランに切られる。
D37	11トレ	楕円形	(78)	(36)	28	N-54° -E	カクランに切られる。
D38	11トレ	—	(132)	(111)	56	N-44° -W	西側・南側調査区外。M10を切る。
D39	11トレ	楕円形	66	(26)	20	N-37° -W	西側調査区外。M10に切られる。
D40	10トレ	—	(78)	(58)	76	N-54° -E	西側・南側調査区外。カクランに切られる。
D41	10トレ	隅丸方形?	116	(78)	34	N-30° -W	西側調査区外。カクランに切られる。木出土。
D42	15トレ	—	(98)	(62)	65	N-35° -W	北側・東側調査区外。P97を切る。

D43	20トレ	—	(84)	(54)	26	N-62° -E	北側・西側調査区外。カクランに切られる。
D44	15トレ	—	300	(128)	51	N-25° -W	東側調査区外。タメ藪。
D45	16トレ	—	(104)	(48)	29	N-27° -W	北側・東側調査区外。
D46	16トレ	—	328	(108)	30	N-38° -W	東側調査区外。P94とカクランに切られる。
D47	17トレ	隅丸長方形	139	(92)	19	N-29° -W	西側・東側調査区外。P89・93を切る。
D48	17トレ	円形	(78)	(68)	2m40cm以上	N-57° -E	南側・東側調査区外。井戸。
D49	17トレ	—	(99)	(58)	11	N-41° -W	南側・西側調査区外。D48・P90に切られる。

野沢館跡IX単独ピット一覧表

遺構名	出土位置	規模(cm)		平面形	覆土	備考
		長径×短径×深さ				
P1	14トレ	52×42×19		楕円形	灰黄褐色土層(10YR4/2)	
P2	14トレ	40×33×39		楕円形	灰黄褐色土層(10YR4/2)	
P3	21トレ	29×21×22		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	Ta1を切る。
P4	21トレ	23×20×27		方形	黒褐色土層 (10YR2/3)	Ta1を切る。
P5	21トレ	32×20×16		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	Ta1を切る。
P6	21トレ	28×22×20		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	Ta1を切る。
P7	21トレ	50×29×36		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/2)	
P8	20トレ	24×23×8		円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P9	18トレ	33×26×14		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P10	18トレ	36× (23) ×16		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	東側調査区外。
P11	18トレ	30×24×26		長方形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P12	18トレ	36× (14) ×18		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	D21と重複。
P13	18トレ	31×26×25		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P14	18トレ	31×28×8		円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P15	13トレ	21×20×25		方形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P16	13トレ	20×15×16		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P17	13トレ	60×43×7		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P41を切る。
P18	13トレ	46×40×46		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P19	13トレ	26×24×18		円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	P20を切る。
P20	13トレ	24×23×37		円形	黒褐色土層 (10YR3/2)	P19に切られる。
P21	13トレ	53×51×54		円形	1.柱痕 2.黒褐色土層 (10YR2/3)	P32を切る。
P22	13トレ	70×40×33		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	D24に切られる。
P23	13トレ	107×87×16		楕円形	—	礎石の跡。
P24	13トレ	40×26×37		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	D27を切る。
P25	13トレ	28×23×18		長方形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P26	13トレ	36×35×32		円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P27	13トレ	58×50×47		楕円形	礫主体	
P28	13トレ	68×60×18		楕円形	礫主体	P33を切る。
P29	13トレ	21× (11) ×17		—	黒褐色土層 (10YR2/3)	D24に切られる。
P30	13トレ	39×33×49		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P31に切られる。
P31	13トレ	27×27×41		円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P30を切る。
P32	13トレ	28×16×33		—	黒褐色土層 (10YR2/3)	P21に切られる。
P33	13トレ	49×32×44		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	D26を切り、P28に切られる。
P34	13トレ	38×28×26		楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3)柱痕 2.黒褐色土層 (10YR2/3)	
P35	13トレ	39×32×29		楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3)柱痕 2.黒褐色土層 (10YR2/3)	D26を切る。
P36	13トレ	46× (34) ×17		—	黒褐色土層 (10YR2/3)	D25に切られTa2を切る。
P37	13トレ	25×24×17		方形	黒褐色土層 (10YR2/3)	Ta2を切る。
P38	13トレ	37×28×10		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	Ta2を切る。
P39	13トレ	44×36×41		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P46を切る。
P40	13トレ	26×25×23		円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	P41を切る。
P41	13トレ	18× (12) ×15		—	黒褐色土層 (10YR2/3)	P17・P40に切られる。
P42	13トレ	24×18×15		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	
P43	13トレ	38× (24) ×30		楕円形	黒褐色土層 (10YR2/3)	D24に切られる。

P44	13トレ	19×(15)×19	—	黒褐色土層(10YR2/3)	東側調査区外。Ta2を切る。
P45	13トレ	30×28×29	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	Ta2を切る。
P46	13トレ	50×(35)×56	—	黒褐色土層(10YR2/3)	D26・P39に切られる。
P47	13トレ	40×38×21	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	Ta2を切る。
P48	12トレ	24×20×19	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	P49を切る。
P49	12トレ	27×22×16	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	P48に切られる。
P50	12トレ	20×14×13	長方形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P51	12トレ	28×22×14	長方形	黒褐色土層(10YR3/2)	P52を切る。
P52	12トレ	37×36×13	方形	黒褐色土層(10YR3/2)	P51に切られる。
P53	12トレ	26×22×18	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P54を切る。
P54	12トレ	29×22×10	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P53に切られる。
P55	12トレ	(56)×(30)×10	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	西側調査区外。D29・M9に切られる。
P56	11トレ	44×(14)×18	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	西側調査区外。
P57	11トレ	36×34×54	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	D34・35を切る。
P58	11トレ	(42)×(32)×53	—	黒褐色土層(10YR2/3)	北側調査区外。D34を切る。
P59	11トレ	37×31×28	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	M10に切られる。
P60	11トレ	34×28×50	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P61	11トレ	22×20×14	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P62	11トレ	42×31×28	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	D37を切る。
P63	11トレ	22×20×7	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P64	11トレ	48×32×22	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P65	11トレ	(44)×(23)×8	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	西側・南側調査区外。
P66	11トレ	23×21×12	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P67	11トレ	22×21×9	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P68	11トレ	25×23×28	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P69	11トレ	81×(30)×28	—	黒褐色土層(10YR2/3)	西側調査区外。
P70	11トレ	32×23×15	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	D34に切られる。
P71	15トレ	(49)×44×31	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	東側調査区外。
P72	15トレ	46×30×23	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P73	15トレ	23×20×29	方形	1.柱痕 2.黒褐色土層(10YR3/2)	
P74	15トレ	30×(25)×19	—	黒褐色土層(10YR3/2)	東側調査区外。
P75	15トレ	33×26×17	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P76	15トレ	(63)×62×24	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	西側調査区外。
P77	15トレ	33×29×43	楕円形	1.黒褐色土層(10YR2/3)柱痕 2.黒褐色土層(10YR2/3)	
P78	15トレ	26×24×19	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P79	15トレ	68×30×18	—	黒褐色土層(10YR3/2)	東側調査区外。Ta3・M12に切られる。
P80	15トレ	30×22×24	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P81	15トレ	52×48×22	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	西側調査区外。
P82	15トレ	33×(28)×18	—	黒褐色土層(10YR3/2)	西側調査区外。
P83	15トレ	28×23×32	長方形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P84	15トレ	23×19×38	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P85	15トレ	48×38×8	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P86	欠				
P87	15トレ	35×28×8	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P88	15トレ	34×(15)×11	—	黒褐色土層(10YR2/3)	東側調査区外。
P89	17トレ	47×(34)×52	—	黒褐色土層(10YR2/3)	西側調査区外。D47に切られる。
P90	17トレ	32×32×60	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	D49を切る。
P91	17トレ	(62)×54×19	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	東側調査区外。P92を切り、P98と重複。
P92	17トレ	(34)×26×33	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	P91に切られる。
P93	17トレ	(28)×26×17	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	D47に切られる。
P94	16トレ	(31)×(31)×32	円形	黒褐色土層(10YR3/2)	D46に切られる。
P95	16トレ	17×14×26	長方形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P96	16トレ	16×14×26	長方形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P97	15トレ	38×(36)×38	—	黒褐色土層(10YR2/3)	D42に切られる。
P98	17トレ	24×21×21	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P91と重複。

野沢館跡Ⅹ 竪穴状遺構一覧表

遺構名	検出位置	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	備考
M1	21トレ	〈176〉	40~96	20~35	西側・東側調査区外。D11・M2を切る。
M2	21トレ	〈176〉	〈48〉~〈52〉	24~29	西側・東側調査区外。M1に切られD11・P7を切る。
M3	21トレ	〈240〉	76~92	21~36	西側・東側調査区外。Ta1を切る。
M4	21トレ	〈202〉	96~102	20~41	西側・東側調査区外。D13を切る。
M5	19トレ	〈166〉	92~102	16~20	西側・東側調査区外。D4・M6を切る。
M6	19トレ	〈284〉	54~74	5~11	西側調査区外。M5に切られ、D2・D3を切る。
M7	18トレ	〈98〉	60~68	14~17	東側調査区外。D23に切られる。鉄釘片出土。
M8	14トレ	〈124〉	60~66	15~20	東側調査区外。D33に切られる。
M9	12トレ	〈216〉	82~92	14~17	西側・東側調査区外。D28・D29・P55を切る。
M10	11トレ	〈260〉	65~78	7~14	西側・東側調査区外。D39・P59を切る。D38に切られる。
M11	10トレ	〈76〉	71~72	31~32	西側調査区外。カクランに切られる。
M12	15トレ	〈179〉	68~82	10~22	西側・東側調査区外。Ta3・P79・P80を切る。

第8表 野沢館跡Ⅹ 遺構一覧表
野沢館跡Ⅹ土坑一覧表

遺構名	検出位置	平面形	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	長軸方位	備考
D1	27トレ	—	200	〈80〉	25	N-21° -W	東側調査区外。P1に切られる。
D2	27トレ	—	〈206〉	〈50〉	28	N-18° -W	西側・南側調査区外。P13を切る。
D3	25トレ	—	174	〈77〉	42	N-34° -W	東側調査区外。D4、P65に切られ、P37と重複。底面より炭化物・骨出土。
D4	25トレ	隅丸長方形	342	124	34	N-29° -W	東側調査区外。P65に切られ、D3を切る。700gの鉄滓出土。
D5	26トレ	—	218	〈92〉	58	N-33° -W	M2に切られ、P21を切る。
D6	22トレ	—	79	〈54〉	18	N-31° -W	東側調査区外。
D7	24トレ	—	90	〈28〉	23	N-42° -W	東側調査区外。
D8	24トレ	円形	118	104	39	N-83° -W	
D9	24トレ	—	〈99〉	〈36〉	50	N-44° -W	西側・北側調査区外。P65を切る。
D10	24トレ	—	392	〈200〉	29	N-12° -W	西側・東側調査区外。P42~47・51~53・55~58に切られる。
D11	23トレ	—	〈150〉	〈74〉	46	N-53° -E	西側・北側調査区外。M4に切られる。

野沢館跡Ⅹ 単独ピット一覧表

遺構名	出土位置	規模(cm)	平面形	覆土	備考
		長径×短径×深さ			
P1	27トレ	40×25×29	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	D1を切る。
P2	27トレ	58×29×13	—	黒褐色土層(10YR3/2)	西側調査区外。
P3	27トレ	33×〈29〉×42	—	黒褐色土層(10YR3/2)	西側調査区外。
P4	27トレ	36×〈29〉×13	—	暗褐色土層(10YR3/3)	西側調査区外。
P5	27トレ	29×29×17	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P6	25トレ	27×22×17	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P7	25トレ	22×15×15	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P8	25トレ	27×25×21	円形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P9	25トレ	58×39×20	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	西側調査区外。
P10	25トレ	42×32×13	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	カクランに切られる。
P11	25トレ	23×16×6	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	M1に切られる。
P12	27トレ	〈76〉×44×40	不整形	1.黒褐色土層(10YR3/2) 2.10YR3/2と10YR4/4混在	東側調査区外。
P13	27トレ	27×〈13〉×14	—	黒褐色土層(10YR3/2)	西側調査区外。D2に切られる。
P14	27トレ	18×13×13	楕円形	—	
P15	26トレ	40×33×46	楕円形	1・2.黒褐色土層(10YR3/2) 3.暗褐色土層(10YR3/3)	カクランに切られる。 鉄滓出土。
P16	26トレ	23×〈15〉×25	—	1・2.黒褐色土層(10YR3/2) 3.暗褐色土層(10YR3/3)	西側調査区外。 カクランに切られる。
P17	26トレ	〈24〉×22×15	—		西側調査区外。カクラン切られる。
P18	26トレ	48×37×32	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	カクランに切られる。

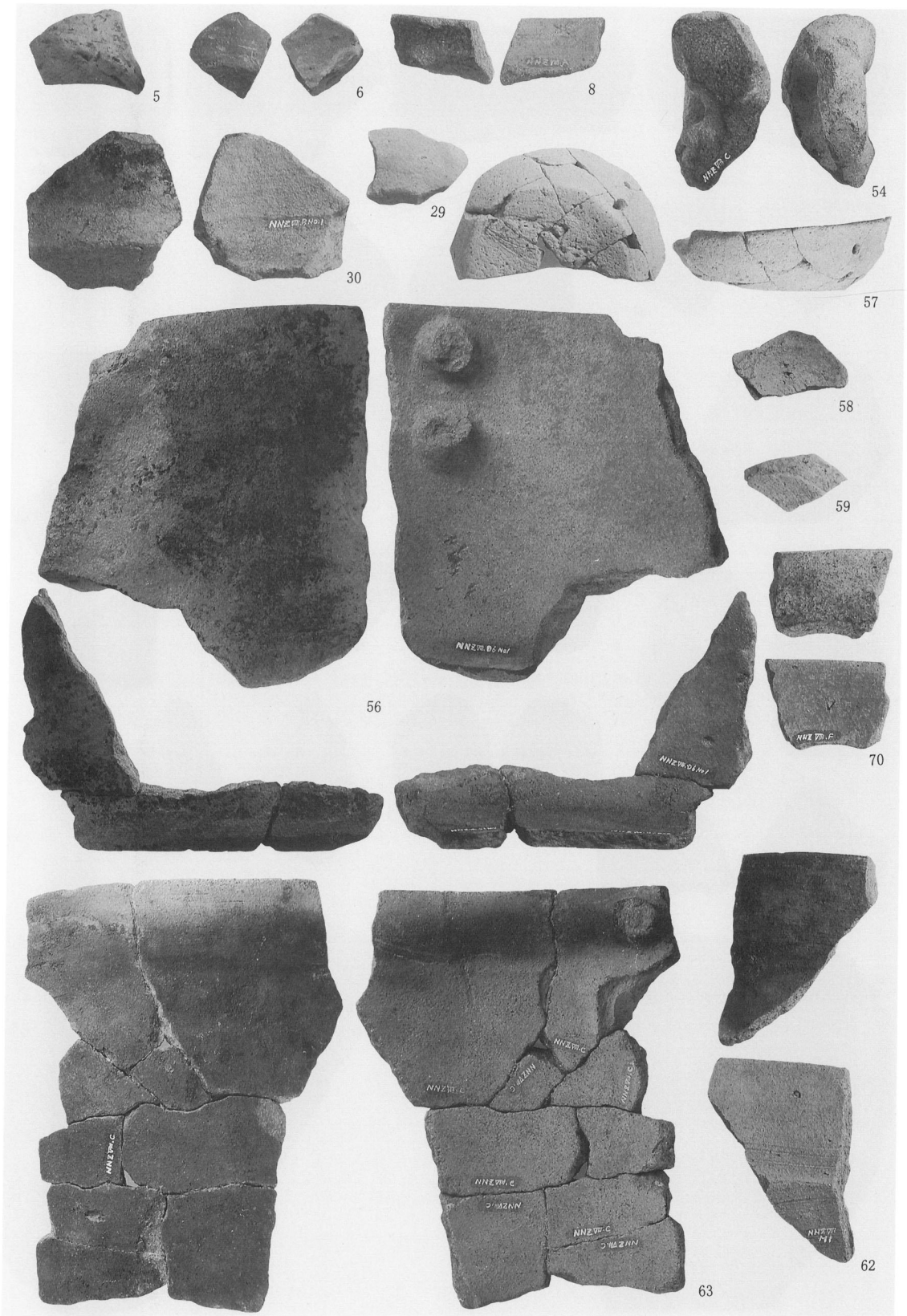
P19	26トレ	48×29×46	楕円形	1.黒褐色土層(10YR3/2) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	
P20	26トレ	36×32×35	楕円形	1.黒褐色土層(10YR3/2) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	
P21	26トレ	〈46〉×40×32	－	黒褐色土層(10YR3/2)	西側調査区外。
P22	26トレ	〈32〉×26×37	－	暗褐色土層(10YR3/3)	D5に切られる。
P23	26トレ	〈40〉×29×49	－	黒褐色土層(10YR3/2)	南側調査区外。
P24	26トレ	40×32×49	楕円形	1.黒褐色土層(10YR3/2) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	
P25	26トレ	39×29×25	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P26	26トレ	〈34〉×〈17〉×33	－	黒褐色土層(10YR3/2)	カクランに切られる。
P27	25トレ	32×27×30	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	カクランに切られ、P33を切る。
P28	22トレ	〈77〉×32×23	楕円形	暗褐色土層(10YR3/4)	東側調査区外。
P29	22トレ	45×33×26	楕円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P30	22トレ	31×〈21〉×8	－	黒褐色土層(10YR3/2)	西側調査区外。
P31	22トレ	47×〈34〉×26	－	黒褐色土層(10YR3/2)	西側調査区外。
P32	22トレ	53×46×21	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P33	25トレ	〈40〉×41×39	－	黒褐色土層(10YR3/2)	P27、カクランに切られる。
P34	25トレ	38×34×22	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	P41を切る。
P35	25トレ	32×19×17	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P36	25トレ	16×15×27	円形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P37	25トレ	21×〈14〉×21	－	黒褐色土層(10YR2/3)	D3と重複。
P38	24トレ	34×33×21	円形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P39	24トレ	28×27×7	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P40	24トレ	50×41×19	楕円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P41	25トレ	〈36〉×28×24	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	P34に切られる。
P42	24トレ	33×31×32	円形	黒褐色土層(10YR3/2)	D10、P43を切る。
P43	24トレ	27×〈20〉×10	円形	黒褐色土層(10YR3/2)	P42に切られ、D10を切る。
P44	24トレ	35×26×17	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	D10を切る。
P45	24トレ	39×34×12	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	D10を切る。
P46	24トレ	57×34×11	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	D10を切る。
P47	24トレ	45×30×16	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	D10を切る。
P48	24トレ	50×39×33	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P49	24トレ	35×〈22〉×26	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	西側調査区外。
P50	24トレ	36×〈21〉×27	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	西側調査区外。
P51	24トレ	38×29×13	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	D10を切る。
P52	24トレ	28×26×11	円形	黒褐色土層(10YR3/2)	D10を切る。
P53	24トレ	38×31×19	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	D10を切る。
P54	24トレ	90×73×39	楕円形	1.黒褐色土層(10YR3/2) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	
P55	24トレ	36×31×21	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	D10を切る。
P56	24トレ	〈65〉×56×42	－	黒褐色土層(10YR3/2)	D10・P57を切る。
P57	24トレ	61×52×37	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	P56に切られ、D10を切る。
P58	24トレ	48×38×13	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	D10を切る。
P59	24トレ	51×51×33	円形	黒褐色土層(10YR3/2)	
P60	24トレ	42×〈38〉×33	円形	黒褐色土層(10YR3/2)	東側調査区外。
P61	23トレ	〈58〉×41×49	楕円形	黒褐色土層(10YR3/2)	西側調査区外。M4に切られる。
P62	24トレ	52×〈37〉×39	－	黒褐色土層(10YR3/2)	D9に切られる。
P63	24トレ	〈106〉×76×22	－	暗褐色土層(10YR3/3)	
P64	24トレ	40×〈31〉×23	－	黒褐色土層(10YR2/3)	東側調査区外。
P65	25トレ	34×32×17	円形	－	D3・D4切る。

野沢館跡X溝址一覧表

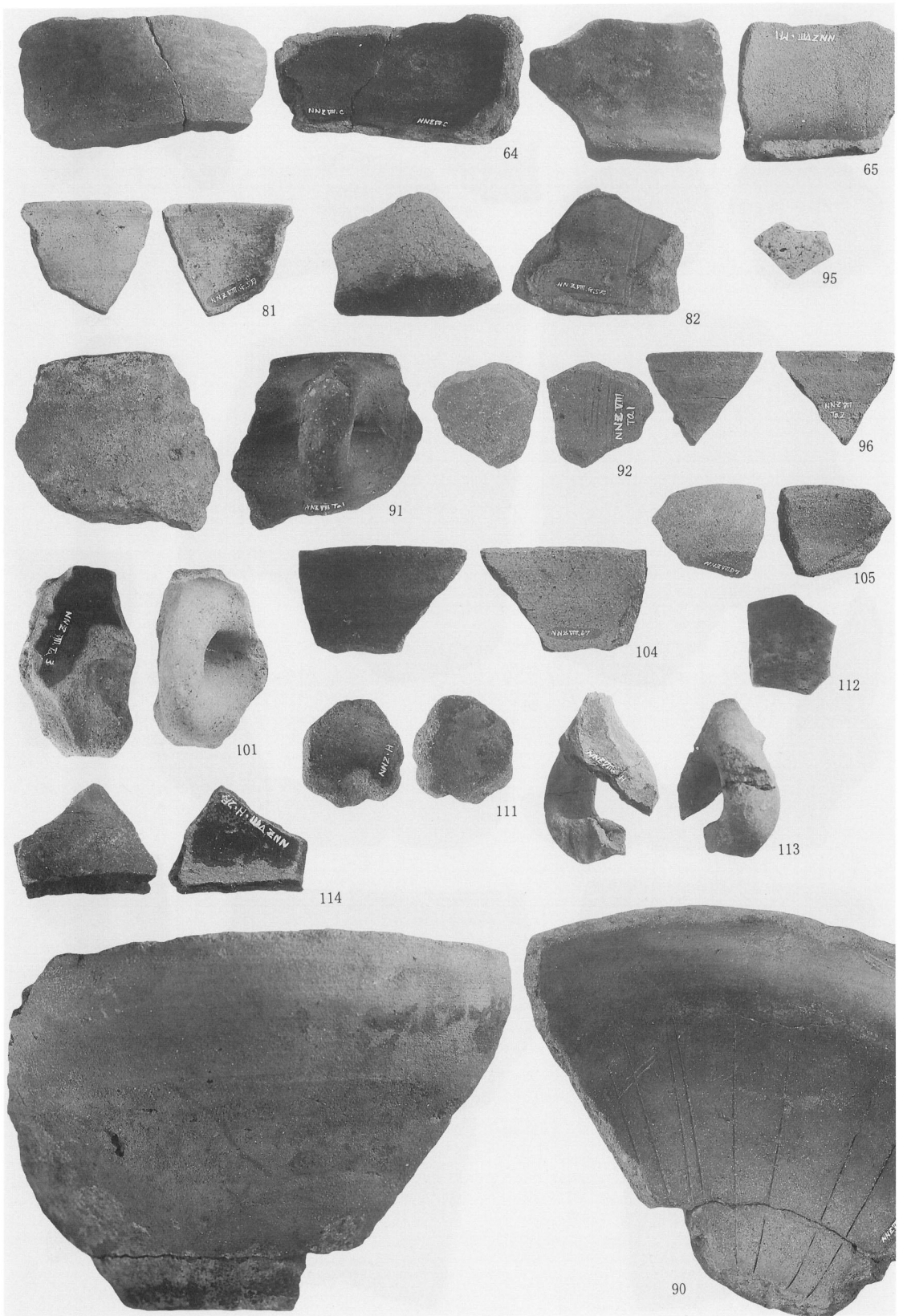
遺構名	検出位置	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	備考
M1	25トレ	〈184〉	42～56	4～14	西側・東側調査区外。P11を切る。
M2	26トレ	〈144〉	106	24～26	西側・東側調査区外。D5を切る。
M3	24トレ	〈176〉	70～76	3～10	西側・東側調査区外。
M4	23トレ	〈144〉	〈88〉	14～27	西側調査区外。カクランに切られ、D11・P61を切る。

野沢館跡X溝址一覧表

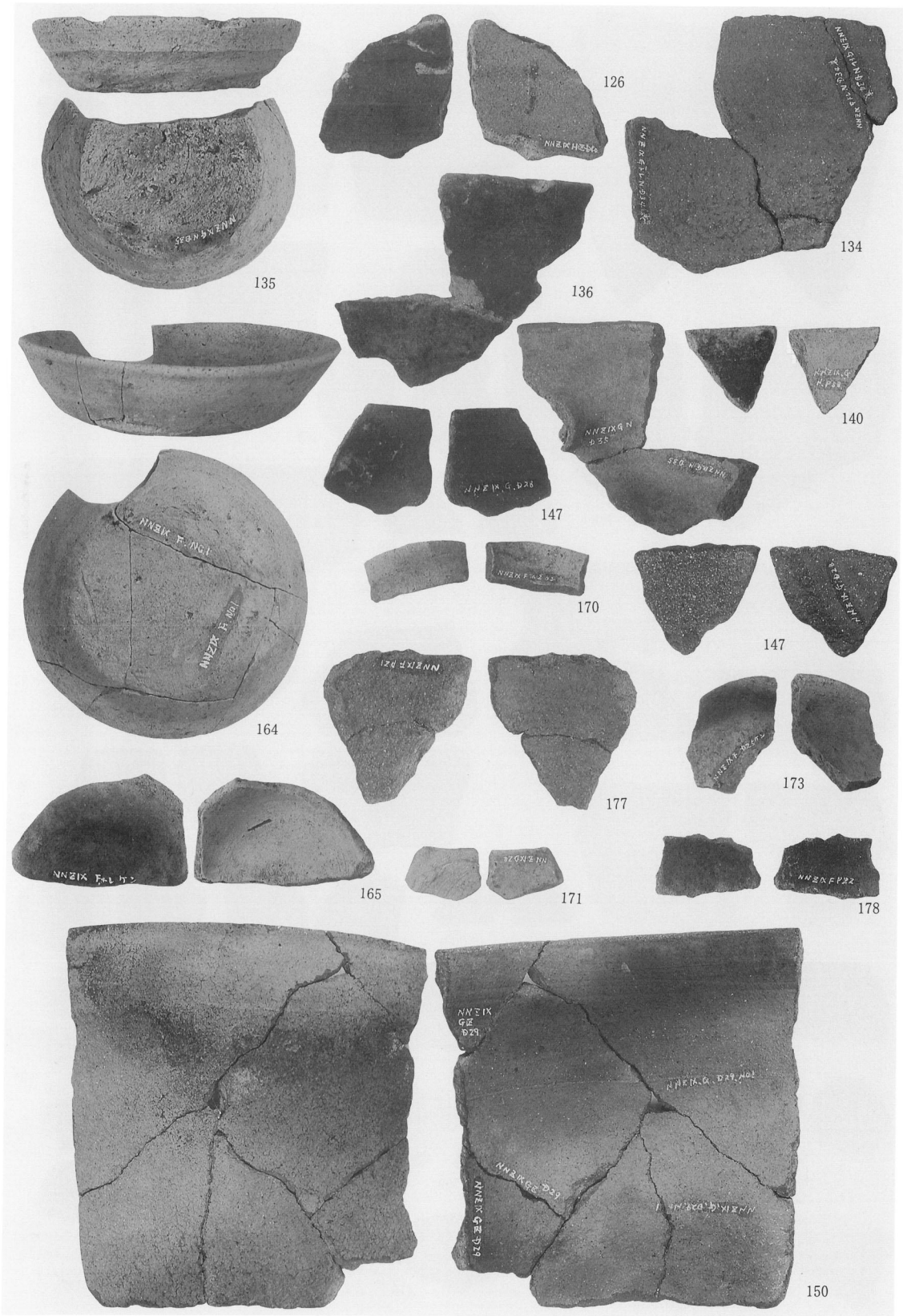
遺構名	検出位置	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	備考
M1	25トレ	〈184〉	42~56	4~14	西側・東側調査区外。P11を切る。
M2	26トレ	〈144〉	106	24~26	西側・東側調査区外。D5を切る。
M3	24トレ	〈176〉	70~76	3~10	西側・東側調査区外。
M4	23トレ	〈144〉	〈88〉	14~27	西側調査区外。カクランに切られ、D11・P61を切る。



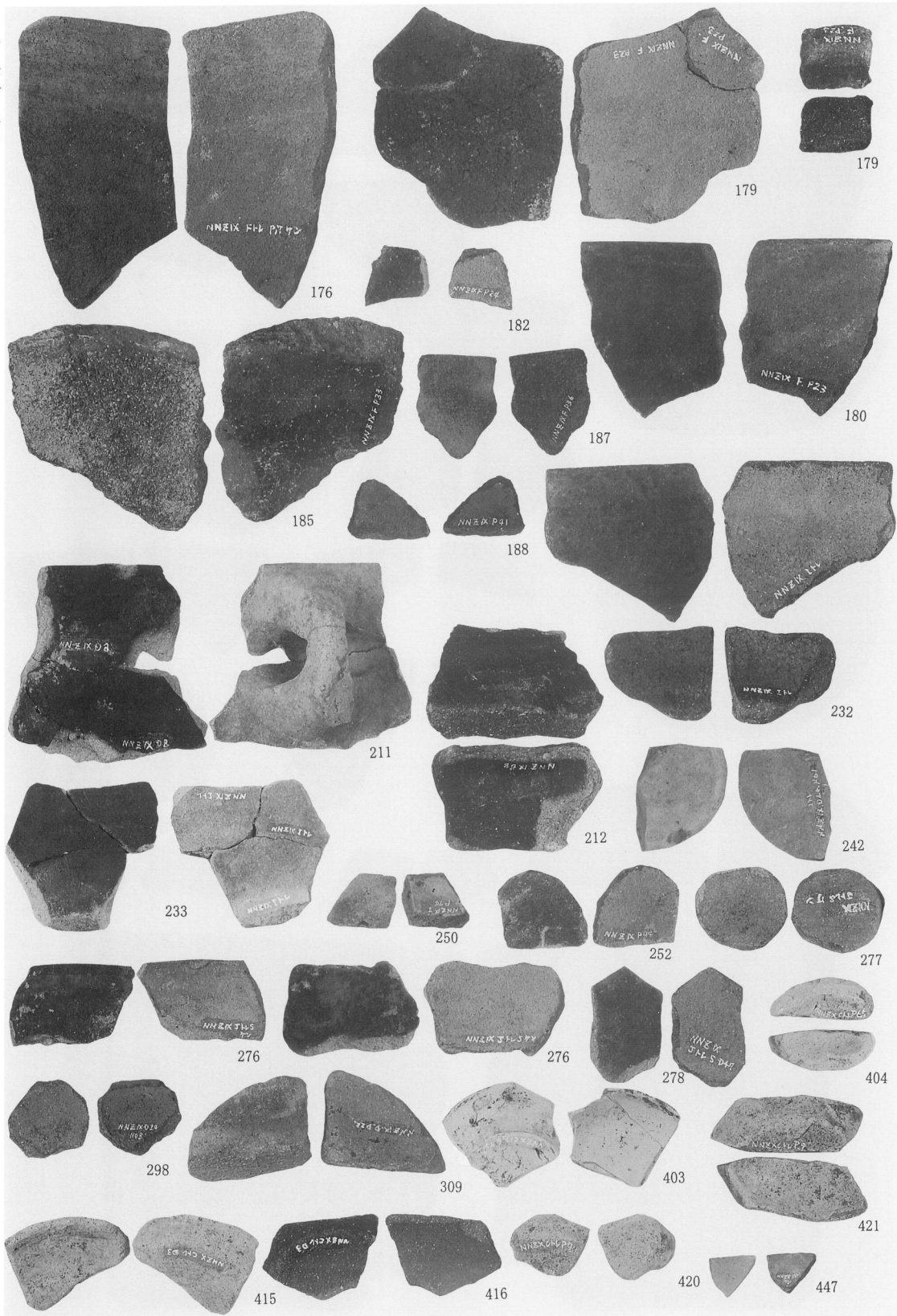
からわけ・内耳 (1)



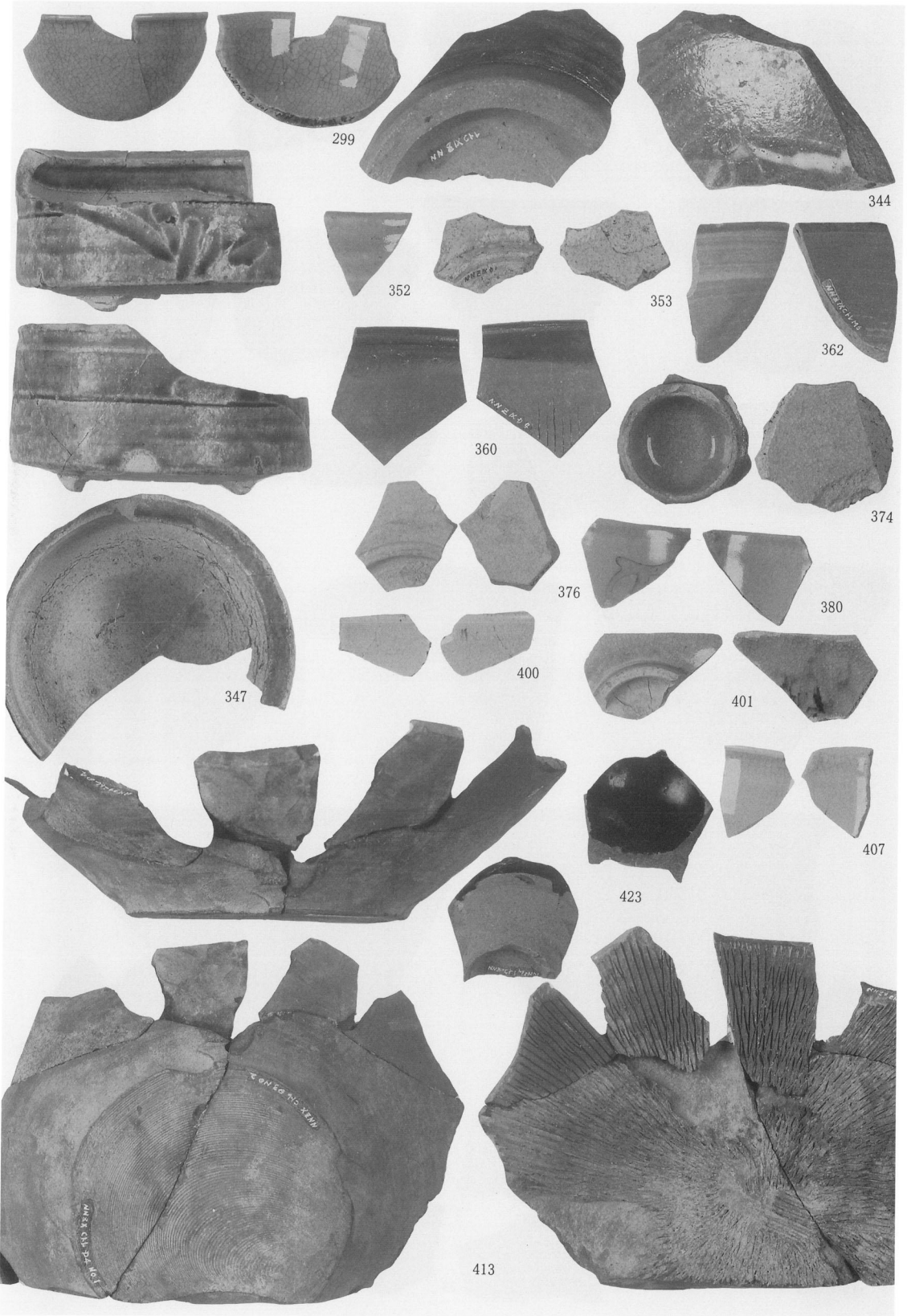
からわけ・内耳・播鉢（2）



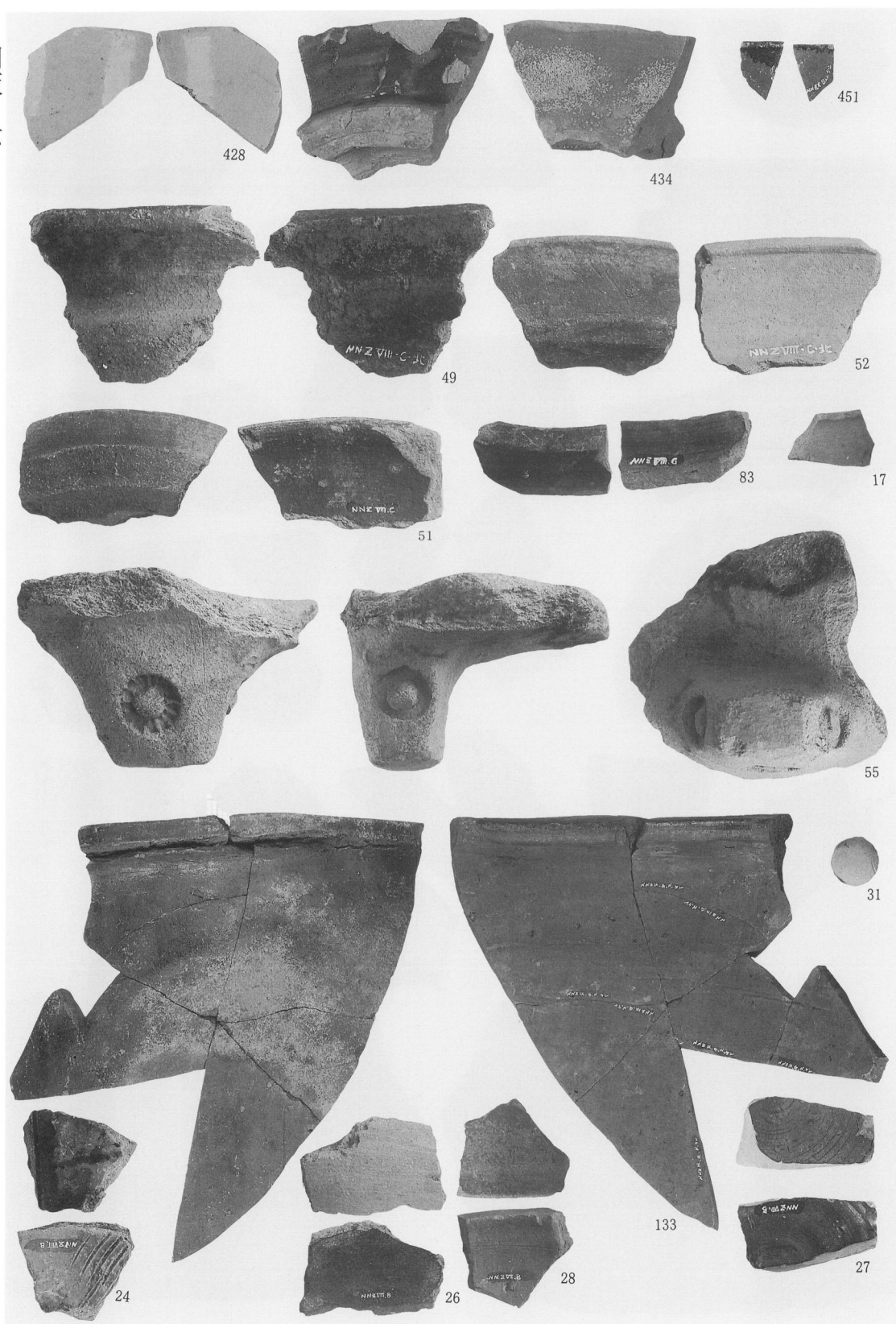
からわけ・内耳 (3)



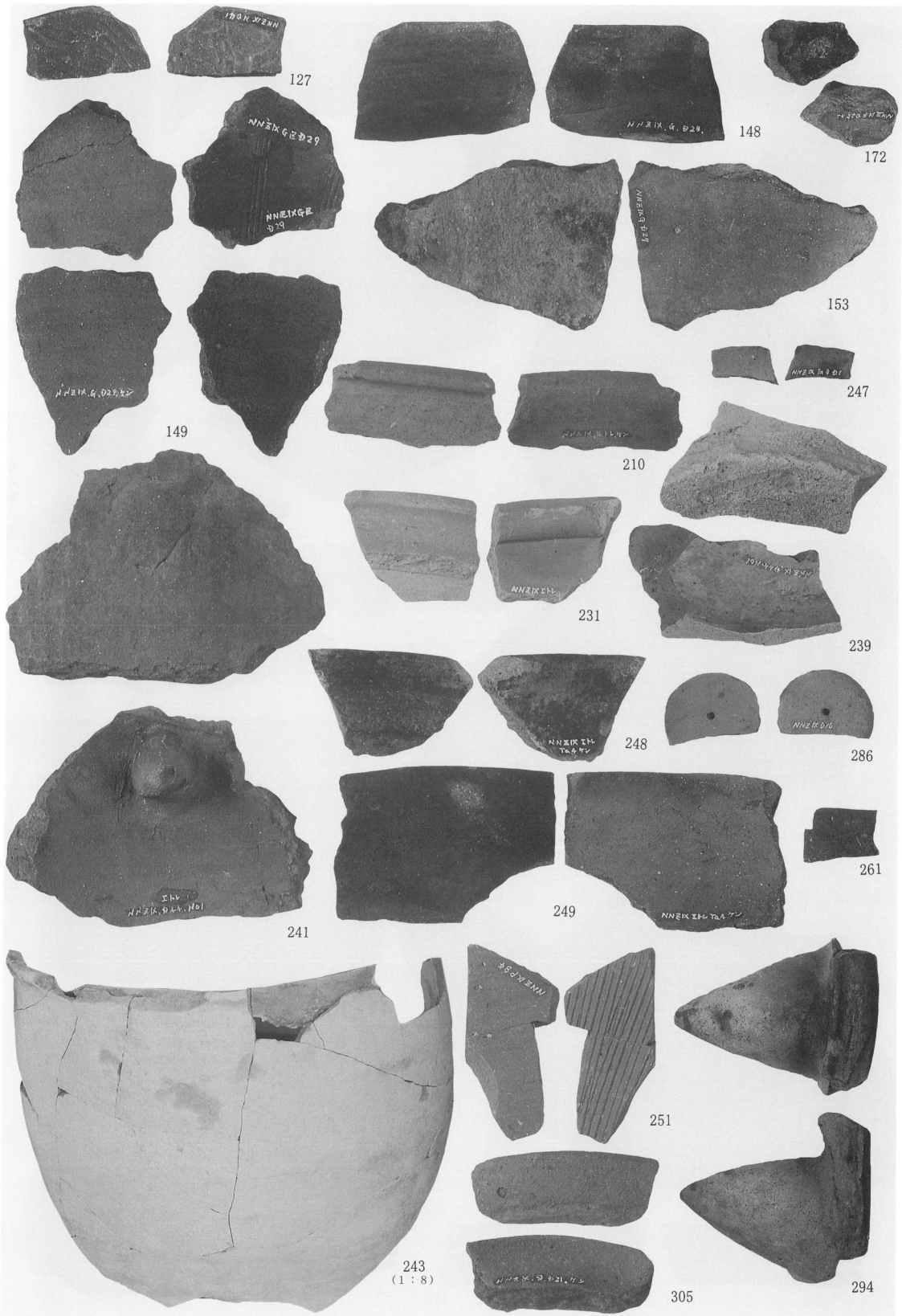
からわけ・内耳 (4)



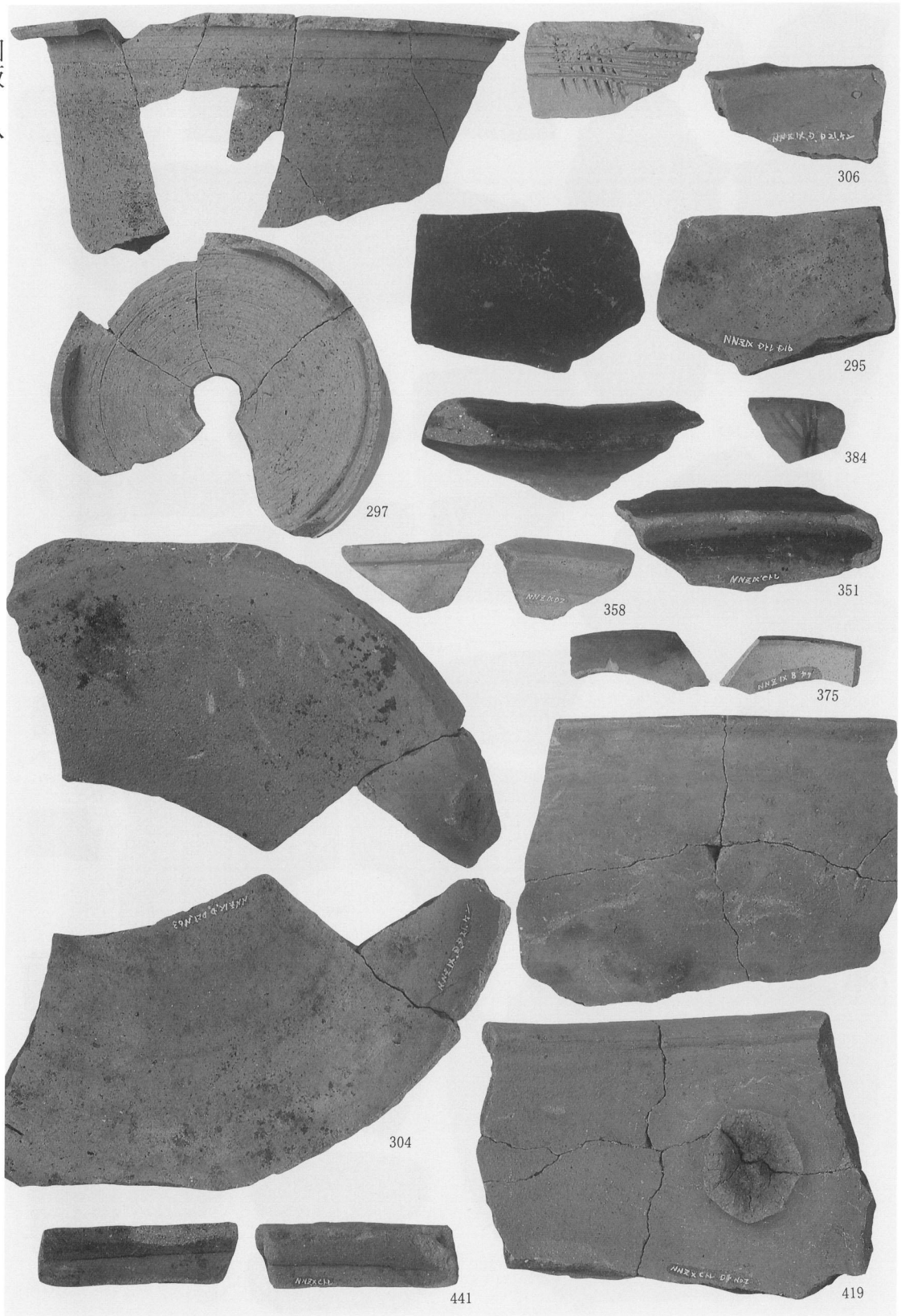
近世陶器 瀬戸・美濃・唐津 (3)



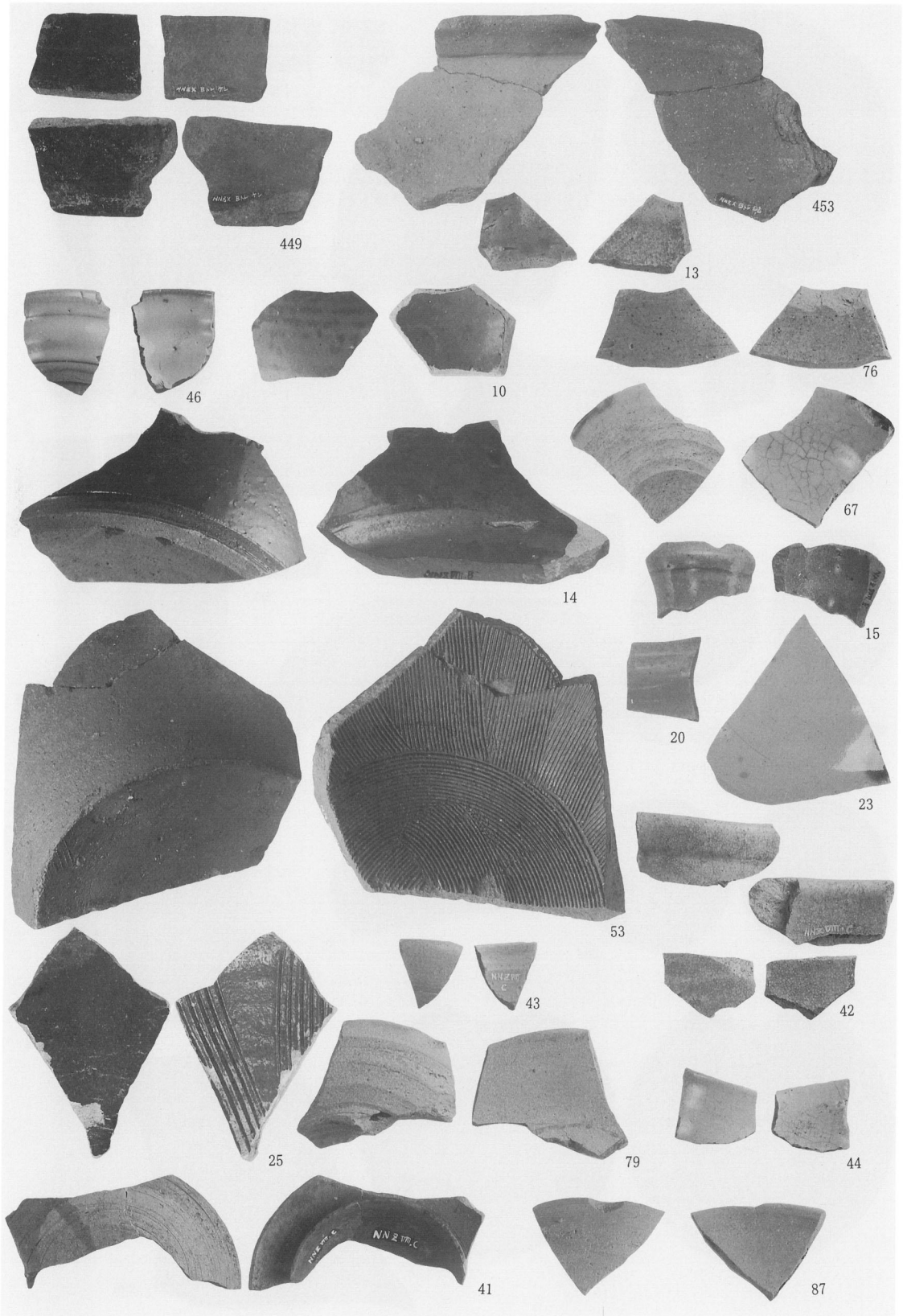
近世陶器 瀬戸・美濃 (4) ; 近世土器 火鉢・甕・焙烙 (1)



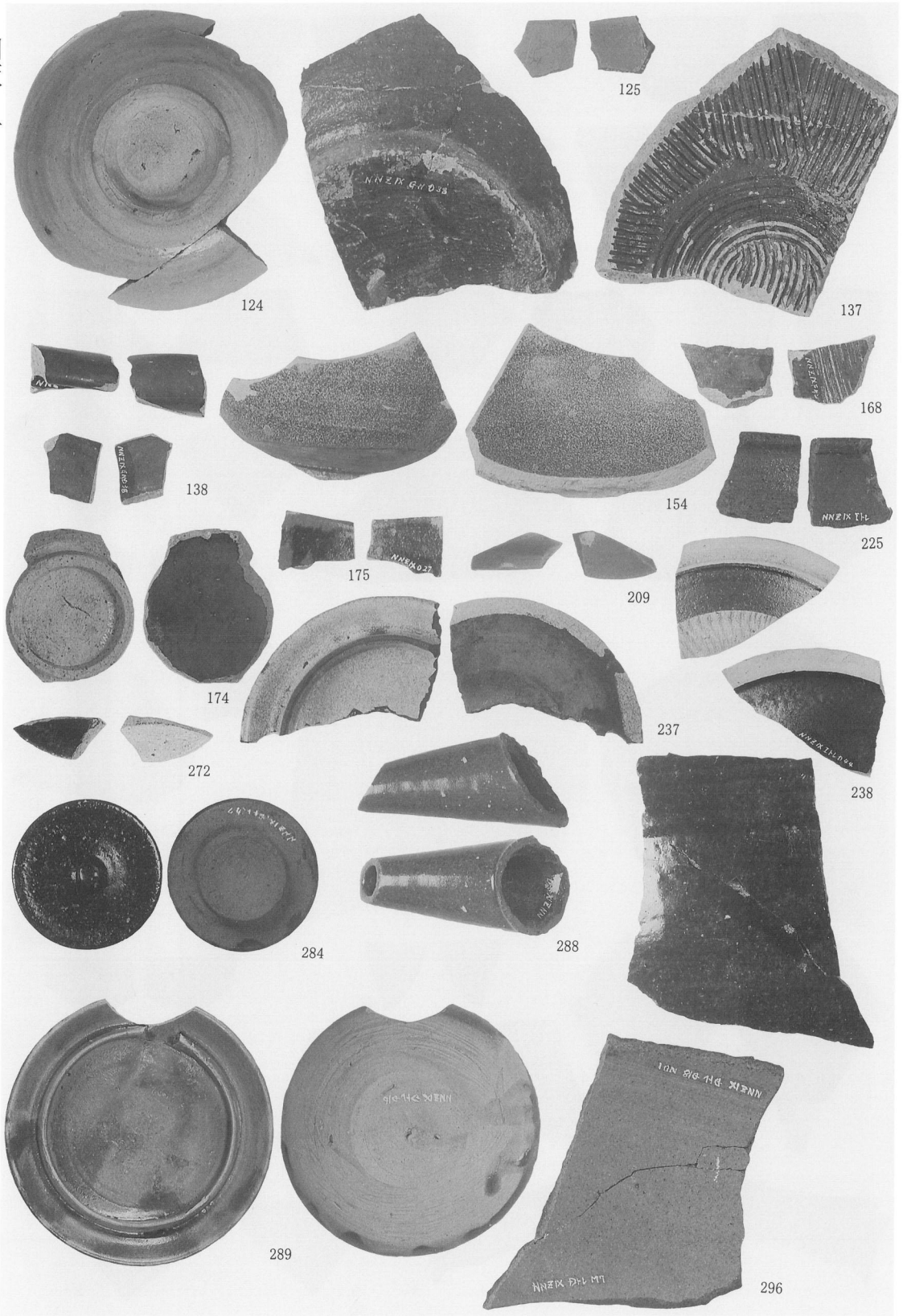
近世土器 火鉢・焙烙・甕・挿鉢・かわらけ (2)



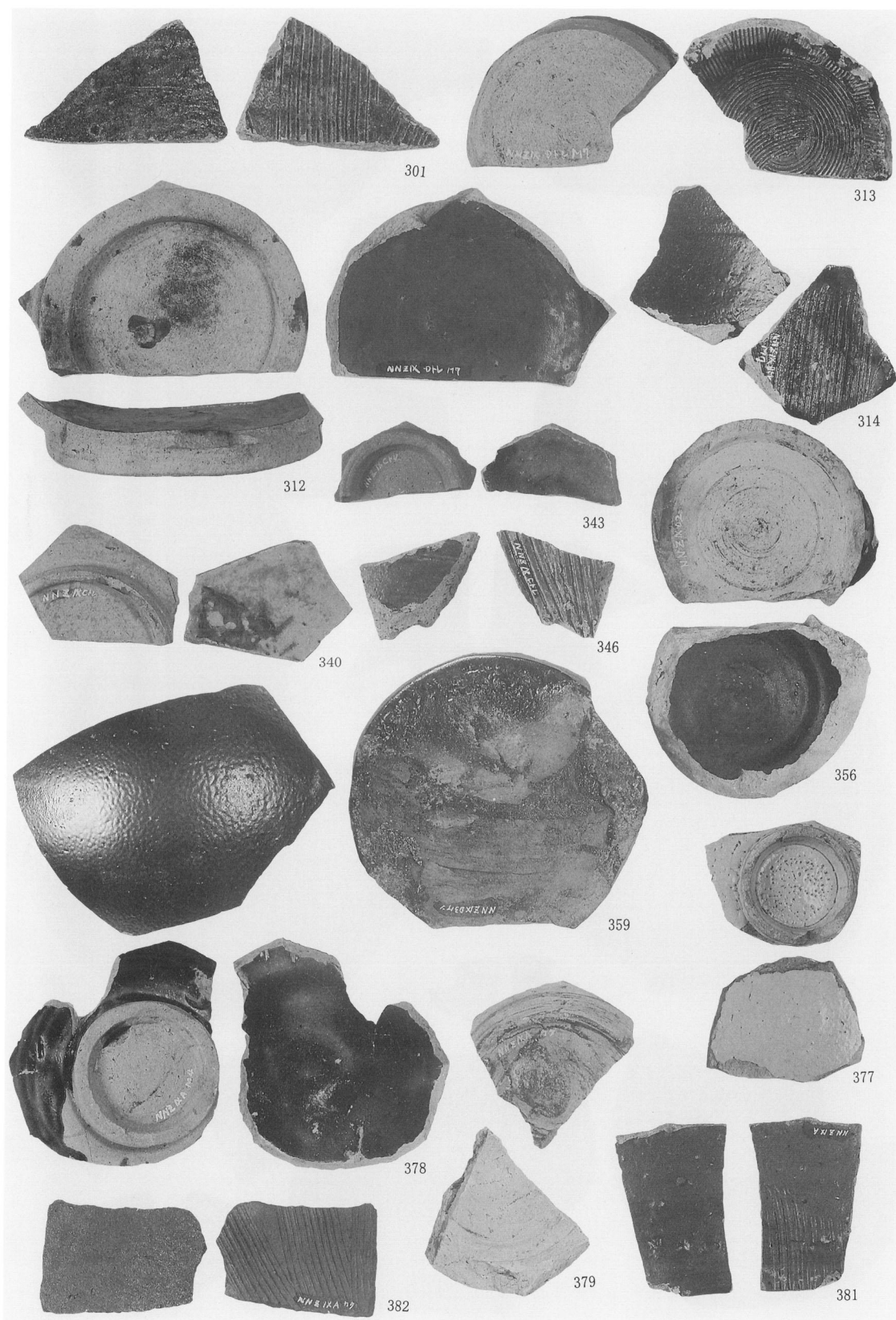
近世土器 火鉢・甕・鉢・からわけ (3)



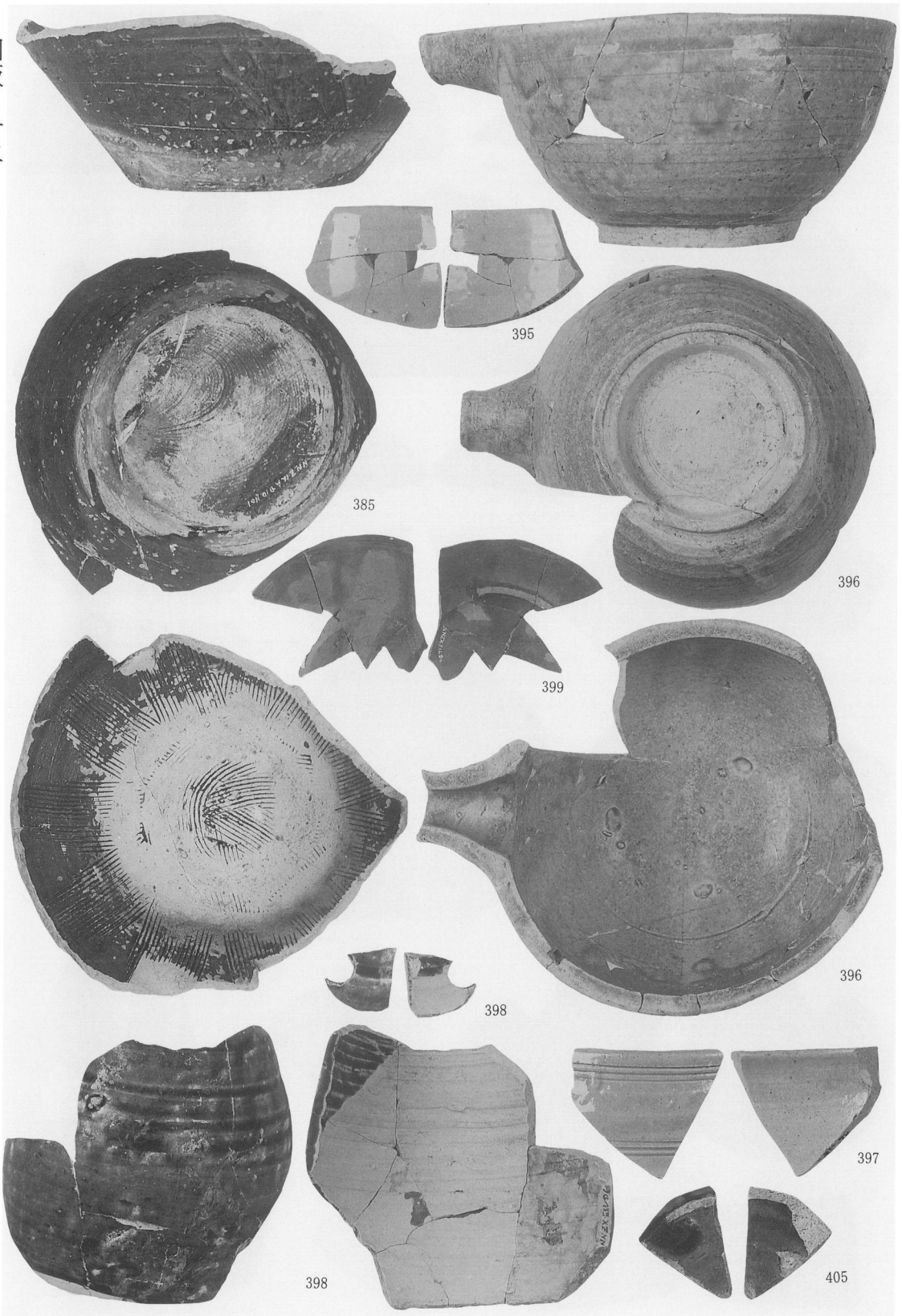
近世土器 火鉢・焙烙・甕 (4)、近世陶器 前山 (1)



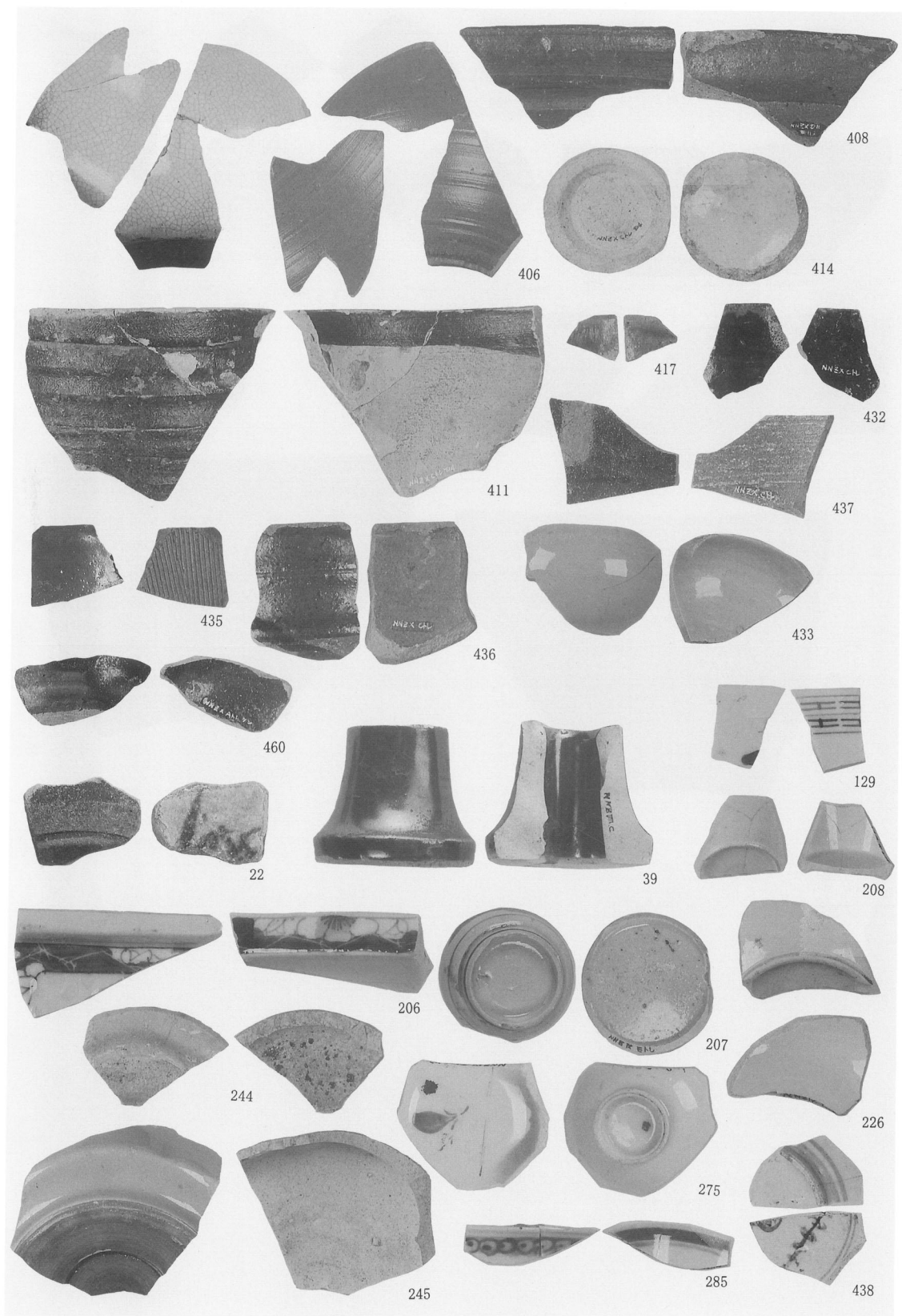
近世陶器 前山(2)



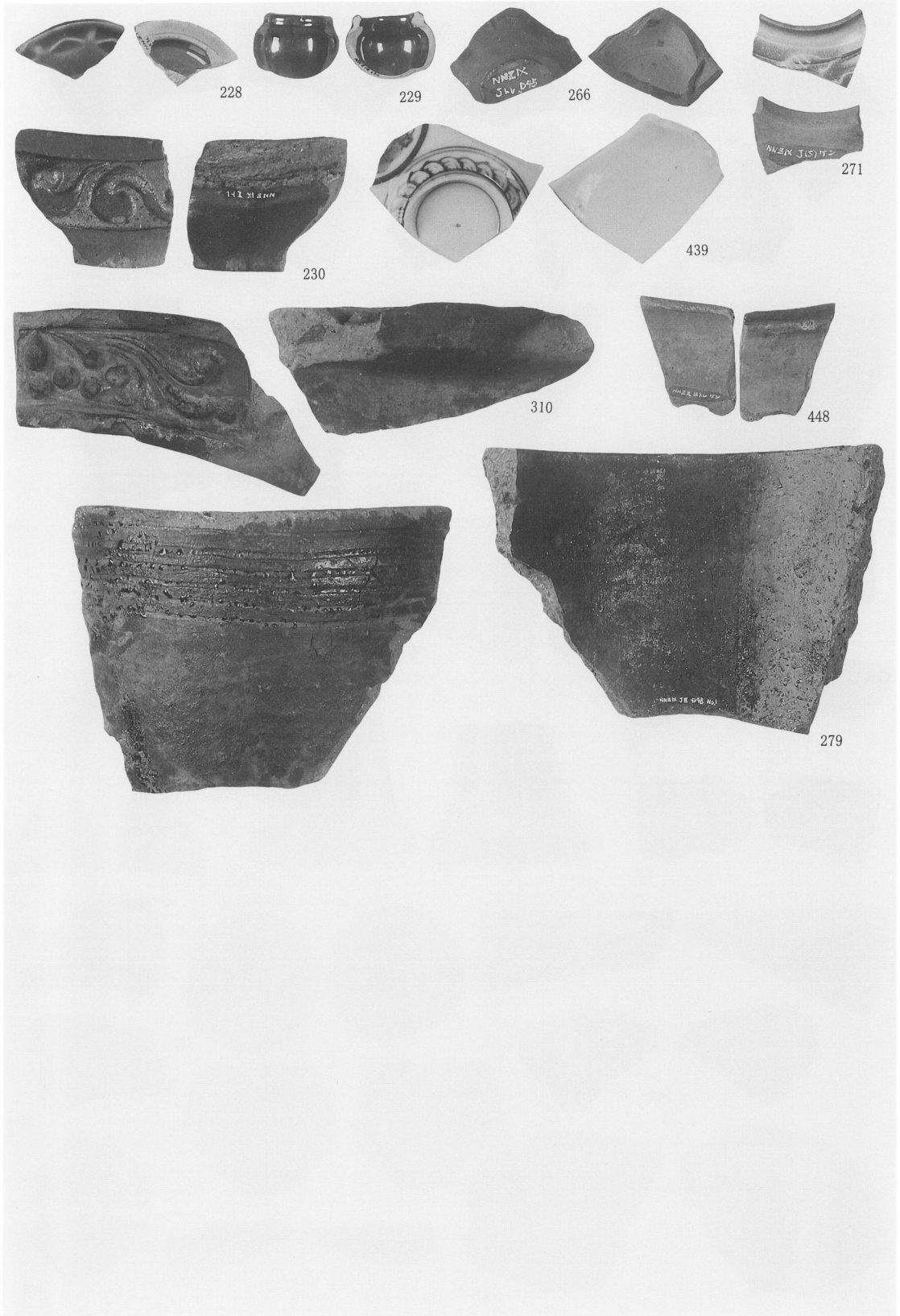
近世陶器 前山 (3)

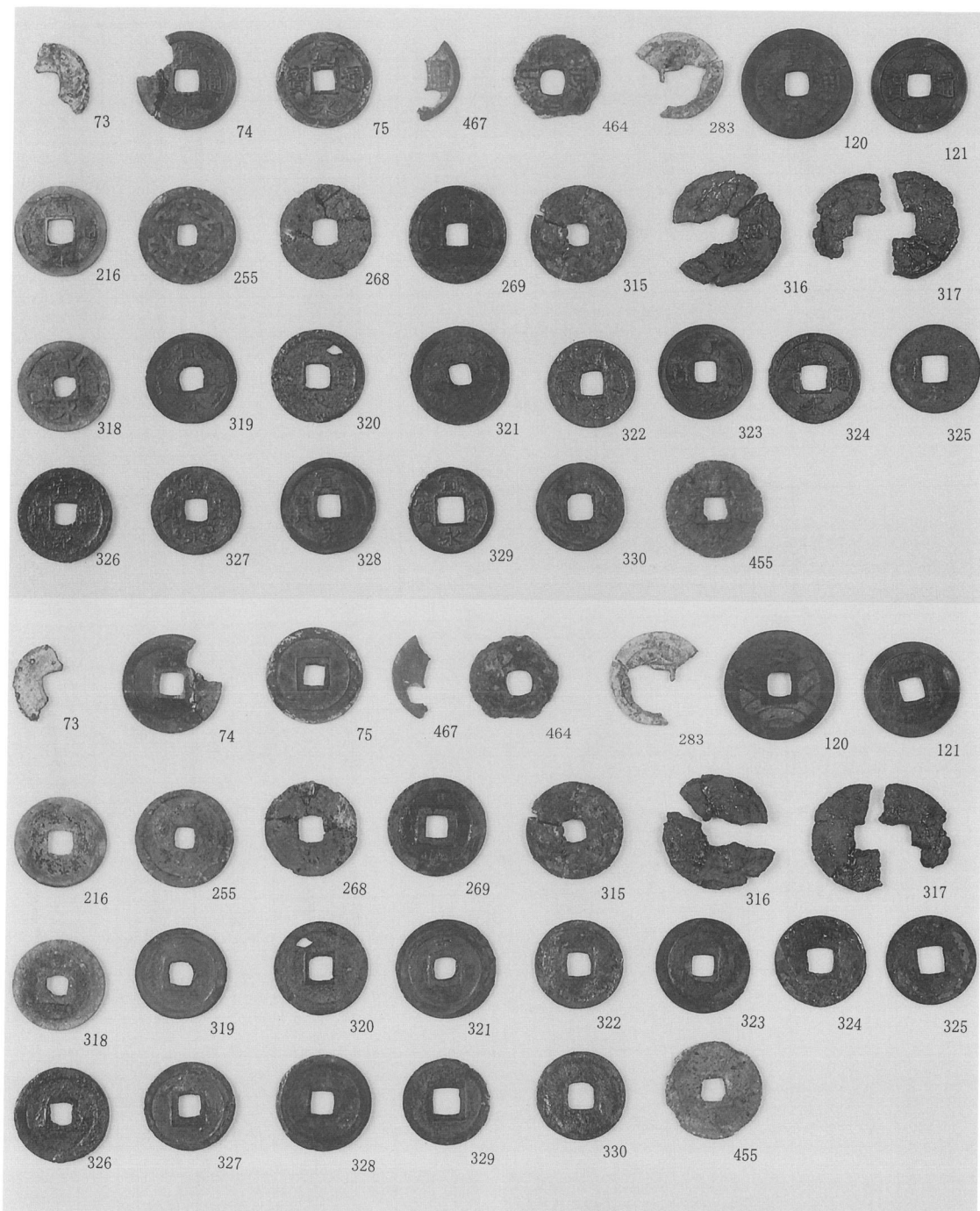


近世陶器 前山(4)

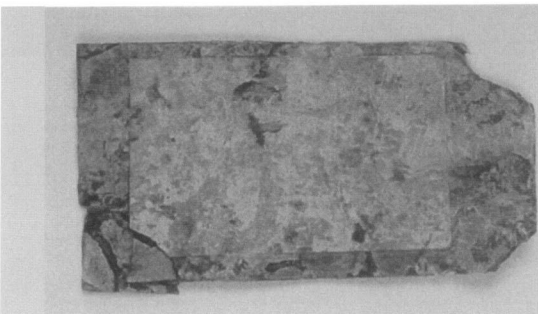
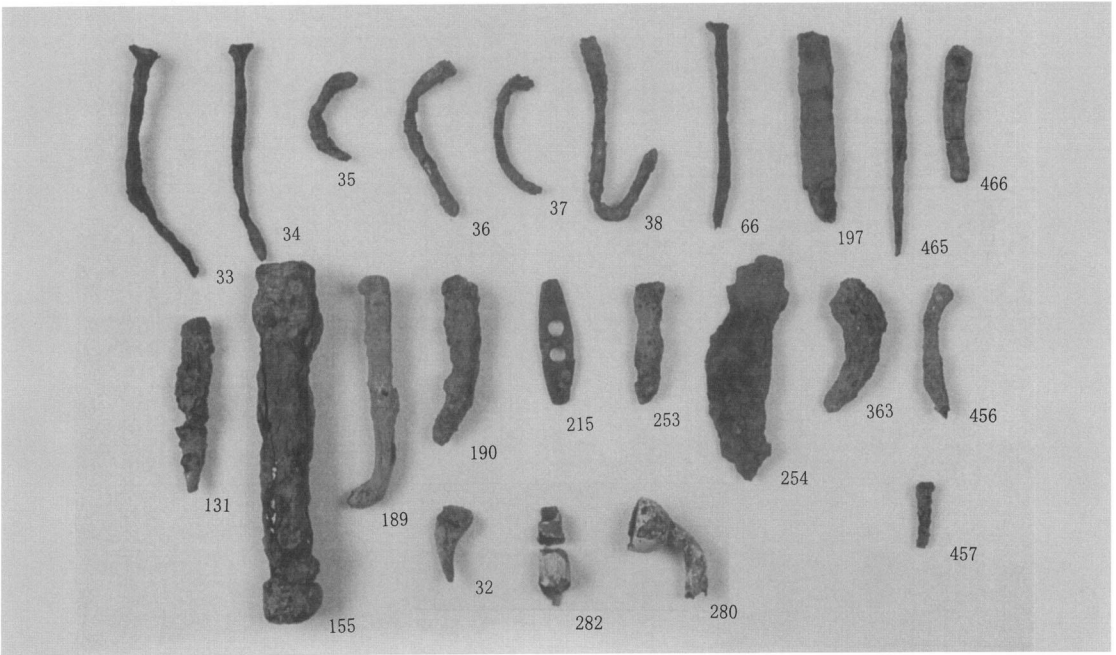
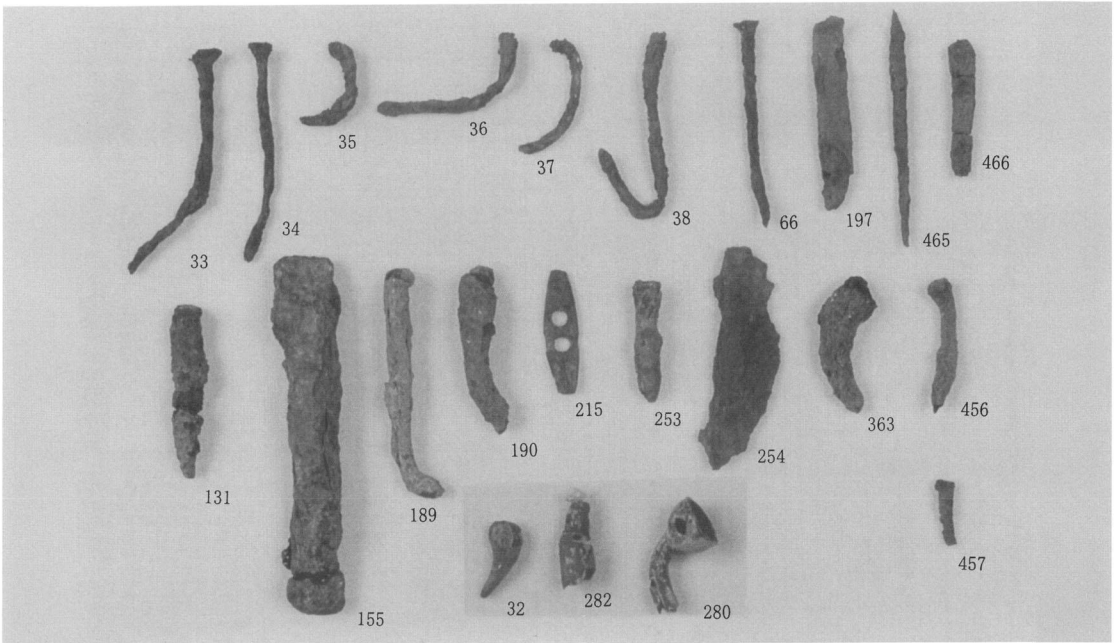


近世陶器 前山 (5) ; 近代陶磁器 (1)

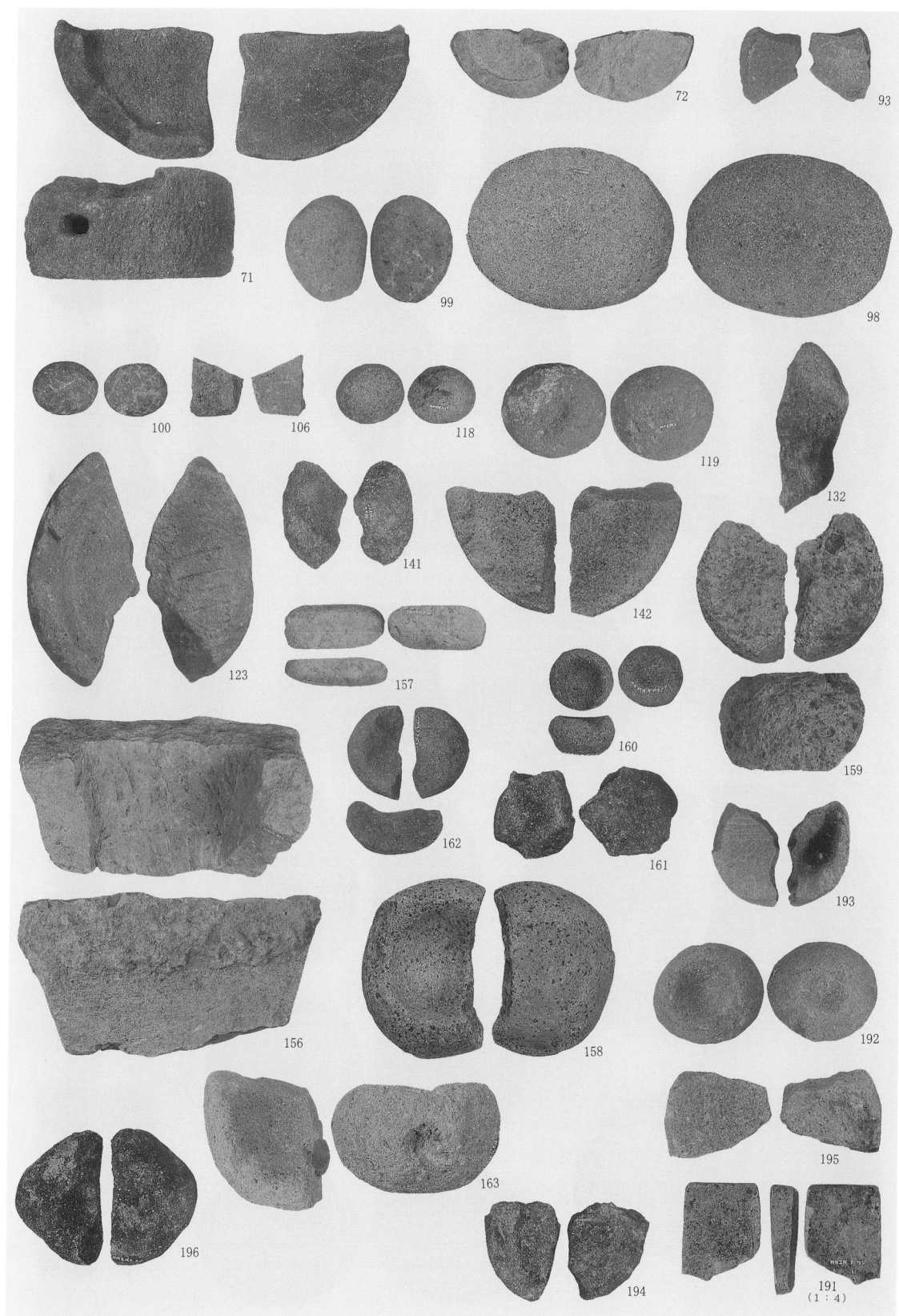




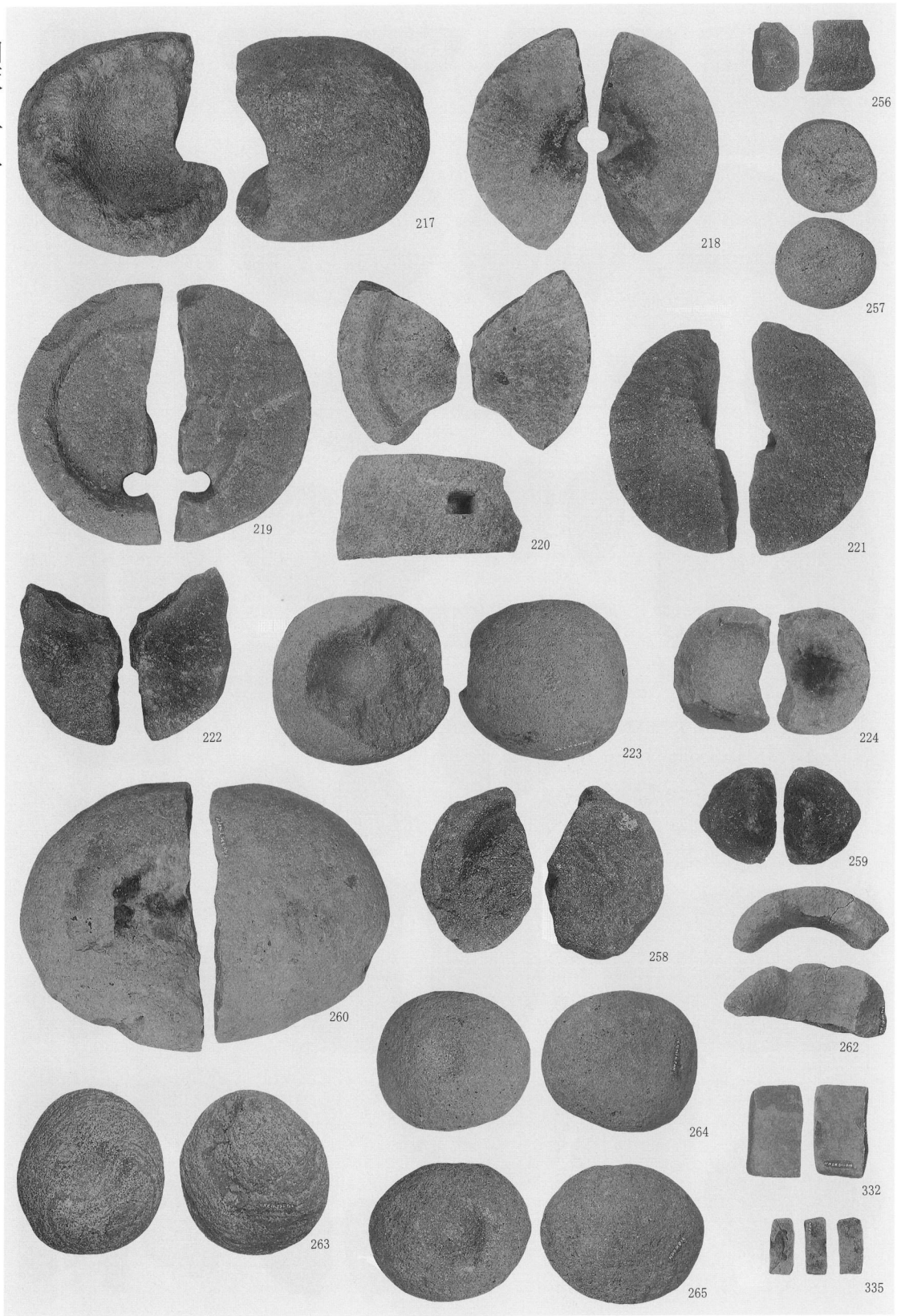
古銭 (約 1 : 1)



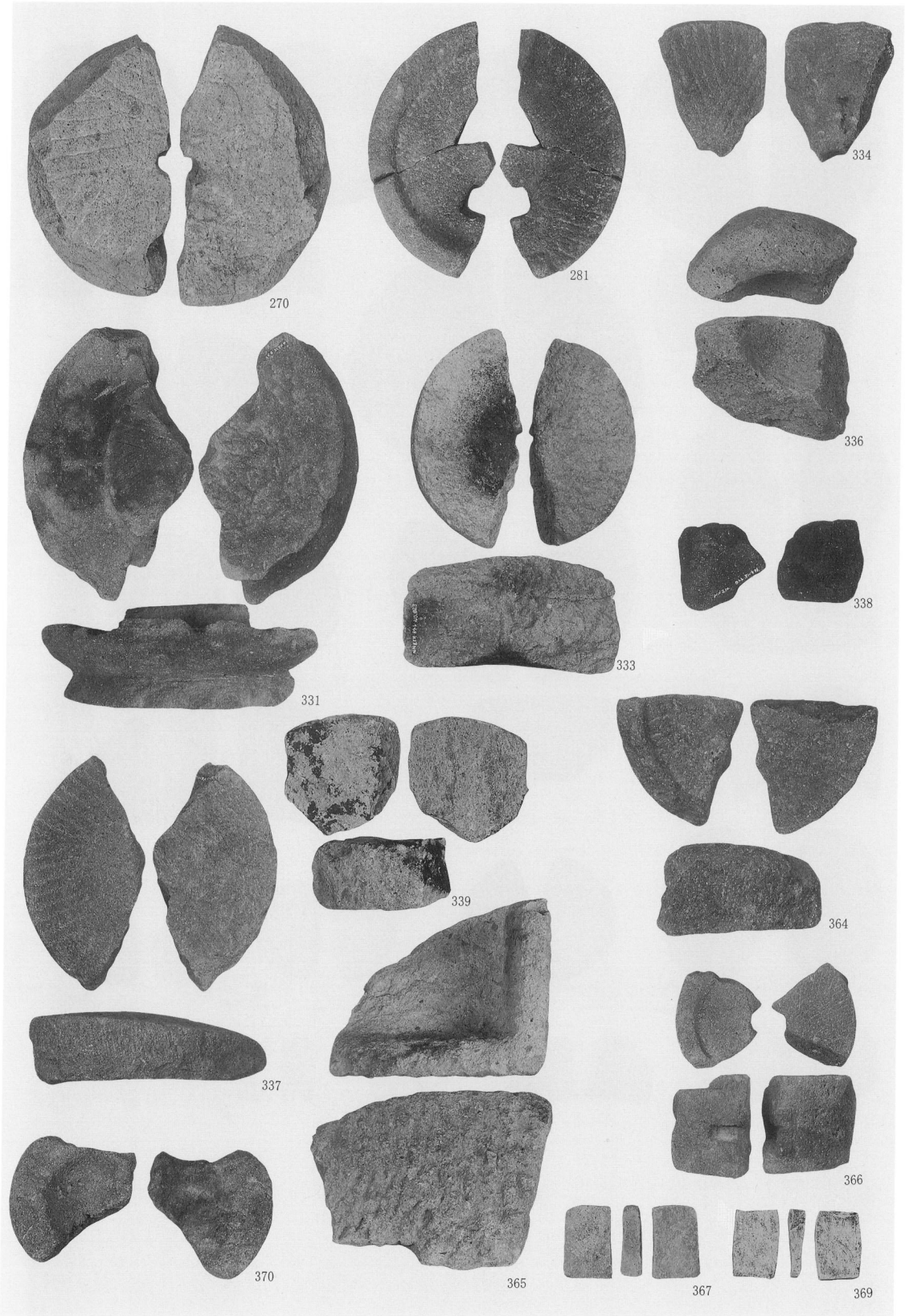
鉄製品・青銅製品 (約 1 : 2)



石製品 (1)



石製品 (2)



石製品 (3)

報告書抄録

ふりがな	のざわかんせき はち・きゅう・じゅう
書名	野沢館跡 VIII・IX・X
巻次シリーズ名	佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第153集
編著者名	森泉かよ子
編集機関	佐久市教育委員会文化財課
発行機関	佐久市教育委員会文化財課
発行年月日	200803
郵便番号	3850006
住所	長野県佐久市志賀5653
ふりがな	のざわかんせき はち・きゅう・じゅう
遺跡名	野沢館跡VIII・IX・X
ふりがな	ながのけんさくししもきど・いやしき
遺跡所在地	長野県佐久市下木戸・居屋敷
市町村コード	20217
遺跡番号	425-1
北緯	361315-361328
東経	1382810-1382827
調査期間	20050721-200803
調査面積	491m ²
調査原因	緊急地方道路整備事業-取出中央線-(佐久市野沢本町)
種別	中世城郭・近世街道沿い民家
主な時代	中世・近世
遺跡の概要	城郭-中世-堀+竪穴状遺構+土坑+ピット-青磁+古瀬戸+大窯+かわらけ+内耳+石製品 街道沿い民家-近世-竪穴状遺構+土坑+ピット+暗渠-伊万里+瀬戸・美濃+前山+火鉢+ほうろく+石製品+金属製品-近代陶磁器

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第153集

野沢館跡Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ

—長野県佐久市野沢字下木戸・居屋敷野沢館跡Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ発掘調査報告書—

2008年3月

編集・発行 佐久市教育委員会
〒385-8501 長野県佐久市中込3056
文化財課
〒385-0006 長野県佐久市志賀5953
TEL 0267-68-7321

印刷所 キクハラインク有限公司
